

第七十四回帝國議會
衆議院

船舶建造融資補給及損失補償法案外二件委員會會議錄(速記)第五回

付託議案
船舶建造融資補給及損失補償法案
(政府提出)
海運組合法案(政府提出)
造船事業法案(政府提出)

會議

昭和十四年三月十七日(金曜日)午後一時二十
十六分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 野田文一郎君

理事中川 重春君 理事木原 七郎君

理事田中源三郎君

山本 厚三君

高木条太郎君

板谷 順助君

紅露 昭君

米窪 滿亮君

出席國務大臣左ノ如シ

司法大臣兼遞信大臣 鹽野 季彦君

出席政府委員左ノ如シ

企畫院總裁 青木 一男君

內務政務次官 漢那 憲和君

大藏省主稅局長 大矢半次郎君

文部政務次官 小柳 牧衛君

文部省實業學務局長 小笠原豐光君

遞信政務次官 平川松太郎君

遞信參與官 上田 孝吉君

遞信省管船局長 伊勢谷次郎君

保險院長官 進藤 誠一君

委員長ノ許可ヲ得テ出席シタル者左ノ如
シ

海軍中佐 藤尾 勝夫君

遞信書記官 新谷寅三郎君

遞信書記官 長井 實行君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

船舶建造融資補給及損失補償法案(政府
提出)

海運組合法案(政府提出)

造船事業法案(政府提出)

○野田委員長 是ヨリ會議ヲ開キマス、企
畫院總裁ハ時間ヲオ急ギニナリマスカラ、

此ノ場合小山君ニ發言ヲ許シマスガ、企畫
院總裁ト實業學務局長トハ多分關聯事項ダ

ト思ヒマスガ、關聯シマスナラバ同時ニ御質
問願ヒタイ、ソレカラ若シ事柄ガ違ヒマス

レバ企畫院總裁ニ對スル質問ダケニ止メテ
貰ヒタイ——小山亮君

○小山委員 企畫院總裁ニ伺ヒタイコトハ
船員ノ問題デアリマス、文部省、遞信省ノ

先般來ノ說明ヲ聽イテ居リマスノニ、船員
ノ擴充計畫ニ對スル具體案ハ企畫院デオ立

テニナツテ居ルコトガ基準ニナツテ居ルヤ

ウニ聽イテ居リマス、企畫院ノ交通部ノ方

ニ參リマシテ、船員ガ現狀ノ儘デハ到底需
要ニ應ジ切れナイト云フコトヲ數回ニ互ツ

テ私ハ懇談ヲシテ居ルノデアリマスケレド

モ、本年現ハレマシタ公立商船學校ノ生徒

募集ノ實情ヲ見マスルト、公立ガ官立ニナ

リマシタ四校ハ生徒ノ募集數ハ増加シテ居
リマスケレドモ、公立ノ儘ニ殘サレテ居リ

マスル所ノ三校——四校ノ中一校ハ遞信省

ノ方ニ移管サレマスカラ三校デアリマスガ、

三校ハ依然トシテ從來ノヤウニ四十名ノ募

集計畫ニナツテ居ルノデアリマス、サウシ

マスルト、政府ガ今マデ當議會ヲ通ジテ私

共ニ說明サレマシタ所ノ說明トハ全ク食違

ツテ居ツテ、ロデハ政府ハ如何ニモ船員ノ

數ヲ殖ヤサナケレバ需要ニ應ジ切れスト言

ヒツツヤツテ居リマスルガ、事實ハ全ク之

ト云フコトニナルナラバ、果シテ是ダケノ

莫大ナ船ハ外國ノ船員ニ依ツテ操縱サセル

御積リデアルノカドウカ、云フマデモナク

是ハ日本人ガ日本ノ船舶ヲ操縱シナケレバ

ナラスト云フコトハ分リ切ツテ居ルノデア

リマスガ故ニ、ドウシテ此ノ船員ノ擴充計

畫ト云フコトヲ眞劍ニオヤリニナラナイノ

デアリマスカ、企畫院ニハサウ云フコトニ

對シテオ分リニナル方ガ居ラナイカラ隨デ

出來ナイト云フノデアリマスカ、ソレトモ

實情ヲ十分御調査ナサツテ居ツテ、確タル

基礎ガアルカラ從來ノ儘デ船員ガ足りナク

テモヤツテ行カレルト云フ御自信ガオ有リ

ニナルノデアリマスカ、ソレヲ伺ヒタイノ

デアリマス

○青木政府委員 將來ノ海運政策ト致シマ

シテ相當大規模ナ新船建造ヲ繼續シマシテ、

將來有力ナ商船隊ヲ作ル、此ノ計畫ハ御承

知ノ通り政府ノ生産力擴充計畫ノ中ニ織込

ンデアルノデアリマス、之ヲ動カシテ行キ

マスル海員ノ充實ニ付キマシテハ勿論是ハ

官立高等商船學校、官立商船學校其ノ他デ政府ノ計畫シテ居リマスル海運ノ擴張計畫ニ應ズルダケノ海員ハ出來ルト云フ大體ノ見透シノ下ニ、人的物的方面ノ擴充計畫ハ揃ツテ行ツテ居ル積リナノデアリマス、併シ海員ノ現狀其ノ他ニ付キマシテハ關係當局ト協力致シマシテ色々調ベテ居ルコトモアリマス、之ニ基イテ此ノ方面ノ將來ノ需給關係ハ一層綿密ナ計畫ヲ立テタイト思ヒマスガ、現在ニ於キマシテモ出來ルダケノ見透シハ付ケテ不足ノナイコトヲ期シテ居ル次第デアリマス

○小山委員 企畫院總裁ノ仰シヤルコトハ實際トハ全ク反對ナコトナノデアリマス、逓信省モ文部省モ企畫院トドウ御打合せニナツタカ知リマセスガ、船員ノ擴充計畫ナント云フモノハ根本的ニハ何モナイ言ツテ差支ナイ位デアリマス、現實ニ於テ昨年度竣工シマシタ船ハ百六隻、サウシテ今年モ同ジ位ノ噸數ノ船ガ竣工シマス、サウシマスト百隻ノ船ニハ八百人ノ船員ガ新シク要ルノデアリマス、然ルニ官公立ノ商船學校ヲ通ジテ出マスル卒業生ノ數ハ四百八十名乃至五百名デス、現在船ニ乗ツテ居リマスル所ノ高級船員、主トシテ海上ニ於テ仕事ヲシテ居リマスル者ダケデ九千七百

人居リマス、サウシテ又ソレダケノ船舶ヲ操縦スル乗員ニ對スル豫備員ガドノ位要ルカト言ヘバ其ノ三割ヲ必要トスル、三割ナケレバ十分ニ船ニ乗ル人ヲ繰替ヘテ配船スルコトガ出來ナイノデアリマス、海員ニ休養ヲ與ヘ、次第ニ交替サセテ乗船サセル爲ニハ一万二千人ノ海員ハドウシテモ必要ダ、其ノ外ニ陸上ニ於テハ船會社或ハ其ノ他ノ運送店デアルトカ、或ハ埠頭デアルトカ、サウ云フ所ニヤハリ實務ニ明ルイ船員ヲ必要トスルノデアリマス、現在陸上ニ働イテ居リマス船員ハ大體ニ於テ三千人バカリ居マス、隨テ船ヲ圓滑ニ運用サセルニハドウシテモ一万ノ海員ト其ノ三割ノ豫備員ト三千人ノ陸上員トガナケレバ現在ノ千噸以上ノ船四百五十萬噸、千噸以下百五十萬噸ノ船ヲ合セテ六百萬噸近イ船舶ヲ運用スルコトハ出來ナイ、是ハ絕對ニ必要デアリマス、ソレカラ毎年老齡或ハ病氣ニ依ツテ減少スル數、或ハ遭難ナドニ依ツテ消耗シテ參ル數ガ六百人アリマス、ソコヘ學校カラ出テ來ル者ガ四百八十人、實地ヨリ上ツテ來ル者ヲ合セテ六百人トスレバ、六百人減少スル所ヘ六百人殖ヤシタ所デ現狀ニ於テハ一人モ殖エマセヌ、併シ船ハ毎年百六隻或ハ百十隻位殖エル、是ハ現實ニ於

テ殖エテ居ル、ダカラ今ドウ云フ結果ヲ來シテ居ルカト云フト、今マデ陸上ニ上ツテ退職シテ休ンデ居ル船員ヲ、唯免狀サヘ持ツテ居レバ宜イト云フノデ持出シテ居ル、ソレ故ニ先達テ八十歳ニナル老船長、文久三年ニ生レタ老船長ガ持出サレテ船ニ乗ツテ居ル事實ガアリマス、「ブリッジ」ニモ上ガレナイ人デス、「ボーイ」ガ「ブリッジ」ニ連レテ行ツテ眼鏡ヲ掛ケテヤツテモ前ガ見エナイト云フ老船長マデ動員サレテ乗ツテ居ルノデス(笑聲)實際デス、笑ヒ事デハナイノデス、コンナ船員ニ船ヲドン／＼操縦サセタナラバ、逓信省ガ何億ト云フ金ヲ融資シテドン／＼船ヲ造ラセヨウトナサルノデアリマスガ、ソナ貴重ナ船ガ片ツ端カラ、沈没サセラレル結果ニナル、新シク造ツタ船ヲドン／＼衝突サシテ片ツ端カラ壊シテ、ドウシテ増産計畫ナドガ出來マスカ、新式ノ船ハ極メテ優秀ナ船員デナケレバ操縦スルコトガ出來ナイ、隨テ船員ハドウシテモ新陳代謝ト云フコトハ免レナイ、新ナ優秀ノ船員ガドン／＼出テ來デ、其ノ優秀船ノ操縦ニ當ルト云フコトデナケレバ船ハ動カナイ、現ニ今マデノ「スチーム・エンジン」時代ノ「エンジン」ハ「ディゼル・エンジン」ニナツテ「モーター・シップ」ニナ

ツタラ、ソレニ乗セテモ其ノ「モーター・シップ」ヲ操縦スル技術ヲ持つテ居ラナイ、サウ云フ技術ハ學ンデ居ナイカラ、ソレハ悉ク失業シナケレバナラスト云フコトニナルノデアリマス、新式ノ船ガ出來テ來レバ、古い技術ヲ修得シタ人々ハ段々淘汰サレテ來ルノハ免カレナイ、唯數字ダケヲ考ヘテ數字ダケ間ニ合ツテ居ルカラソレデ宜イ、船員ノ年齡ハ幾ツデアツテモ構ハナイト云フヤウナコトデ、是カラノ海運國策ニ對シテ、之ヲ飛躍サセル所ノ人的資材ヲ十分ニアナタ方ハ養成スルコトガ出來ルト思フカドウカ、企畫院總裁ガ現狀ニ於テモ將來ニ於テモ十分間ニ合ラヤウニ生産物擴充計畫ニ連レテ、物資動員計畫ニ連レテドン／＼間違ヒナク行ツテ居ルト云フ風ナコトヲ仰シヤルコトハ、實ニ國民ヲ侮辱スルノ甚ダシイモノデアルト私ハ思フ、企畫院總裁ノ仰シヤルコトハ眞赤ノ偽リデアリマス、之ニ對スル所ノ準備ハ少シモ出來テ居リマセヌ、現ニ毎年毎年八百人ノ船員ガ不足スルノドウシマスカ、今後出テ來ル船員ハ六年經タナケレバ出テ來ナイ、サウスレバ是カラ毎年々々八百人ツ不足シマス、サウシテ六年間ニハ六八、四千八百人不足スル、此ノ船員ノ不足ヲドウシテ補充スルコトガ出來マスカ、何モソレニ對

スル計畫ハナイ、ソレナラバ六年後ニハド
レダケノ船員ガ養成サレルカト云ヘバ、今
回文部省デ御執ニナツタ態度ヲ見ルト、從
來ノ公立商船學校ヲ官立ニ昇格サセタ、其
ノ昇格シタ學校ニハ一校ニ對シテ二十五人
ヅツノ生徒ヲ殖ヤシテ百人殖シタダケナ
デス、殘ツタ公立ノ商船學校ハ依然トシテ

昔ノ儘ノ四十人シカ募集サレテ居リマセヌ
本當ニ海員ヲ飛躍的ニ充實サセヨウトスル
ナラバ、官立ニシタ學校モ公立デ殘ツタ學
校モ、全部殖シテ差支ガナイデハナイデス
カ、全部倍位ニシナケレバ間ニ合ハナイノ
ニモ拘ラズ、官立ニシタ學校ニダケ唯一校
二十五名ヅツ百人、即チ全國デ百人殖ヤシ
タダケナノデス、サウシテ今アナタノ仰シ
ヤルヤウナ此ノ龐大ナル生産物擴充計畫ト
併行シテ、人的要素モ是デ十分ニ間ニ合フ
ヤウニ各省トモヤツテ居ルノダト云フヤウ
ナコトハ、實ニ國民ヲ欺クモ甚シイ言葉ダ
ト私ハ思フ、能ク實情ヲ御調査ヲ願ヒタイ
アナタノ仰シヤルコトハ、アナタノ計畫シ
テ居ラレルコトト全ク反對ノ結果ヲ來シテ
居ルト云フコトヲ、能ク御認識願ツテ、國
家ノ爲ニドウカ一ツ——議會サヘ何トカシ
テ通過スレバ宜イト云フヤウナ、ソシナ考
デナシニ、本當ニ眞劍ニ——私ノ言フコト

ハ嘘デハナイノデス、各省ノ方ガ此處ニ居
ラレルノデスカラ、本當ニドウカ一ツ相談
ヲシテ、此ノ委員會ノアル内ニ、之ニ對ス
ル適當ナ對策ヲ立テルコトノ具體的ナ御答
ヲ願ヒタイノデス、之ニ對スル企畫院總裁
ノ御答辯ヲ私ハ要求シマス

○青木政府委員 小山サンハ色々經驗ノ深
イ方デアラレルノデ、御研究ノ點ハ私共モ
十分拜聽致シテ置ク積リデアリマス、政府
ノ關係方面ニ於テ計算シテ居ルモノト、數
字的ニ或ハ多少違フ點ガアルカト思ヒマス
ガ、併シ何レニシマシテモ、人ニ付テハ私
ハアナタノ言ハレテ居ル所ト少シモ違ハナ
イ、詰リ船舶ノ建造計畫ノ進捗ニ件ヒマシ
テ、船員ガ之ニ伴ハナケレバナラヌト云フ
コトハ、是ハ論ヲ俟タナイ、唯現在ノ海員
ノ需給狀況、或ハ將來ノ需給狀況ニ付テノ
數字の根據ニ付テハ、尙ホ私共モモウ一遍
調査ヲ能クヤツテ、將來ノ情勢ニ副フヤウ
ニ善處スル考デ居リマス

○小山委員 私ノ調査ト政府ノ調査ト違フ
譯ハナイノデス、私ハ政府ノ調査ヲ基準ニ
シテ言ツテ居ル譯デアリマスカラ、私ノ調
査ト政府ノ調査ト違フ譯ハナイ、唯違ツテ
居ルコトハ、一番船ノコトヲ知ラナケレバ
ナラヌヤウナ管船局ノ方ガ、船ノコトヲ能

ク御承知ニナラヌト云フ悲シムベキ事實ナ
ノデス、最モ知ツテ居ラナケレバナラヌ所
ノ管船局ナドニ、船ノコトヲ話シテモ分ラ
ナイ人バカリ居ラレル、甚ダ是ハ殘念ナコ
トナノデス、海事教育ノ一番重責ニ當ラレ
ル所ノ實業學務局長ノ如キハ、船ノコトナ
ド少シモ御承知ニナラナイ、文部省モ知ラ
ナケレバ、逓信省モ知ラナイノデス、サウ
シテ吾々ガ多年ノ體驗ニ基イテ事實ヲ懇ヘ
テ居ツテモ、官廳ノ調査ノ方デハ、唯机ノ
上デヤツタ紙ノ上ノ數字計畫ガ正シイト考
シテ此ノ飛躍セントスル日本ノ海運界ノ將
來ニ對スル所ノ人的要素ヲ充實サセルト云
フコトガ出來マスカ、管船局ノ中ニハ有數
ノ逓信省ノ事務、或ハ通信事務ヤ其ノ他ニ
明ルイ方ガ居ラレルノデアリマセウガ、船
ノコトニハ何等ノ體驗ノナイ人ナノデス、
進ンデ調査ヲシヨウトモシナイノデス、管
船局ニ船舶ノコトノ事務ヲ掌ラレル方ハ、
其ノ船ノ方ノコトニ關シテ一年ヤ二年位其
ノ實務ニ就イテ、其ノ實情ヲ能ク御調査ナ
サツタ方、其ノ仕事ヲナサツタ方ガ其
ノ位地ニ就イテ居ラレルナラ間違ナ
イ、唯洋服ヲ著テ船主ヤ船員ヲ睨ミ付ケテ
居リサヘスレバ、ソレデ以テ今マデハ仕事

ガ出來タカモ知レマセヌケレドモ、是カ
ラハ出來ヤシマセヌ、今マデノ資本主義
經濟時代ハ、生産ハ民間ガヤツタノデスカ
ラ、官吏ト云フモノハ其ノ企畫カラ逸脱シ
ナイヤウニ監視ヲシテ居レバ官吏ノ役割ハ
濟ンダカモ知レマセヌガ、是カラ企畫經濟、
或ハ統制經濟機構、サウ云ツタ新シイ經濟
機構ニナルナラバ、官吏ハ生産機構ノ第一
線ニ立ツテ指導シナケレバナラス、サウシ
タ場合、今マデノヤウナ考ヘ方デ、六法全
書ト首引デ、今マデノ古イ仕來リ企畫ダケ
ヲ追ツテ居ツテ、サウシテ民間ヲ上カラ睨
ミ付ケテ、給料ヲ貰ツテ居ツタヤウナコト
デハ、日本ノ産業ハ飛躍シナイコトハ明瞭
デアル、産業ノ第一線ニ立ツテ、自分ガ其
ノ産業ヲ身ヲ以テ指導スルト云フヤウナ建
前ニ立タナケレバ、是カラノ世ノ中ニハ處
シテ行カレナイト私ハ思フ、私ハ是ハ政府
ノ數字ニ基イテ言ツテ居ルノデアツテ、私
ノ此ノ數字ト政府ノ數字ト違フ譯ハナイト
思フ、唯政府ガ實情ニ暗イガ故ニ、吾々ハ
事實ヲ懇ヘテアナタ方ト膝詰デ御相談ヲシ
ヨウト考ヘテ居ル、デアリマスカラ、企畫
院總裁ハ生産物擴充計畫ト云フモノニ對シ
テハ、絶對的ノ責任ヲ御持チニナラナケレ
バナラヌト思フ、隨テ船員ノ養成ト云フコ

トニ關シマシテハ、飛躍的ナ造船計畫ヲ御立デニナルニ伴レテ、ヤハリドウシタラ船員ヲ擴充スルコトガ出來ルカト云フ風ニ、モット眞摯ニ事實ニ付テ生キタ案ヲ、即チ紙ノ上ヤ机ノ上ノ案ダケデハナシニ、誰デモ納得ノ出來ル生キタ案ヲ國家ノ爲ニ立テテ戴キタイト云フコトヲ要求スル、私ノ言ツ

テ居ル此ノ數字、是ハ繰返シテ申スヤウニ政府ノ數字トハ何ニモ違フ譯ハナイ、ヤハリ一人ノモノヲ一、十人ノモノヲ十ト勘定シテ居ルノデアアル、併シナガラ政府ノ紙ノ上、机ノ上ノ計畫案ナルモノハ、八十歳ノ船長デモ動ケル船長トシテ勘定シテ居ル、私ノハサウ云フ八十歳ノ船長ハ動ケナイモノトシテ計算ニ入レテ居ラナイ、是ダケノ違ヒデアアル、ドウカ此ノ點ニ對シテ篤ト御研究ヲ願ヒタイト思ヒマス

○青木政府委員 諒承致シマシタ

○板谷委員 一寸關聯シマシテ……、只今小山君カラ海員ノ問題ニ付テ御話ガアツタノデアリマスガ、將來ニ對スル研究調査ト云フコトハ勿論必要デアリマスガ、現實ノ問題トシテ、先般モ此ノ委員會會話ガアツタノデアリマスガ、本年百四十六隻出來ル、ソレデ學校カラ出ル者ヲ差引キマシテモ、本年出來ル船デスラモ五百人足りナイ、此

ノ點ニ付テ確信ガアルトカ、或ハ出來ルダケソレニ副フヤウニヤルトカ云フコトデアアルガ、若シ之ニ對スル政府當局ニ確信ガアルナラバ、數字ヲ以テ示シテ戴キタイト、ソレカラ物動計畫ニ伴フ船舶ノ建造ガ御承知ノ通り、十四年度カラ十六年度マデニ二百万噸、是ハ遞信當局ト企畫院トノ打合せノ結果デアアル、斯ウ信ジテ居ルノデアリマス

ガ、先般遞信大臣ハ萬難ヲ排シテモ軍備ト並行シテヤル意思ガアルト云フ御話デアツタノデアリマス、所ガ私共ハ之ニ伴フ海員ハ勿論デアリマスガ、資材ニ於キマシテモ非常ニ缺乏シテ、或ハ之ニ對スル供給ガドウカト云フ懸念ヲ持ツテ居ルノデアリマスガ企畫院總裁ハ此ノ二百万噸、本年ノ造船ノ平均カラシマスレバ六十五萬噸、七十萬噸デアリマスガ、ソレニ對スル資材ノ配給ハ確ニ出來ル、斯ウ云フ確信ヲ御持チニナツテ居ルノデアリマスガ、其ノ點ヲ一ツ伺ツテ置キマス

○青木政府委員 先ヅ第二ノ問題ニ付テ御答致シマスガ、此ノ造船計畫ニ付キマシテハ、申スマデモナク相當數ノ鐵材其ノ他ノ資材ヲ要スルノデアリマス、十四年度ノ物資動員計畫ハ只今編成中デアリマシテ、大體今月一パイ掛ルト思フノデアリマスガ、此ノ十四年度ノ物動計畫ノ特徵トシテハ、

生産力擴充計畫ノ實行ニ必要ナル資材ニ重點ヲ置イテ之ヲ立案シタイト云フ考デ進ンデ居リマス、隨ヒマシテ造船計畫等ニ要スル資材モ之ニ織込ンデ、供給ニ支障ナイコトヲ期シテ居ル次第デアリマス、ソレカラ船員ノ補充ニ關スル數字ハ一寸私ハ持ツテ居リマセヌカラ……

○板谷委員 ソレハ後デモ宜シウゴザイマス——私ハ是デ宜シウゴザイマス

○小林委員 企畫院總裁ニ念ノ爲ニ御尋致シマス、支那海ニ於ケル海運新會社ノ計畫案ハ、今日企畫院ノ手許デ取扱ツテ居ラレルト云フコトデアリマスガ、何時頃成立スルヤウナ手順ニ相成ルノデアアルカ、是ハ過日來屢、申上ゲタ通り日本航權確立ノ爲迅速ニ設立シテ敏活ナル働ヲ爲サシメナケレバナラス緊急ノ狀態ニ今日ハアルノデアリマス、マダ目鼻ガ付カヌト云フコトハ洵ニ不可解デアリマスガ、如何デアリマス

○青木政府委員 支那ニ關スル經濟ノ問題ハ、從來私ノ方デ關係シテ居ツタノデアリマスガ、興亞院ガ出來マシテカラ向フ方ニ移ツテ、只今興亞院ノ所管トシテ扱ツテ居ル譯デアリマス

○小林委員 企畫院ノ御取扱デハナイノデスカ、企畫院ノ御取扱ノヤウニ思ツテ居リ

マスガ、是ハ此ノ間遞信大臣モ企畫院ノ取扱ノヤウナ御話デアツタヤウニ記憶シマスシ、昨日興亞院總務長官ノ見エマシタ時モ、ソレハ早クシナケレバナラスト思ヒマスガ、自分ノ直接ノ管掌デヤナイト云フヤウナ御話ノヤウニ承ツタノデスガ、何カ思ヒ違ヒデヤアリマセヌカ

○青木政府委員 勿論遞信省ガ主務省トシテヤツテ居ラレルノデアリスガ、支那ニ關スルト云フ點ニ於テ興亞院ノ所管ニナルノデアリマス、勿論企畫院モ干與ハ致シマスガ、主務官廳トシテハ私ノ方デハアリマセヌ

○小林委員 ドウモソコニ政府ノ内部ニ手違ガアルノデヤナイデセウカ、方針ノ決定シタ事項ヲ早く進メテ行カナケレバナラスノガ遷延ヲ重ネテ其ノ儘ニナツテ居ル、サウシテソレハ今日企畫院デ停頓シテ居ルノダト云フコトヲ聞イテ居ルノデスガ、其ノ企畫院ノ停頓ノ理由トシテハ、興亞院ト云フ新シイ役所デ出來タ結果、支那ニ關係スル事柄ダカラ興亞院ニモ一應相談ヲシナケレバナラスガ案其ノモノハ現在企畫院デ再檢討シ、企畫院ノ組上デイジクリ廻サレテ居ルノダト云フコトヲ聞イテ居ルノデスガ、サウデハナイデスカ

○青木政府委員

ソレハサウデハナイノデアリマス、從來興亞院ガ出來ルマデハ企畫院ニソレニ代ルベキ機關ガアリマシテ所管シテ居ツタノデアリマスガ、興亞院ガ出來マシテカラ支那ニ關スル經濟問題ヲ一括シテ興亞院所管ニナツテ居ル、斯ウ云フ實情ノ何カノ誤傳ダラウト思ヒマス

○小林委員

遞信大臣ハ此ノ間企畫院ノ手許ニ現在アルト私ノ質問ニ御答ノヤウニ聽キマシタガ、如何デゴザイマスカ

○鹽野國務大臣

昨年ノ暮ニ、支那海ニ於ケル海運ヲ統一シタル會社ヲ作ルト云フ方針ガ決ツタノデアリマスガ、爾來遞信當局及ビ關係船會社ニ於テ具體的ニ研究ヲ進メ、各出資スベキ現物ノ評價等ニ付テモ委員ヲ定メテ現地ニ派遣シ、是ガ調査ヲ進メテ居ツタノデアリマス、隨テ會社設立ノ準備行爲ハ相當ノ時日ヲ要スルノデアリマス、現物評價トカ云フ點ガアリマス爲ニ漸次遅レテ居リマスルガ、大體調査ハ済シテ相當ノ案ヲ組ンデ、之ヲ興亞院ニ協議ヲ致シテ居ル最中デアリマス、前回ニ於キマシテ私ハ興亞院ト云フ言葉ヲ使ツタカモ知レマセス、其ノ點ハ御諒承ヲ願ヒマス

○小林委員

ソレハマアソレデ宜イデス

ガ、結局此ノ新社會ノコトハ遞信省ト興亞院ト交渉シテ居ルノデアリマスカ

○鹽野國務大臣

其ノ通りデゴザイマス

○小林委員

サウスルト此ノ會社ガ出來マスレバ、ヤハリ遞信省ノ監督ノ下ニ成立スルノデアリマスカ

○鹽野國務大臣

遞信省ノ監督デゴザイマス

○小林委員

昨月興亞院總務長官ハ自分ノ關係デナイヤウナ口吻デアツテ、ソレハ早くシナケレバナラスト思ヒマスガ——ト云フヤウナ、恰モ人ノ事ヲ言ウテ居ルヤウナ御話ニ承ツタノデスガ、是ハ政府部内ノ行政上ノ不統一ト申シテモ宜イト思ヒマス、併シソシナコトハ今更追究致シマセス、一ツ是ハ早く設立シナケレバイカスノデ、遞信大臣ハ此ノ間企畫院ノ方ニ請求シテト云フヤウナ御話デシタガ、何時此ノ會社ヲ設立スルヤウナ手順ニ相成ルノデアリマスカ

○鹽野國務大臣

會社ノ設立要綱ヲ決メマシテ、之ヲ興亞院ニ提出シテ協議中デゴザイマス、要スルニ長江筋ノ航路モゴザイマス、又支那沿岸ノ航路モゴザイマスカラ、興亞院ニ協議ヲ致シマシテ、是モサウ時間ハ掛ラナイ見込デ居リマス、又掛ラレデハ困ルト思ツテ遞信省ハ大ニ請求ヲ致シテ居

リマス

○中川委員

内務政務次官ガ出デニナツテ居リマスガ、私カラ昨日ノ速記録ヲ御手許ヘ御廻シテ御答辯願フヤウニ御願シテアリマスガ、御覽下サイマシタカ

○野田委員長

只今小山君ノ御質疑中デアリマスガ、中川君カラ前ニ質疑セラレテ、ソレニ對スル答辯ヲ保留シテアリマスカラ、此ノ場合アナタニ對スル答辯ヲ求メルコトニ致シマス

○漢那政府委員

私他ノ委員會ノ仕事ガ非常ニ忙シカッタモノデゴザイマスカラ、中川君ノ御質問ノ要旨ヲ速記録ニ依ツテ拜見スル機會ガアリマセデシタ、願クバモウ一度繰返シテ御質問願ヒタイト思ヒマス

○中川委員

ソレデハ簡單ニ要點ダケヲ申上ゲマス、秋田縣ハ我が國產石油ノ約七割ノ生産ヲ持ツテ居ルノデアリマシテ、現在發見セラレテ居ル油田ダケデモ今後數倍ノ生産量ヲ得ルコトハ決シテ遠イ將來ノコトデナイト思ヒマス、ソレデ海軍ニ於テ「パイプ・ライン」ノ設備ヲ致シマシテ——現在海軍ノ燃料ハ悉ク外油ヲ以テ補ツテ居ルノデアリマスガ、國內ニ生産スル油ヲ直接此ノ港ニ於テ補給スル計畫ヲ立テマシタナラバ、私ノ計算ニ依リマスレバ約五百万圓

程度ノモノデ宜シイデハナイカ、一万噸級ノ船ノ著ク埠頭ヲ造リ、又「パイプ・ライン」ヲ造ルコトダケデ事足リルト存ジテ居ルノデアル、貯油「タンク」ノ設備並ニ配船關係等カラ考ヘテ見マシテモ、秋田港ヲ利用スルコトハ極メテ得策ナコトデゴザイマシテ、此ノ點ニ對シテモ海軍政務次官ハ是非調査シテ適當ナ處置ヲ執ラウト云フ御答辯デアツタ、又商工省ト致シマシテモ東北振興開發ノ爲ニモ、此ノ港灣ハ内務省ノ所管デア

ルガ、自分等ノ方トシテモ其ノ必要ヲ認メテ居ルト云フ御答辯デアリマシタ、殊ニ先般建議委員會ニ於テ直接此ノ港ノコトニ付テ親シク申上ゲマシタ通り、日本海ノ舊來利用セラレテ居リマス敦賀、伏木、新潟、小樽ヲ何レノ港灣ヨリモ浦鹽斯德ニ對シテ最短距離デアリ、又滿洲ノ關門デアル羅津ノ港ニ對シテモ此ノ港ガ最短距離ノ地點ニアリマスシ、海軍、商工省ソレレ、其ノ必要ヲ認メテ調査セラレルト云フコトデアリマスノデ、御所管デアアル内務省ニ於テモ是非トモ此ノ港ニ付テモウ少シ力ヲ入レテ御調査ヲ願ヒタイ、又殊ニ漁業問題ヲ中心トシテ日「ソ」ノ間ニハ何時如何ナル事態ガ勃發スルカ測ラレヌヤウナ現狀ニアリマスノデ、單リ經濟上ノ問題ノミナラズ、軍事上

ニ於テモ重要ナ地點デアルト思ヒマス、承
リマスレバ近ク内務省ニ於テハ此ノ港ニ對
シテ誰カ御派遣ニナルヤウニモ承ツテ居リ
マスノデ、此ノ機會ニ於テ内務省ノ御所見
ヲ承ツテ置キタイ

○漢那政府委員 秋田地方ハ我國ニ於ケル
油田ノ大部分ヲ占メテ居リマシテ、國防上、
産業上非常ニ重要ナ地方デアアルコトハ只今
ノ中川君ノ御説ノ通りデゴザイマス、隨ヒ
マシテ其ノ地方カラ產出スル石油ヲ直接秋
田ノ港カラ積出スト云フコトハ、將來ドウ
シテモ實現シナケレバナラス問題デアラウ
ト思フノデアリマス、只今中川君ノ御話ノ
秋田港ト云フノハ、恐ラク船川、土崎ノ兩
港ヲ指シテ言ハレテ居ルコト思ヒマスガ、
是等ノ港ノ將來ノ改修ニ當リマシテ石油ノ
移出及ビ之ニ對スル設備ニ付テハ、當然考
ノ中ニ入レテ計畫シテ行カナケレバナラス
モノト考ヘテ居リマス

○小林委員 事變ノ爲ニ國家ニ徵用シタル
船舶ヲ出來ルダケ經濟的ニ運用シテ國內生
產擴充上必要ナル各種原材料ノ整備ヲ考慮
シテ是ガ輸送ニ協力セシメ、又ハ外國航路
ニ引上ゲ國際貸借ニ裨益セシムル爲ニ是等
船舶ノ運營ヲ民間ノ權威アル「エキスパ
ー」ヲ擢用シテ之ニ縱横ノ手腕ヲ發揮セシ

ムル意思アリヤ如何、是ハ私ノ本會議ニ於
ケル陸軍大臣ニ對スル質問デアツタノデア
リマス、併シナガラ之ニ對スル答辯ガナカ
ツタノデアリマスガ、本委員會ニ於テ改メ
テ此ノ事ヲ質疑致シマスカラ、委員長ノ方
カラ陸軍大臣ニ答辯ノアルヤウニ御取計ヲ
願ヒタイノデアリマス

○野田委員長 小林君ハ陸軍大臣ノ出席ヲ
要求セラルルコトニ歸著スルノデスナ

○小林委員 サウデアリマス

○野田委員長 諒承致シマシタ、ソレデハ
米窪君

○米窪委員 ソレデハ逕信大臣ニ御尋致シ
マス、今此ノ委員會ニ提出サレテ居ル三ツ
ノ法案ハ、海運國策ノ物の擴充ノ方面カラ
ハ極メテ重要ナル法案デアアルノデアリマシ
テ、此ノ點吾々海運ニ關係ノアル者トシテ、
此ノ法案ガ審議サレテ、更ニソレガ、制定
サレルコトハ勿論賛成スル次第デアリマス
ガ、先程來同僚ノ委員カラ度々質問ガ出テ
居ル此ノ物の資材ノ擴充ト並行シテ進マナ
ケレバナライ人の資材ニ付テハ、吾々其
ノ方面ニ多少ノ經驗知識ノアル者カラ見
テ、極メテ當局ノ施設ガ危ナツカシイノデ
ス、逕信大臣ガ御説明ニナツタト思ヒマス
ルガ、昭和十七年度末マデニ千噸以上ノ日

本ノ船舶ガ七百五十萬噸ニ達スルト云フ厖
大ナル商船隊ノ増加計畫ニ對シテ、之ヲ動
カスベキ船員ガ果シテ間ニ合フカ、此ノ點
ガ私ノ質疑ノ中心デアリマスガ、其ノ前ニ
逕信大臣ニ御尋シタイ點ハ、昨年ノ議會ニ
於キマシテ臨時船舶管理法ガ審議サレ、制
定サレテ居リマスルガ、此ノ臨時船舶管理
法ニ付テハ、此ノ委員トナツテ居リマシテ、
私其ノ他同僚ノ者カラ種々ノ質問ガアツタ
ノデアリマス、所ガ之ニ對シテ當時ノ逕信
大臣永井氏ハ、此ノ法案ヲ出スノデアルガ、
大體運賃、備船料、船價等ノ問題ニ付テハ
目下業者ノ間ニ自治的ナ統制ガ行ハレテ居
ル、所謂海運自治聯盟ト云フモノガアツテ、
ソレガ折角ヤツテ居ルカラ、暫ク其ノ海運
業者ノ自治的統制ニ委ネテ、サウシテソレ
ガ當局ノ欲スル「レート」ヨリ逸脱シタ場合
或ハ其ノ他ノ商取引デ統制ヲ加ヘナケレバ
ナラスト云フ時ニ、初メテ臨時船舶管理法ガ
行ハレルノデアアル、斯ウ云フ御答辯デアツ
テ、吾々ハ之ヲ稱シテ拔カザル床ノ間ノ寶
刀ト言ツタノデスガ、遂ニ此ノ寶刀ハ會テ
一遍モ抜カナイ、今日床ノ間ニ之ヲ飾リ付
ケテアルノデアリマシテ、管理委員會ノ如キ
モ僅ニ二回シカ開カレテ居ラナイ、而モ是ハ
形式的ニ開カレテ、是ガ死法デナイト云フ

コトヲ纔ニ裏書シテ居ル程度ノ法律ニナツ
テ居リマス、ソシナ法律ダツタラ、何デ此ノ
多忙ナル吾々ヲ動員シテ、議會デ以テ審議
シテソレヲ發布スルカト云フコトサヘモ不
思議ニ思ツタヤウナ現狀ニナツテ居ルノデ
アリマス、是ハ吾々カラ見テ、所謂自由主
義ト云フ精神ノ現ハレトハ思ヒマセヌガ、
少クトモ通商ノ自由、資本主義的自由主義、
サウ云フ觀念ガ表現サレタノデハナイカト
思ヒマス、斯ノ如ク海運業ダケハ業者ノ自
治的統制ニ委ネテ居ツタ逕信省ガ、今年ノ
議會ニ於テハ、鹽野逕信大臣ニナルヤ否
ヤ、船主ノ團體サヘモ之ヲ指導シテ、之ニ
統制ヲ加ヘテ強制組合ヲ作ラウトスル此ノ
法律ヲ出サウトシテ居ルノデアリマスルガ、
私今海運組合法案ノコトヲ言ツテ居リマス
ルガ、斯ウ云フ工合ニ僅カ一年ノ間ニ、立
法ノ動機ト言ヒマスカ、其ノ基本的ノ觀念
ト言ヒマスカ、ソレガサウ云フ工合ニ變ツ
テ來タノハドウ云フ譯デアアルカ、此ノ點ヲ
先ヅ御伺シタイト思ヒマス

○鹽野國務大臣 海運業者ノ間ニ自治的ニ
統制ヲスル聯合會ガ出來マシテ、ソレニ依
ツテ圓滿ニ進行シテ居ルノデアリマス、隨
テ拔カザル寶刀デアアル臨時船舶管理法ト云
フモノヲ實施ハ致シテ居リマセヌケレドモ、

此ノ管理法アルガ爲ニ、業者間ニ於テ自治
統制モ出來ル結果ヲ生ジテ居ルノデアリマ
ス、其ノ效果ハ相當顯著ナモノト考ヘテ居
リマス、今回ノ三法案ハ、將來ヲ考ヘ、現
狀カラ將來ニ及ブ我ガ海運界ノ發展ノ爲ニ
恆久ノ法律トシテ拵ヘルノデアリマス、其
ノ間ニ別ニ思想的ノ變遷ガアル譯デハゴザ
イマセス

○米窪委員 船舶管理法ガ實施サレテカラ
吾々度々論議スル點ハ、一方ニ於テ日本船
主協會ト云フ日本ノ全船主ノ七割程度ヲ含
ンデ居ル所ノ團體ガアリ、更ニ同ジ日本船主
協會ニ屬シテ居ル所ノ船主ガ只今申上ゲタ
海運自治聯盟ヲ作ツテ居ル、ソレデ私共カ
ラ見レバ、日本船主協會ガ強化サレレバ、
海運自治聯盟ト云フヤウナ屋上屋ヲ架スル
組織ハ必要ナイト思フノデスガ、所謂日本
船主協會ト云フ團體デハ、運賃、備船料等
ノ統制ガ取レナイ、斯ウ云フコトデ海運自
治聯盟ナルモノガ出來タト思ヒマス、所ガ
此ノ海運組合法ト云フモノガ茲ニ新ニ生レ
テ來ルコトニナレバ、日本船主協會ガ在來
ニ於テ其ノ統制力ノ足ラナカツタコトガ、
著シク此ノ法律ニ依ツテ強化サレルコトニ
ナル、サウナレバ海運自治聯盟ハ既ニ要ラ
ナイモノニナルノデハナイカ、更ニ海運集

會所ト云フモノガアリマス、是ハ其處ヘ所
謂海運業ノ備船料ヤ運賃ヲ持寄ツテヤル交
換所ミタヤウナ所デアリマスルガ、斯ウ云
ツタ海運集會所ト云フモノノ必要モナクナ
ルト思ヒマスルガ、此ノ點ハ遞信當局トシ
テハ、此ノ海運自治聯盟ヲ解散スルヤウニ
御勸告ニナルノデアルカ、或ハ海運集會所

モ、君等ハ一ツ廢メタラドウカト言ハレルノ
デアルカ、之ヲ業者ノ自由ニ任シテ居ルノ
デアルカ、任シテ置ケバ屋上屋ヲ架シテ、
結局海運組合法ト云フモノヲ拵ヘタ趣旨ニ
背クノデアリマスガ、此ノ點ヲ御尋致シマ
ス
○鹽野國務大臣 海運組合法ヲ實施致シマ
ス場合ニ於テハ、從來存スル自治聯盟ノ方
面ハ自然ニ解消スル運ビニナツテ居リマス
ガ、他ノ海運集會所ノ方面ハ、漸次事情ニ
適スルヤウニ處理シタイト考ヘテ居リマス
○米窪委員 海運組合法ノ第四條ノ第二項
ニ「海運組合ハ營利目的トシテ其ノ事業
ヲ行フコトヲ得ズ」ト云フ條文ガアリマス
ルカラ、只今マデノ遞信大臣ノ御答ハ御尤
ダト思フノデアリマス、併シ私トシテハ、
成ベク船主ヲ縛ル色々ノ團體ガアルヨリ
モ、ソレガ一ツニ統一サレタ方ガ宜イト思
ヒマスノデ、サウ云フ運ビニ遞信當局ガ指

導サレルコトヲ希望シテ次ノ質問ニ移リマ
ス
○野田委員長 一寸米窪君、アナタノ次ノ
ニ關聯シテ私明確ヲ缺イタカラ此ノ際伺ヒ
マス、今ノ遞信大臣ノ答辯ハ、自治聯盟ノ
方ハ解散ヲサセル、ソレカラ船主協會ノ方
ハドウナルト云フノデスカ

○米窪委員 ソレハマダ質問シテ居リマセ
ヌ、是カラ質問シマス——只今委員長ノ御注
意ガアリマシタガ、海運自治聯盟ハ解散ヲ命
ズルノデアルカ、或ハ業者ガ解散スルモノ
ト豫想シテ遞信大臣ハ御答ニナツタノデア
ルカ、此ノ法律ガ出來トラバ解散ヲスル諒
解ガアルノデアルカ、其ノ邊ヲ御尋シマシ
テ、更ニ委員長ノ御注意ニナツタ日本船主
協會ニ付テハドウナサル積リデアルカ、ソ
レヲ御伺致シマス
○鹽野國務大臣 自治聯盟ノ方ハ先刻申シ
マシタルヤウニ、是ハ解散ノ方向ニ向ツテ
指導シテ行ク考デ居リマス、船主協會デス
ガ、是ハ此ノ海運組合法ガ出來マスルト、
海運組合ニ改組シテ行クモノト考ヘテ居リ
マス
○米窪委員 一寸纏リダケ一段落付ケテ、
板谷君ガ主税局長ニ御質問シタイト云フコ
トデアリマスカラ、一段落付クマデ進行シ

タイト思ヒマス、ソレデ御尋シタイト點ハ此
ノ海運組合法案ナルモノガ出來ルト云フコ
トニ付テ、業者ノ間ニ相當ノ自分等ノ私案
ガアリ、希望モアツタノデアリマス、單ニ
是ハ船主ダケヲ包含スルモノデアルカ、或
ハ備船者、「オペレーター」「ブローカー」ナ
ドヲ包含スルモノデアルカ、此ノ點ハ既ニ

同僚ノ委員カラ御尋ガアツタカモ知レマセ
ヌガ、私他ノ委員會ニ出テ居ツテ其ノ邊ノ
コトヲ知リマセヌシ、速記録モ忙ガシイノ
デ讀ンデ居リマセヌカラ、或ハ二重ニナル
カモ知レマセヌガ、此ノ點ニ付テ大臣デナ
クテモ宜シイ、遞信省ノ政府委員カラ御答
辯ガ願ヒタイ
○伊勢谷政府委員 組合ノ結成ノ仕方ニ付
テノ御尋デゴザイマスガ、大型船ニ付キマ
シテハ全國單一組合トシテ結成セシメタイ
方針デ居リマス、而シテ其ノ内容ヲナスモ
ノハ船主、「オペレーター」、皆之ニ包含セ
シムルト云フ積リデ居リマス、併シナガラ
今例ヲ擧ゲテノ御尋ノ「船舶ニ依ル人若ハ
物ノ運送ニ關スル仲立業又ハ船舶ノ貸渡若
ハ賣買ニ關スル仲立業」是ハ別ニ組合ヲ結
成セシムル積リデ居リマス
○米窪委員 只今ノ管船局長ノ御説明ハ私
ノ御尋シタ「ブローカー」ナドハ別ニ、此ノ

種ノ組合ヲ後日作ラセルト斯ウ解釋シテ宜シウゴザイマスカ

○伊勢谷政府委員 左様デゴザイマス

○米窪委員 本海運組合法案ノ第六條ニ

「勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合ノ組合員タルベキ資格」斯ウ云フ條文ガアリマスルガ、是ハドウ云フ意味ナノデスカ

○伊勢谷政府委員 此ノ海運組合ヲ設立スルニ當リマシテハ組合員ノ機能ヲ發揮セシムル上カラ致シマシテ、海運業者ヲ全部同

ジ組合ニ包含致シマスルコトガ、其ノ目的ヲ遂行スルニ非常ニ不便ナ點ガアルノデゴザイマス、隨テ大型船、機帆船、帆船、艇

ソレ等ノモノハ別々ニ組合ヲ結成セシムルコトハ、業態カラ見マシテ適切デアルト考ヘテ居リマスカラ、ソレ等ノ事柄モ勅令ニ決メテ行キタイト考ヘテ居リマス、尤モ地方ニ依リマシテ是等ノ點ニ付キマシテハ實情ニ適スルヤウニスルト云フコトハ是非ト

モ左様ニ致シタイト考ヘマス、ソレカラ大型船ニ付キマシテハ全國單一組合デアリマスルガ、ソレ以外ノモノニ付キマシテハ、例ヘバ艇デアリマシテモ、帆船デアリマシテモ、機帆船デアリマシテモ、サウ云フ業者ハ適切ナル地區ヲ定メテ組合ヲ結成セシメ、次イデ之ヲ聯合會ニ結成セシメテ行ク

ト云フコトガ適切デアルト考ヘテ居リマス其ノ地區ノ定メ方等ニ付キマシテハ、業者ト篤ト協議致シマシテ、實情ニ適スルヤウニ、本當ノ效果ノ擧ガルヤウニ之ヲ定メタイ、斯様ニ考ヘマス

○米窪委員 第十四條ニ「命令ノ定ムル所ニ依リ組合員ニ非ズシテ組合員タル資格ヲ有スル者」是ハ能ク分リマセスガ、ドウ云フ意味デスカ

○伊勢谷政府委員 此ノ組合法ニ依ル組合ハ原則ト致シマシテ任意設立ヲ原則ト致シテ居リマス、隨ヒマシテ例ヘバ機帆船ニ致シマシテモ其ノ地區内ノ三分ノ二以上ノ同意ガアル場合ニ組合ガ出來ルノデアリマスカラ、組合員タル資格、機帆船業者ト云フ

組合員タル資格ヲ持つテ居ルモノデアリマシデモ、組合ニ入ツテ居ラナイモノガアルト云フコトガ觀念上想像出來ルノデアリマス、然ルニサウ云フ海運業ノ統制ヲ圖ルト云フヤウナ必要ガアリマスル場合ニハ非組合員ト云フモノガアリマスルト、例ヘバ運賃統制ニ致シマシテモ、ソレガ實行シ難イ

ト云フコトニナリマスルカラ、組合員ニアラズシテ組合員タル資格ヲ有スル者ニシテ海運組合ノ組合員タラシメルコトガ出來ルト云フ場合ガアルト云フコトヲ規定シテア

リマス

○米窪委員 ココデ板谷君ノ御質疑ニ御譲リシテ、板谷委員ノ御質疑ガ濟ミマシトラ、直チニ又私ノ質疑ヲ御許シ願ヒタイト思ヒマス

○板谷委員 私ハ主税局長ニ御伺シタイノデアリマスガ、本年ノ四月以降出來タ新造船ニ對シテハ、船舶價格ノ三分ノ一相當ノ程度ノモノヲ三年以内ニ償却ヲ許スト云フ

特例ヲ御設ケニナツタヤウニ承ツテ居ル、其ノ外ノ普通ノ償却ハ又別ニ許スト云フコトデアアルガ特例ヲ御設ケニナツタノハドウ云フ趣意カラ御設ケニナツタノデアリマスカ

○大矢政府委員 此ノ度臨時租稅措置法ヲ改正致シマシテ、只今板谷サンノ御述ベニナツタヤウナ改正ヲ致サウト思ツテ居リマス、尤モ法律案ニハ其ノ點ハ明確ニシテ居ナイデ、命令ニ讓ルコトニナツテ居リマス

ルガ、命令案ノ要領ハ取得價格ノ三分ノ一ニ該當スル部分ニ付キマシテハ三年間均等償却ヲ認メル、殘餘ノ三分ノ二ニ付キマシテハ普通ノ償却ヲ認メルト云フ次第デゴザイマス、是ハ獨リ船舶ノミニ限リマセス、現下ノ時局ト致シマシテ、生産力擴充ヲ最モ必要トスル方面ノ事業ニ於キマシテ、今

後新規ニ設備スルモノニ對シマシテ、普通ノ減價償却以外ニ會社ニ於テ一定限度ノ償却ノ計算ヲシタ場合ニハ、稅務ノ計算上之ヲ損失ニ認メヨウト云フノデアリマシテ、

普通ノ場合ノ物質的減耗ニ依ル償却トハ意味ガ違フノデゴザイマス、要スルニ會社ニ於テハ今述ベマシタヤウナ經理方法ヲ採ツテ減價償却ヲ致シテ來タナラバ、所得稅法、營業收益稅法、臨時利得稅法ノ適用上之ヲ

損金ニ見ヨウト云フノデアリマシテ、目下ノ我國ノ生産力擴充ヲ最モ必要トスル事態ニ即應セシムル爲ノ臨時ノ措置デゴザイマス

○板谷委員 現下ノ時局ニ對シテ特例ヲ設ケタト云フコトデアリマスガ、要スルニ物價高デアアル、率直ニ申スナラバ原價ガ高イカラ特例ヲ設ケタ、斯ウ云フヤウニ解釋シテ宜シウゴザイマスカ

○大矢政府委員 必ズシモ物價高ト云フ趣旨デハゴザイマセス、企畫院ニ於キマシテモ、昭和十六年度マデデゴザイマスガ、四箇年計畫ヲ以チマシテ非常ニ大規模ノ生産擴充ヲ致サウトシテ居ルノデゴザイマシテ、

斯ノ如キ場合ニ於キマシテハ是等ノ事業ヲ營ンデ居ル會社ニ於キマシテハ成ベク配當トカ、重役賞與トカ云フガ如キ社外流出ヲ

出來ルダケ少クシテ積立ヲ多クスル、サウシテ出來ルダケ生産擴充ニ必要トスル設備ニ投資シテ行クト云フコトガ必要デゴザイマスカラ、是等ノ方途ニ出ヅル事業會社ヲシテ比較的此ノ時局下ニ於テ收益ノ多イ場合ニ出來ルダケ多ク利益ヲ償却ノ方面ニ向ケサセテ、將來此ノ會社事業ノ堅實ヲ期シタイト云フノガ大眼目デゴザイマス

○板谷委員

ドウモ御答辯ガ要領ヲ得マセヌガ、御承知ノ通り現在ノ運賃ノ「コスト」ヲ下ゲルト云フコトガ隨テ船價ガ安クナル、安イ船ヲ造ルニハ之ニ要スル資材ガ安クナケレバイカヌ、是ハ當然ノコトデアリマス、ソコデ我國ノ現下ノ時局ニ顧ミマシテ、御承知ノ通り大キナ物動計畫ガ立テラレテ、其ノ一部トシテ船舶ヲ昭和十四年カラ昭和十六年ニ至ル間ニ二百萬噸造ラウト云フ計畫ガ此ノ委員會ニ併託サレマシタ、遞信省關係ノ法案モ要スルニ如何ニシテ安イ船ヲ造ルカ、或ハ又船價ヲ下ノ程度マデ下ゲルカト云フ方針ノ下ニ此法律ガ提案サレテ居ル譯デアリマス、ソコデ私ハアナタニ御伺シタイコトハ、是カラ造ル船ト云フモノガ有ユル補助其ノ他ノ方法ニ依ツテ船價ガ割合ニ安ク行ク、所ガ昭和十二年以來今日マデノ船價ヲ調べテ見マス、何等變リ

ガナイ、寧ロ昨年ガ一番私ハ高い絶頂ヂヤナイカト思フ、ト云フノハ資材ニシマシテモ、政府ノ補助ニ於キマシテモ、或ル程度マデ船價ヲ下ゲヨウト云フ方針ノ下ニ此ノ法案ガ出來テ居ルノデアリマス、ソコデ將來海外ニ發展スルニ付テハ何トシテモ船價ヲ下ゲルコトヲ考ヘナケレバナラス、其ノ見地カラ先達デモ遞信大臣ニ伺ツタノデアリマスガ、我國ノ船價ハ昭和七八年頃百七八十圓ノモノガ昨年ハ三百六十圓ヲ越シテ居ル、本年ニ於テモ同様デアアル、又外國船ニ對抗致シマシテ殆ド同様位ニ引下ラシナケレバナラス、英國ノ現狀ニ於テハ二百二十圓デアアル、斯ウ云フ趣意カラ遞信大臣ノ御意見トシテハ私ノ今申上ゲマシタ昭和十二年以來ノ新造船ニ對シテ幸ニ大藏省ガ同意ヲスルナラバ是ハ引下ゲルノガ當然デアアル、斯ウ云フヤウナ意味ノ御答辯ガアツタ、併シ交渉ハシテ居ルケレドモ中々困難デアルト云フ御話モアツタ、併シ船價ヲ成ベク安クスルト云フ趣意カラ言ツタナラバ、少クモ私ハ昭和十三年ノ分ハ是ニ均霑スルノガ當然デハナイカト思フ、今度増稅案ガ出テ居リマス中ニモ、御承知ノ通り鑛山若クハ船舶ノ賣買ヲ止メラレタ場合ニハ、一年以上ニ遡ルト云フ案ヲアナタノ方デ御出シニ

ナリマシタ、勿論是ハ法律デハナイノデアリマスガ、此ノ減價償却ニ付テハ少クモ十三年度ハ私ハ均霑スルノガ當然デハナイカスウ思フノデスガ、御考ハ如何デスカ

○大矢政府委員 實ハ此ノ減價償却ニ付キマシテハ大正七八年時分ニ全國ヲ統一シテ、其ノ當時内規決メタノヲ爾來其ノ儘維持シテ來タノデアリマスガ、御承知ノ通り昭和九年經濟界ニ一大恐慌ガ襲ヒマシテ以來、業界ハ不振ヲ續ケテ來テ居リマシタノデ、大藏省ノ稅務ノ扱トシテハ内規ヲ設ケテ、其ノ程度ノ償却ヲシテ居ナイ會社ガ比較的モカツタノデゴザイマス、船舶關係ニ於テモ亦同様デゴザイマスガ、昭和七八年度ヨリ經濟界ガ好轉シテ參リマシテ、漸次各會社トモ收益ガ多クナツテ來ルニ伴レマシテ段々償却モ多クシ、大體私共ノ長イ間内規トシテ取扱ツテ居タ範圍ニ近イ程度ノ償却ハシテ居ルノデアリマス、併シ私共ハ償却是認範圍ト言ツテ居リマスガ、ソレヲ飛超エルヤウナ償却ヲヤツテ居ル會社ハ殆ドナカツタヤウナ狀態デゴザイマス、昭和十二年ニ於キマシテ臨時租稅増徴法ガ施行セラレテ、或ル程度事業會社ノ負擔モ増加シテ參リマシタノデ、此ノ際ヲ機ト致シマシテ、減價償却ノ内規ニ相當程度ノ改正ヲ

加ヘテ、船舶ニ付テモ或ル程度年限ノ短縮ヲ致シマシタ、昨年支那事變特別稅法ノ施行ト同時ニ、更ニ時局産業ニ付キマシテ相當程度短縮致シマシテ、從來大體船舶ニ付キマシテハ二十五年ノ償却年限デアリマシタノデ、原則トシテ二十年ト云フコトニ致シマシテ、此ノ時局ニ對應スル處置ハ一通リ講ジタ積リデゴザイマス、然ルニ御承知ノ通り最近生産力擴充何箇年計畫ト云フ大規模ノモノガ計畫セラレルヤウニナリマシテ、是ハ單リ船舶ノミデハゴザイマセヌ、鐵鋼方面ニ於キマシテモ、又非鐵金屬方面ニ於キマシテモ、其ノ他時局關係上必要トセラレル各種事業ニ當リマシテ相當大規模ノ、今後數年ニ互ル生産擴充ガ企圖セラレマシタカラ、之ニ對應シテ此ノ際今後ノ生産擴充ニ、稅務ノ上ニ於テモ資スル爲ノ相當ノ措置ヲ採ル必要ガアルデハナカラウカ、殊ニ此ノ度臨時利得稅法ノ改正ヲ行ヒマシテ、事變下ノ利得ニ對シテ相當強度ノ増徴ヲ行フ際デアリマスカラ、尙ホ其ノ點ハ今一段ト考慮ヲ拂フ必要ガアル、斯ウ云フ見地ニ立チマシテ、此ノ度臨時租稅措置法ノ改正案ヲ提出致シマシタ次第デアリマス、此ノ案ノ目指ス所ハ、今後ノ生産擴充ニ相當便宜ヲ與ヘヨウト云フノデゴザイマ

シテ、本法實施前ノモノニ付キマシテハ、既ニ今日マデ相當ノ措置ヲ講ジテ居ルノデアリマスカラ、是デ先ヅ大體宜シカラウ、臨時利得稅法ノ改正ニ依ツテ、事變下ノ利得ニ對シテ相當強度ノ増徴ヲ爲ス此ノ際ニ、今後ノ生産力擴充ニ對應スル措置トシテ考ヘル、斯ウ云フノガ趣旨デゴザイマス

○板谷委員 アナタノ方ハ稅ヲ御取リニナル役目デスカラ、出來ルダケ餘計取リタイ御考デアラウガ、遞信當局トシテハ我國ノ船舶ノ發展ノ爲ニ成ベク船價ヲ引下ゲテ、運賃ノ「コスト」ヲ安クシヨウ、斯ウ云フ趣意カラ先程來申上ゲマスルヤウニ、既ニ私ノ先達テノ質問ニ對シテ、遞信大臣モ出來ルダケ大藏省ト交渉シヨウト云フコトデアリマス、別ニ是ハ法律デ御決メニナルノデハナイ、詰リ省令ニ依ツテ御決メニナルノデアルカラ、アナタ方ノ立場ト遞信當局ノ立場ハ今申上ゲルヤウニ違フ、ダカラ是ハ將來ニ於テ能ク御協議ニナツテ、サウシテ不公平ノナイヤウナ御取扱ヲ願ヒタイ、斯ウ云フ希望ヲ私ハ申上ゲテ置キマス

○大矢政府委員 大體英國ヲ初メト致シマシテ、外國ニ於テ船舶ノ償却年限ヲ定メル場合ニハ、其ノ償却方法ハ均等償却法ニ依ツテ居ルヤウデアリマス、隨ヒマシテ二十

五年ノ償却年限デアリマス、年四分二十年ニナレバ年五分デゴザイマス、然ルニ我國ニ於キマシテハ、必ズシモ均等償却ノ方法ニ依ラナイ、未償却殘高法ニ依ルコトモ認メテ居リマシテ、此ノ未償却殘高法ニ依ツテ償却ヲスル場合ニハ、初ノ方ニ於テ相當高度ノ償却ガ出來ル、此ノ點ハ英米等ニ對シテ非常ニ有利ナ點デゴザイマス、隨テ二十年ノ償却年限ヲ認メテ置キマシテモ、五年程經テバ殆ド船價ノ半分ガ償却出來ルト云フコトニナツテ居ルノデアリマス、之ニ對シテ更ニ今度ノ臨時租稅措置法ノ改正案ニ依リマスルト、尙ホモツト強度ノ償却ニナルト云フコトニナルノデアリマス、私ハ本年ノ四月以前ニ竣功致シマシタ船舶ニ付キマシテモ、此ノ未償却殘高法ニ依ル償却ヲ認メテ居ル以上ハ、英國其ノ他ニ比較シテ見テ、日本ノ稅務ノ扱ヒハ餘程寛大ニナツテ居ルト存ジテ居リマス

○板谷委員 省令ノ問題デアリマスカラ、能ク遞信當局ト御相談ヲ願ヒタイシ、尙ホ適當ノ機會ガアツタナラバ、又吾々ノ意見ノアル所モ申上ゲマス、私ハ此ノ程度デ宜シウゴザイマス

○野田委員長 米窪君

○米窪委員 先程ノ遞信大臣ノ御答デ、此

ノ海運組合法案ガ實施サレルト、海運自治聯盟及ビ日本船主協會ハ解體スルト云フコトガハツキリ分ツクノデアリマス、實ハ日本船主協會ト海員協會ト云フ高級船員ノ團體、ソレト日本海員組合ト云フ普通船員ノ團體トノ間ニ、海事協同會ト云フモノガアリマシテ、其處デ勞働條件ニ關スル團體協約、或ハ最近ハサウ云フコトハアリマセヌガ、數年前マデハ海上ノ爭議ガアツタ、サウ云フ場合ノ爭議ノ仲裁、解決トカ船員ノ職業紹介ト云フコトヲヤツテ居ツタ

ノデアリマスガ、海運業ガ現實ニ發達シテ行ク爲ニ、斯ウ云フ必要ナ事業ヲヤツテ行ク所ノ機關ガアルノデアリマス、所ガ此ノ海事協同會ヲ構成シテ居ル所ノ船主協會ガナクナツテ、ソレニ代ルト云フ意味デセウカ、海運組合ト云フモノガ出テ來テ、船主協會ヨリモ更ニ統制ガ加ヘラレタ團體ガソコニ生レテ來ル、一方更ニ此ノ船主協會、海員協會、海員組合ハ海上國民精神總動員聯盟ト云フモノヲ作リマシテ、日本精神、皇道精神ノ發揚或ハ國防觀念ノ涵養、國體明徴觀念ノ涵養、船内消費ノ節約、能率ノ増進、廢品ノ蒐集、貯金ノ獎勵、國債ノ購入、公債ノ購入、斯ウ云ツタ時局ノ線ニ沿ツテ、所謂海上ニ於ケル國民精神總動員ノ

運動ヲヤツテ、著々トシテ其ノ效果ヲ舉ゲテ居ルノデアリマスガ、斯ウ云ツタ所謂海員團體ノ協議機關ニ對シテ、新ニ生レル所ノ海運組合ナルモノモ、從來ノ船主協會ガ加盟シテ居ツタヤウニ、當然加盟シテ協力シテ行クモノデアアルカドウカ、此ノ點ヲ先ヅ重大問題デスカラ遞信大臣ニ御尋シタイト思ヒマス

○鹽野國務大臣 各種ノ團體ハ何レモ其ノ目標トスル所ガアルノデアリマシテ、法ニ依ル所ノ海運組合或ハ造船事業ノ組合等、各、法ノ記スル所ニ依ツテ一ツノ團體ヲ作ル、而シテ時局ノ線ニ沿フ國民精神總動員運動ニ對スル、一ツノ海運ニ關係アル船主或ハ海員ノ團體ガアリマスレバ、ソレハ其ノ目的ノ爲ニ働クノデアリマスカラ、從來ノ組織ガ或ハ海運組合ニ改組セラレルト云フ場合ニ於キマシテモ、新シキ海運組合ハ又精神總動員ノ目標ニ向ツテノ團體ノ中ニ加入シテ働クト云フコトニナルノデアリマス

○伊勢谷政府委員 只今遞信大臣ヨリ御答申上ゲマシタ通りデゴザイマシテ、海事協同會ガ船主協會竝ニ海員協會、海員組合ト共ニ海事協同會ヲ結成セラレテ、ソレガ極メテ有效ナル働キヲ爲シテ來タノデアリマ

スカラ、將來ニ於キマシテモ其ノ機能ガ十分發揮サレヤウニ考ヘテ行カナケレバナラスト思ヒマス、而シテ船主協會ハ新シキ組合法ニ依リマシテ、改組サレルコトニナルノデアリマス、併シソレハ實質ハ同ジデアツテ、ソレニ更ニ總テノモノガ入ツテ來テ、形式ガ變ル、サウシテヤハリ從來ノ船主協會ノ立場ト同様ニ協同會ヲ結成シテ、只今御舉ゲニナリマシタヤウナ有效ナ働キヲ更ニ繼續シテヤツテ行ク方針ヲ採リタイ、斯様ニ考ヘテ居リマス

○米窪委員 甚ダ御明答ヲ得マシテ、安心シタノデアリマス、所ガ一方船主團體ハ、勿論業態別ニ依ツテ各種ノ海員組合ヲ作り、更ニ其ノ上ニ聯合會ヲ作ツテ行クノデアリマスガ、何レニセヨ、今日日本船主協會、或ハ神戸船主會、東京船主會、ト云フヤウナ各地方ニアル船主ノ團體、或ハ海運自治聯盟、斯ウ云フモノガ段々整理サレテ、一ツニナツテ來ル傾向ヲ持ツノデアリマス、是ハ何ト云ツテモ、船主ノ團體ノ強化ニナルノデ、洵ニ結構ナコトデアリマス、同時ニ船主所有スル側ノ船主ノ團體ガ強化サレルト同様ニ、ソレト並行シテ、海員團體ノ方モ成ベク國ノ統制ノ線ニ沿ウテ、統制サレテ行ク

コトガ必要デハナイカト思フ、此ノ第七十四議會ニハ遂ニ出ナカツダノデアリマスガ、仄聞スル所ニ依ルト其ノ意圖ヲ多分ニ含シテ居ル船舶職員法改正ガ遞信當局ニ依ツテ企圖サレタト云フコトデアアル、其ノ中ニハ高級船員及ビ普通船員ニ、今日ノヤウナ自由ニ團體ヲ組織サセテ置クト云フ方針カラ更ニ一步進ンデ、之ニ特殊ノ法人的組織ヲ與ヘルト云フヤウナ案ガオアリニナツタヤウニ聞イテ居リマス、所ガ船舶職員法改正法律案ガ出ナクナツタモノデスカラ、遂ニ闇カラ闇ニ葬ラレタノデアリマス、ソコデサウ云フ船員團體ニ對スル統制或ハ指導ト云フ意味ハ於ケル新シキ組織ヲ彼等ニ與ヘ、或ハ新シキ組織ノ中ニ彼等ヲ入レル方針ハ望マシイモノデアアルカ、若シ望マシキモノデアルトスレバ、何等カノ形ヲ以テ、近イ將來ニ於テソレヲ法制化スル御考デアアルカ、此ノ點ニ付テ管船局長ニ御伺致シマス

○伊勢谷政府委員 海運業者ノ組合ハ、本法ニ依ツテ結成セラレテ行クコトニナルノデアリマスガ、只今御舉ゲニナリイシタ自治聯盟ナリ、或ハ神戸船主會、或ハ小樽船主會ト云フヤウナモノハ、從來ト雖モ日本船主協會ノ一變形ニ過ギナカツタノデアリ

マス、サウ云フ關係デアリマシテ、例ヘバ自治聯盟ハ御承知ノ通り船主協會ニ屬シテ居リマス七社ノミガ結成シテ居ツタモノデアリマス、是ガ解消シテ、此ノ組合法ニ依ル組合ニナル、斯様ナモノデアリマス、即チ今マデ船主協會ニ入ツテ居ナイモノモ入ツテ來ル、斯ウ云フ點ニ於テ稍、強化ト申シマスカ、サウ云フ點ハ御話ノヤウニ出テ來ルト思ヒマスガ、非常ニ力ノ加ハツタ強イモノガ出テ來ルト云フ譯デモナカラウト思ヒマス、一方此ノ海員組合ハ、御質問ナサレテ居ル米窪委員モ關係セラレテ能ク御承知ト思ヒマスガ、從來幾多ノ組合ニ分レテ居リマシタモノガ、組合員ノ方々ノ御努力ニ依リマシテ、今日ニ於キマシテハ、普通海員組合トシテハ日本精神ヲ根幹ト致シマス海員組合ノミガ存在スル、斯様ニ統一サレテ來テ居ルノデアリマス、此ノ間力ノ相違ト申シマスカ、サウ云フモノハサウ御懸念ニナル程ノコトモナカラウト思ヒマス而シテ將來海員ノ團體ニシ對マシテ、法的ナ基礎ヲ與ヘルカ否カ、斯ウ云フコトニ付キマシテハ、私共當局ト致シマシテ、慎重ニ研究致シテ居ルノデアリマス、隨テ十分研究ノ結果、結論ヲ得タイト考ヘテ居ル次第デアリマスカラ、今直チニソレニ關スル

意圖ヲ申上ゲマスコトハ、甚ダ困難ナコトデアリマス

○米窪委員 文部當局ニ非常ニ御待チヲ願ツテ濟ミマセスカラ、其ノ方ヘ飛ビマシテ、遞信大臣ト文部省ノ御當局ニ質問シタイト思ヒマス、ソレハ只今遞信當局及ビ遞信大臣カラ海運ノ健全ナル發達ヲ期スル爲ニハ、船主モ船員モ所謂海上國民精神總動員運動ト云フ線ニ沿ウテ、漸ク全體主義ノ立場カラ産業協力、勞資協調ノ精神ノ下ニ上下一體トナツテ、一人ノ人間ノ如クニナツテ船ヲ動カス、ソレハ所謂平沼總理大臣ノ言ハレタ總親和、總協力ノ國策ノ精神ノ總延長デアリ、且ツサウシナケレバ如何ニ優秀ナル船舶ヲ造ツテモ、冗費ガ多クナツテ、石炭其ノ他ノ消耗品ノ節約モ出來ナイ、所謂上ハ社長カラ重役、監督、課長、船長、機關長ト上下一貫シテ、普通船員ニ至ルマデ、一人ノ人間ノ如クニナツテ船ヲ動カスコトガ絕對必要デアアル、所ガ之ニ對シテ甚ダ遺憾ナル現象ガ今日アルノデアリマス、是ハ勿論日本ノ船主全部ガサウダトハ私言ヒマセス、併シ最モ代表的ナ一流ノ會社ニ不祥ナル爭議ガ頻々ト起ツテ居リマス、船主ト船主トノ間ハ相剋摩擦ガナイヤウデアリマスガ、船主ト其ノ使ハレテ居ル船員、主ト

シテ高級船員、商船學校デ高等教育ヲ受ケタ所謂高級船員ガ——率直ニ言ヘバ郵船會社デアリマスガ、社長ノ命令ヲ守ラナイ、社長ノ依命通達ヲ行フ課長、監督ノ命令ニ從ハナイ、更ニ船長、機關長ト云フ一船ノ責任者デアリ、代表者ナル者ノ命令ヲ守ラナイ、斯ウ云フ甚ダ悲シムベキ狀態ガ郵船會社ニ行ハレテ居ル、是ハ政府御當局モ、吾々同僚ノ委員モ能ク新聞ニ現ハレテ居ルノ御承知ト思フ、吾々ハ甚ダ遺憾ナル現象ト見テ居ルノデアリマス、ソレハ全體ドウ云フ所カラ來テ居ルカト云フト、茲ニ明朗會ト云フ會ガアル、名前ハ明朗デアアルケレドモ、甚ダ不明朗ナル會デアリマス、此ノ團體ガ出來タノハ一昨年デアリマシテ、其ノ最初ノ動機ハ、郵船會社ノ或ル重役ト或ル重役トノ間ノ不和、所謂勢力爭ニ利用シタ、更ニモウ一ツハ、此ノ明朗會ハ主トシテ今日デハ甲板部ノ高級船員ト機關部ノ高級船員ノ大部分ガ之ヲ作ツテ居リマスガ、一昨年創立ノ最初ノ時ニハ機關部ノ高級船員ノミデアツテ、此ノ法案ニモ關係ノアル澤山ノ優秀船員出來マシテ、サウシテ先程同僚ノ小山委員カラモ御話ガアリマシタ通り、汽船ガ「デーゼル」ニナリ「デーゼル」ガ更ニ「モーター」ニナルト云フ所謂最新ノ船

舶科學ノ產物デアアル所ノ機關ガ段々ト發達シテ來ルニ連レマシテ、今マデノ汽船乗組ノ機關士デハ之ヲ操縦スルコトガ出來ナイ、是ニ於テ特殊ノ知識モ要スルト共ニ、非常ニ多クノ機關士ヲ要スル、今日淺間丸、龍田丸ト云フヤウナ一流ノ亞米利加航路ノ船デハ「エンジン」ヲ稱スル者ガ十何人モ乗ツテ居リマス、サウシナケレバ船ガ動カナイ、隨テ「エンジン」ガ非常ニ多クナル、是ハドウ云フ結果ヲ招來スルカト云フト、甲板部ノ士官ヨリモ昇給ガ遅クナル、是ハ仕方ガナイ、勢ヒサウナルノデアリマスガ、昇給ガ遅クナルト云フト、ナゼ遅クナツタカト云フコトヲ攻究セズニ、唯甲板部ノ者ヨリモ自分等ガ昇給ガ遅イト言フ、是ハ社内ノ人事ガ惡イノダ、社内ノ人事ノ惡イ原因ハ、一二ノ重役ガ他ノ重役ト派閥競爭ヲシテ居ルカラデアアルト云フ所ヘ彼等ハ理由ヲ付ケマシテ、サウシテ重役排斥ヲ行ヒ、サウシテ會社ニ對シテ色々ノ人事刷新ヲ叫ンデ居ツタ所ヘ、偶々所謂國旗問題ナルモノガ起リマシテ、ソレヲ口實トシマシテ、洵ニ畏多イ話デアリマスガ、某宮殿下ガ御渡歐サレル平安丸ヲ停メテマデ自分等ノ要求ヲ貫徹シヨウトシタ、其ノ時大谷社長ガ私ニ直接話シタコトデアアルカラ間違アリマセ

ヌガ、海軍ノ元老デアアル或ル海軍大將ノ所ヘ行ツテ相談シタ所ガ、其ノ大將曰ク、兎モ角モ此ノ明朗會ノ出來タ動機ハサウ云フ不純ナ動機デアツテモ、今日所謂國體明徴ヲ叫ビ、所謂日本主義ヲ叫ンデ居ル、今日國體明徴ニ逆フヤウナコトハ一番不利デアルカラ、君、泣寢入ヲシロト云フコトヲ言ハレテ、遂ニ明朗會ノ言フコトヲ聽イテ數萬圓ノ爭議資金ヲ出シテ、サウシテ種々ナル條件ニテ屈服シタト云フコトヲ話サレタノデアリマス、爾來其ノ明朗會ハ其ノ勢ニ乗ジテ段々ト盛ンシ其ノ會ガ發達シテ來タノデアリマシテ、サウシテ最近ニハ郵船會社内部ノ各種ノ高級船員ノ團體ヲ併吞シテ行ツタ、併吞スル方法ハ白紙委任狀ヲ自分等ノ仲間カラ取ツテ——御承知ノ通り高級船員ハ船ニ乗ツテ國外ニ居ル者デスカラ、サウ云ツタ團體ノ總會ニ自由ニ自分等ノ意思ヲ發表出來ナイ、ソコデ白紙ノ委任狀ヲ取ツテ、郵船航海士協會、郵船機關士協會、或ハ郵船青年同窓會、郵船同志會、斯ウ云ツタ四ツバカリノ團體ヲ皆乗ツ取り或ハ解散ヲサシタ、サウシテ其ノ基金ハ明朗會ノ會長デアリ、今日ハ郵船會社ノ社員デナイ所ノ元ノ二等機關士デアアル日比和一ト云フ個人ニ寄附スルコトヲ總會デ採決シタ、甚

シイノハ郵船青年同窓會ノ基金ノ中カラ三萬圓ト云フモノヲ日比和一ト云フ個人ニ多數決デ以テ寄附ヲ決メタ、郵船機關士協會ニ付テハ其ノ共濟基金ヲ全部寄附サシタ、此ノ財團法人ノ財産ヲ個人ニ寄附スルト云フコトガ適法デアアルカ否カト云フコトハ、文部省及ビ遞信省デ御研究中デアアルト云フコトヲ聞イテ居リマス、或ハ既ニ宜シイト云フ御裁決ヲシタカドウカ知リマセヌガ、兎ニ角サウ云フ方法ヲ以テ段々ト自分等ノ會員ヲ殖ヤシテ行ク、サウシテ殆ド全部高級船員ヲ包含シテ、今日デハ普通船員ニマデ明朗會ニハ入レ、斯ウ云フコトヲ彼等ハ言フノデアリマシテ、入ラナイ者ニ對シテハ職權ヲ利用シテ或ハ船内デ威嚇シ或ハ毆打ヲシ、或ハ人事問題ニ依ツテ仇ヲ討ツ、例ヘバ明朗會ニ入ラナイ者ニ對シテハ何等カ難辭ヲ付ケテ其ノ船ヲ下シテモツト惡イ船ヘヤル或ハ給料ヲ減ラス、或ハ賞與ヲ半分ニスル、斯ウ云ツタ所謂職權ヲ利用シテヤルノデアリマシテ、其ノ際船長機關長ガソナコトハイカヌデヤナイカト言フト、多數ヲ恃ンデ船長、機關長デサヘモ之ヲ威嚇スル、サウシテ其ノ結果ハ、多數ノ船長、機關長モコンテ會社ニ勤メテ居ツテモ仕樣ガナイトテ罷メル、中ニハ神經

衰弱ニナル、或ハ嚇カサレテ郵船會社ヲ罷
メルト云フ船長機關長ガ續出シテ來タノデ
アリマシテ、一例ヲ申シマス、秩父丸ノ
船長富岡某、能島丸ノ船長岩下某ノ如キハ
明ニ明朝會ノ脅迫ニ依ツテ會社ヲ去ツタノ
デアリマス、表向ニハ日本主義ヲ唱ヘテ居
リマシテモ其ノ行フ所ハ決シテ日本主義デ
ハナイ、所謂船内ノ相剋摩擦ヲ盛ニ起シテ
居ルノデアリマス、而シテ是ハ經濟的ニモ
非常ニ惡影響ヲ及ボスノデアリマシテ、歐
洲航路ノ白山丸ノ如キハ此ノ明朝會ガ船内
ノ全權ヲ握ルヤウニナツテカラ、其ノ以前
ノ航海ニ比ベテ石炭ガ三百噸モ餘計要ツテ
居ル、ナゼソシナニ餘計要ルカト言フト、
火夫長以下ノ火夫ガ忠實ニ石炭ヲ節約シテ
焚カウトスルト、一寸用事ガアルカラ、明
朗會ノ宣傳ガアルカラ上ニ來イト言フ、眞
面目ニ石炭ヲ焚カウトスルト、ソシナモノ
ハ構ハヌ、日本精神ノ方ガ肝腎ダト云フノ
デ持場ヲ離レサス、ソコデ人數ガ足りナク
ナルカラ勢ヒ石炭ヲ餘計焚クカラ不完全燃
燒ヲ起ス、斯ウ云フコトデ以テ三百噸ノ石
炭ガ違ツタト云フノデス、サウ云フ事實ガ
アルノデアリマス、先程遞信大臣ガ非常ニ
良イコトダト御認メニナツテサウ云フ運動
ハ宜シイト言ハレタ海上國民精神總動員聯

盟ニ對シテモ非常ナル譏諷ヲ行ヒマシ
テ、是ノ名譽會長デアツタ某前關係ニ對シ
テ、國賊呼ハリヲ致シテ居ルノデアリマス、
之ニ對シテ會社當局ハドウ云フコトヲシテ
居ルカト云フト、會社ハ明朝會ハ甚ダ怪シ
カラヌト云フノデ、郵船會社國民精神實行
委員會ト云フモノヲ作ツテ、サウシテ其ノ
會ニ入ルコトニ依ツテ明朝會カラ離レサセ
ヨウトシタノデアリマスガ、遂ニ成功シナ
カツタ、最近ハ海運産業報國會ト云フモノ
ヲ更ニ作ツテサウシテ明朝會カラ離レサセ
ヨウトシタケレドモ、是亦失敗ニ終ツタ、
ナゼサウナルカト云フト、社長ハ通達ヲ發
シタ明朝會ニ入レト云フ運動ヲ船内デ絶對
シテハイケナイト云フコトヲ通達スル、其
ノ次ニ船舶課長ガ所謂社長ノ依命通達ト云
フモノヲ二遍位出ス、斯ノ如ク、合計三通
ニモ互ツテ社報ニ依ツテ各課長監督船長機
關長ヲ通ジテ出シテ居ルニ拘ラズ、船内ニ
於テハ多數ヲ恃ンデ肯カナイ、安全ニ重役
課長監督船長機關長ト云フモノハ「ロボッ
ト」ニナツテ居ル、實權ハ明朝會ノ少壯運
轉士機關士ガ握ツテ居ル、是ハ實ニ恐ルベ
キ現象デアツテ公然明ニ郵船會社デハ下剋
上ノ傾向ガ大勢ヲ決シテ居ル、斯ウ云ツタ
團體ニ今日約八百名乃至千名——郵船會社

ノ高級船員ノ殆下全部ガ此ノ明朝會ニ入ツ
テ居ルノデアリマスガ、是ガ數ヲ恃ンデ請暇
下船ヲ會社當局ニ迫ル、高級船員ノ場合ニ今
マデ會社待命ト云フコトデ船ヲ下ル場合ハ
アルガ、唯デサヘ船ガ多クナツテ之ヲ動かス
所ノ高級船員ガ足ラナイ時ニ、昨年ノ夏ノ如
キ八十何名モ請暇ヲシテ陸上ニ郵船ノ高級船
員ガ遊ンデ居ル、サウシテ閑デ仕樣ガナイカラ
昨年ノ七月十日カラ十七日マデノ一週間靜岡
縣ノ富士山麓ノ新柴園通院ト云フオ寺ニ入ッ
テ、某貴族院議員、某海軍少將ヲ指導者ト
シテ、此處デ所謂日本精神ノ講習ヲシタ、
其ノ時ニ、是ハ靜岡縣ノ警察ニ御問合セニ
ナレバ直グ分リマスガ、其ノ時ニ、最後ニ
斯ウ云フ問題ガ議セラレタ、船内ニ於テ上
長ニ對シ日本精神ヲ如何ニ説クカト云フノ
ニ對シテ、多數ノ意見トシテ纏ツタ所ノ結
論ハ、上長ニ對シテハ威嚇的態度ヲ以テ臨
ム、甚ダ怪シカラヌ、是ガ表面日本精神ヲ
唱ヘテ居ル所ノ所謂明朝會ノ正體デアル、
ソレデ其ノ宣傳方法ハ是亦甚シク今日ノ平
沼總理大臣ノ所謂總親和總協力ノ精神ニ背
クコト夥シイモノデアリマシテ、私此處ニ
一ツノ實例ヲ持ツテ居リマスガ、是ハ後
程委員長ニ差上ゲマスカラ遞信大臣ニ見セ
テ戴キタイ、是ハ昭和十三年十二月明朝會

本部普通船員各位御中ト云フ「ビラ」デアリ
マス、是ハ普通船員ニ明朝會ニハ入レト云
フ勸誘狀デアリマス、此ノ中ニ畏多クモ吾
吾ハ陛下ノ手足デアル、吾々ハ陛下ノ
御心ヲ體シテト云フ文句ガ五箇所アル、一
船員ノ團體ガ陛下ノ御名前ヲ御借リシテ
自分等ノ會員ヲ殖ヤス所ノ文書ニ畏多クモ
陛下ト云フコトヲ五箇所ニ互ツテ斯ウ云
フ具合ニ使ツテ出シテ居ル、是ハ洵ニ恐ル
ベキ精神デアル、若シ此ノ明朝會ガ萬一警
察ノ御厄介ニナリ、憲兵隊ノ御厄介ニナツ
タ時ニハ此ノ文書ハ一體ドウナルカ、斯ウ
云フ甚シク不穩ナル所ノ團體ガアルノデア
リマシテ、此ノ團體ハ今日コソ日本主義ヲ
唱ヘテ居ルガ、一昨年生レタ時ニハ、所謂
人民戰線ノ檢舉ノ行ハレル前ニハ、左翼ト
關係ガアツタト云フコトハ明カデアル、ソ
レハ何デアルカト云フト、此ノ明朝會ノ會
員ノ増田ト云フ男ハ、一昨年ノ暮ニ人民戰
線ノ故ヲ以テ檢舉サレタノデアリマス、更
ニ彼等ハ各船ヘ行ツテ盛ニ反戰運動、或ハ
國體明徴ノ精神ニ背ク宣傳ヲシテ居ル、例
ヘバ一例ヲ舉ゲルト、熱田丸ニ乗込ンデ居
ル林ト云フ運轉手ハ、横濱水上警察署員ノ前
デ反戰的言辭ヲ弄シテ注意ヲ受ケテ居ル、
高岡丸ノ一等運轉手小檜山某、二等運轉手

ノ南波某ハ五・一五事件、二・二六事件ノコトヲ説イテ、ソレハ皇道精神ノ現ハレデアル、モ證人ニナツテ責任アル立場ニ立チマスルガ、是ガナゼ斯ウ云フコトニナツテ來ルカト言フト、是ハ私ハ商船學校ノ教育ガ所謂技術本位デアリ、知の本位デアツテ、徳育ノ方面ヲ忘レテ居ル、而モ今日一番大切ナ國體明徴、皇道精神ノ發揚ノ教育ガ不十分デアル、此ノ點ハ本法ガ海運發達ノ爲ニ重大ナル法案デアルト同時ニ、之ヲ動カスベキ船員ノ中ニ、日本ノ一流ノ代表的ノ郵船會社ノ船員ノ中ニ、斯ウ云フ事ガアツタト云フコトハ、是ハ商船教育ニ重大ナル缺陷ガアルノデヤナイカ、此ノ點ヲ文部御當局ニ御尋ネシマス、サウシテ文部當局ハ之ヲ御認メニナツタナラバ、之ヲ是正スル對策ハドウカ、更ニ遞信大臣ニモ伺ヒタイ、而モ私ノ承ル所ニ依レバ遞信御當局ハ此ノ點ニ付テハ度々ノ警告ヲ發シテ居ルサウデアリマス、而モ此ノ點ニ付テハ會社ハ少シモ此ノ警告ヲ聽イタ跡ガ現ハレテ居ラナイ、此ノ點ニ付テハ遞信御當局ノ方ニ郵船、商船ニ對シテハ管理ヲスベキ何カ特別ノ役人ガアルト云フコトヲ聽イテ居リマスガ、或ハ違ツテ居ルカモ知レマセヌガ、何レニセヨ斯ウ云フコトハ重大ナル問題デアルカラ、

社デアリマス、斯ウ云ツタ實情ニ付テ是ハ決シテ嘘偽リデハアリマセヌ、私ハ何時デモ證人ニナツテ責任アル立場ニ立チマスルガ、是ガナゼ斯ウ云フコトニナツテ來ルカト言フト、是ハ私ハ商船學校ノ教育ガ所謂技術本位デアリ、知の本位デアツテ、徳育ノ方面ヲ忘レテ居ル、而モ今日一番大切ナ國體明徴、皇道精神ノ發揚ノ教育ガ不十分デアル、此ノ點ハ本法ガ海運發達ノ爲ニ重大ナル法案デアルト同時ニ、之ヲ動カスベキ船員ノ中ニ、日本ノ一流ノ代表的ノ郵船會社ノ船員ノ中ニ、斯ウ云フ事ガアツタト云フコトハ、是ハ商船教育ニ重大ナル缺陷ガアルノデヤナイカ、此ノ點ヲ文部御當局ニ御尋ネシマス、サウシテ文部當局ハ之ヲ御認メニナツタナラバ、之ヲ是正スル對策ハドウカ、更ニ遞信大臣ニモ伺ヒタイ、而モ私ノ承ル所ニ依レバ遞信御當局ハ此ノ點ニ付テハ度々ノ警告ヲ發シテ居ルサウデアリマス、而モ此ノ點ニ付テハ會社ハ少シモ此ノ警告ヲ聽イタ跡ガ現ハレテ居ラナイ、此ノ點ニ付テハ遞信御當局ノ方ニ郵船、商船ニ對シテハ管理ヲスベキ何カ特別ノ役人ガアルト云フコトヲ聽イテ居リマスガ、或ハ違ツテ居ルカモ知レマセヌガ、何レニセヨ斯ウ云フコトハ重大ナル問題デアルカラ、

遞信大臣ハ思ツテ此ノ郵船會社ヲ國家管理ニサレタラ如何、大谷社長以下ノ者ニ委シテ居ツタ駄目デアル、是ハ斯ウ云フ重厚ナル保護ヲ與ヘテ居ルカラ其ノ恩ニ馴レテ居ルノデアツテ、最早斯ウ云フ不祥ナル人事ヲ放ツテ置クト云フヤウナ會社ハ、ハ補助金ヲヤル必要モナケレバ、更ニソレ以上ノ只今本委員會ニ於テ問題ニナツテ居ルヤウナサウ云フ保護政策ニ均霑サセル必要ハナイカラ、是ハ國家ガ直チニ郵船會社ニ對シテ國家管理ヲサレル、勿論準備ハ要ルデセウガ、サウ云フ御意思ガアルカ、現ニ私此處ニ持ツテ居リマスルガ、此ノ「國策」ニ即應シ得ザル日本郵船ヲ即時國家管理ニセヨ、無能ナル郵船役員カラ政府ハ其ノ實權ヲ取レ」是モ大阪更科某ノ「ピラ」デアリマス、以上ノ點ニ付テ文部當局及ビ遞信大臣ノ御所見ヲ伺ヒタイと思ヒマス

○小柳政府委員 只今商船學校ノ教育ニ付キマシテ御質問デアリマシタ、私ヨリ御答致シタイト存ジマス、海國日本ノ要求ニ基キマシテ優秀ナル船員ヲ教育スルコトニ付キマシテハ、勿論化學、技術ノ蘊奧ヲ極メルヤウニシナケレバナリマセヌガ、ソレト同時ニ立派ナ人格ヲ養成スルコトガ極メテ必要デアルト存ジマス、殊ニ船舶ノ實務竝ニ其ノ運用ニ際シマシテ、船ノ特異性ニ徴シマシテ、最モ必要ト感ゼラレルコトハ、嚴肅ナル規律ニ服スルト云フ事ガ其ノ一ツデアリマス、嚴肅ナル規律ニ服シマシテ、犧牲奉公ノ誠ヲ致スヤウニ教養スルコトガ固ヨリ必要デアルト存ジマス、又船ノ特異性ニ關係致シマシテ、健實ナル思想ヲ養成シテ、苟モ附和雷同ト云フヤウナコトノナイヤウニスルコトモ亦極メテ大切ト思フノデアリマス、學校ニ於キマシテハ一般的ノ人格ノ陶冶ニ努力ハ致シテ居リマスルガ、殊ニ是等ノ點ニ付キマシテ從來重點ヲ置イテ教育ヲシテ居ツタノデアリマスガ、將來モ一層此ノ點ニ付キマシテ努力シナケレバナラヌト存ジマス、只今御話ノヤウナコトハ勿論當局トシマシテモ十分ニ注意ヲ拂ヒマシテ、立派ナ優秀ナル海員ヲ養成スルコトニ一層努力シナケレバナラヌト存ジテ居リマス、先刻御話ノ中ニアリマシタ郵船青年同窓會ヨリ明朗會ニ寄附ノコトニ付キマシテハ、目下取調ベ研究中デアリマス、左様御諒承願ヒマス

○鹽野國務大臣 明朗會ハ郵船社内ニ於ケル一部ノ會デアリマスガ、其ノ活動ハ漸ク盛ニナツテ、我が海運ノ消長ニ影響スルト云フヤウナコトニナリマスレバ、是ハ極

メテ重大ナルコトデアリマス、遞信當局ト致シマシテモ、從來再三ノ警告ヲ發シテ居ルノデアリマス、更ニ今回監査員ノ制度ヲ設ケマシテ、嚴重ニ是ガ監督指導ニ當ルコトニ致シテ居リマス、尙ホ此ノ活動ノ模様ニ依リマシテ關係官廳トモ連絡ヲ取ツテ、適當ニ善處致シタイト考ヘマス、只今ノ所國家管理ニ移スト云フヤウナ考ハ持ツテ居リマセヌ

○米窪委員 船員ヲ罰スル法規ガアルノデアリマシテ、此ノ船員ヲ懲罰スル法規ハ、單ニ技術的ニ船ガ衝突シタカラオ前ノ免狀ハ一箇月停止スル、或ハ譴責スル、或ハ其ノ他ノ海技免狀所有者トシテ、技術的ノ問題トシテノミ論ズルノデハナクシテ、今私ガ指摘シタヤウナ所謂操行上ニ於テ、社會人トシテ人ノ模範ニナラナイト云ツタ時ニモ、此ノ海員免狀ヲ剝奪スルコトガ出來ルヤウニ法規ガ決メテアルト解釋シテ居リマスルガ、此ノ點ハ遞信大臣ハ其ノ決意ガアルカ、例ヘバ明朗會ノ海員ノ中、最近ノ新聞ヲ見マス、熱田丸ノ無線電信技師ヲ毆打シテ、ソレガ爲ニ無線電信技師ハ一致シテ其ノ船ニ乗ラナイ、將ニ熱田丸ハ運航不能ニ陥ラウトシタト云フヤウナコトガアルノデアリマス、船主ノ意思ヲ無視シテ、上長ノ言フ

コトヲ聽カズニ同僚ヲ毆打シテ、ソレガ爲ニ船ヲ運航不能ニ陥レヨウトシタ者ハ、會社ノ社規ニ依ツテ之ヲ懲罰スルバカリデナク、海員免狀ヲ發行シテ居ル遞信省ニ於テ免狀ヲ取上ゲルトカ、或ハ停止スルトカ、或ハ遞信省ニ呼出シテ譴責ヲ與ヘルトカ、斯ウ云ツタコトヲ發動サレル御意思ガアルカドウカ

○伊勢谷政府委員 一般船員ニシテ亂醉其ノ他ノ失行ガアリマシタ場合ニ於キマシテハ、懲戒法ニ於テ處罰スル規定ガアリマスルコトハ仰セノ通りデアリマス、從來ニ於キマシテモ左様デアリマスルガ、今後ニ於キマシテモ左様ナル證據歴然タル者ニ對シマシテハ、處罰スル意同デアリマスルコトハ變化ゴザイマセヌ

○米窪委員 文部政務次官ノ先程ノ御答辯デハ、私納得ガ行キ兼ネルノデアリマス、是ハ恐ラク商船學校ノ教育ニ付テ十分ナル御知識ヲ持ツテ居ラレナイカラ、アア云フ抽象的ナ御答デアツタト思ヒマスルガ、更ニ折返シテ御尋シタイ點ハ、具體的ニ申上ゲレバ、例ヘバ國體明徴或ハ皇道精神ト云フヤウナ精神修養講座ヲ特ニ御設ケニナル積リデアルカ、ソレカラ卒業後モ時々成績、操行ニ付テ關係ノ會社カラ報告サセル

ト云フヤウナ義務ヲ負ハセル、サウ云ツタコトニ付テ文部當局トシテ御考ガアルカ、此ノ點ヲ御伺シマス

○小柳政府委員 先刻教養ニ付キマシテ申述ベマシタガ、御述ノ點ハ、吾々ト致シマシテモ十分考ヘナケレバナラヌコトト存ジマスルノデ、一層教養ノ徹底ヲ圖リタイト存ジマス、只今國體明徴、或ハ日本精神ト云フコトニ付キマシテノ何カ特別ノ講座ヲ設ケル考ガアルカドウカト云フヤウナ御質問ガアリマシタガ、當局ト致シマシテハ、勿論是等ノ精神ハ日本人トシテモ、時局ニ顧ミマシテモ、極メテ重要ナコトデアリマスカラ、強調スルコトハ勿論デハアリマスルガ、此ノ爲ニ特別ノ講座ヲ設ケルト云フヤウナ考ハ持ツテ居リマセヌ、又卒業後ノ行動ニ付キマシテ、常ニ母校トノ連絡ヲ取りマシテ、一層立派ナ海員ニナルコトヲ希望ヲ致シマシテ、ソレノ考ヘテハ居リマスガ、特ニドウ云フ方法ヲ設ケルガ宜シイカト云フコトニ付キマシテ、茲ニ申上ゲルマデノ成案ハアリマセヌガ、將來十分考究致タイト存ジマス

局當ニ伺ヒタイト思ヒマス、先程冒頭ニ申上ゲタノデアリマスガ、折角良イ船ヲ澤山御拵ヘニナルガ、其ノ船ヲ動かス船員ノ問題デアリマス、高級船員ニ關スル點ハ、先程企畫院ノ總裁ニ對スル同僚小山委員ノ質問デ略々盡キテ居ルト思ヒマスカラ、私多クヲ申上ゲマセヌ、私トシテ御伺致シタイトハ普通船員ニ對スル養成及ビ紹介ノ問題デアリマス、遞信大臣ノ御意見トシテ、昭和十六年末ニハ現在ノ船舶所有量ヨリモ二百万噸増加スル、昭和十七年ノ末ニハ更ニ五百万噸殖エル、昭和十七年ニハ合計七百五十噸ニナルト云フコトデアリマス、サウスルト今日一千噸以上ノ船舶ガ四百萬噸トシマシテ、其ノ差三百五十萬噸——詳シイ噸數及ビ隻數ガ遞信省ノ方ニオアリデアレバ御伺シテモ宜イノデスガ、大體三百五十萬噸、ソレデ一隻五千噸ト見マシテモ七百隻ト云フ船ガ、コロ四年間ニハ出來上ルト云フコトニナルノデアリマシテ、此ノ七百隻ノ適ニ乗込ム普通船員、一隻三十人平均トシマシテモ二万一千人ト云フモノガ要ルノデアリマス、此ノ二万一千人ト云フモノガ四年間ニ果シテ得ラレルカドウカ、此ノ點ハ吾々トシテハ甚ダ心細イノデアリマシテ、而モ四年間ニハ船員ヲ廢業スル者、死亡スル者、轉業スル

者ガ相當ニ出テ來ルノデアツテ、所謂自然減員ト云フモノガ相當出ルノデアリマス、

レテ居ルノデアリマスカラ、成ベク簡單ニ願ヒマス

○米達委員 高級船員ニ付テノ御意見ハ澤

アル、船ハ何時デモ出來マス、半年カ一年デ船ハ出來マスルガ、之ヲ動カス所ノ普通船員、而モ「エーブル・シーマン」ト言ヒマ

ナル「スピーディー」ナ昇進デアリマス、ソレハ本人ニ取ツテハ洵ニ結構デアリマスカラ見ルト、不熟練船員ガ澤山優秀船員ニ乗込ムト云フコトニナル、是ハ高級海員ノ場合ト同ジデアリマス、先程小山君ハ八十歳ノ船長ノ例ヲ引イタノデアリマスガ、普通船員ノ場合ハ今度ハ年ガ若過ギル、從來ハ海上ノ經驗ノナイ者ハ全體ノ一割五分位デアツタノガ、今日デハ四割マデガ經驗ガナイ、私共ノ方デハ之ヲ「山出シ」ト言ヒマスカラ、「山出シ」ノ「ボット出」ガ出テ來テ、僅ニ半年デ四十圓ト云フ給料ヲ貰ヒ、熟練船員トシテノ自分等ノ職務ニ就ク者デス、是ハ今後此ノ海運政策ノ上ニ重大ナ點デアルト思ヒマス、委員長ハ簡單ニト云フコトデアリマスカラ、斯ウ云フコトヲ考ヘルト、中々簡單ニハ質問出來マセス、是ハ極メテ重大ナル點デアリマス、之ニ對シテ遞信省ハ何カ御對策ガアリマスカ、之ヲ伺ヒタイ

ソコデ二万一千人ノ外ニ若干名ハ補充ニ要スル人間ガ要ル、勿論一方船ノ遭難或ハ公用船ノ解除ト云フモノガアルカラ、ソコカラ歸ツテ來ル船員ニ依ツテ自然船員ハ彼我相殺サレルコトニナルト思ヒマスガ、兎モ角モ二万一千名ト云フ新シク船ニ乗組ムベキ船員ガ要ルノデアリマス、今マデノ遞信當局ノ所謂海運政策ト云フモノハ、ドウモ私ハ僻ミデ申上ゲル譯デハナイノデアリマスカ、船主ニ金ヲ融通シテヤル、所謂船主ニ資本ヲ融通シテヤルヤウニ興業銀行ニ交渉スル、或ハ造船業者ニ補助金ヲヤル、或ハ船舶所有者ニ航路補助金ヲヤル、斯ウ云ツタ重厚ナル海運保護政策ハ物的資材ノ方面ニ向ケラレテ、之ヲ動カスベキ船員ノ人的資材ノ方々ハ甚ダ其ノ施設ガ不十分デアル、今日ハ物動計畫ニ於キマシテモ、生産力擴充ノ計畫ニ於テモ、人的資材ノ重要ナコトガ益、力説サレテ居ル今日、寧ロ御當局ガ此ノ方面ニ餘リ注意ヲ拂ハレナイト云フコトハ、私ハ甚ダ遺憾デアルト思フノデアリマス

山出マシタガ、普通船員ニ對シテハ出テ居リマセスカラ、小山君ト諒解ノ上ニ於テ質問シテ居リマス——サウシテ昭和十三年末ニ於ケル就職希望船員ハ水夫長、火夫長級ノ者ガ二百九人、舵取、油差等ガ二百七十一人、甲板部ノ倉庫番、或ハ機關部ノ倉庫番ト云フモノガ六十人、水夫級ガ六百三十八人、見習ガ二百五十一人、計千四百二十九人シカアリマセス、ソレニ對シマシテ、是カラ出來ル船ハ二万一千人ヲ要スルコトニナルト、極ク簡單ニ言ヘバ二万人足ラズノ普通船員ガ新シク要スルコトニナルノデアリマスカ、此ノ點ハ遞信當局ハドンナ御考デアルカ、遞信當局ハ先程小山君ノ言ハレタヤウニ、從來公立商船學校ガハツアツタ中、四ツガ文部省ノ直轄ニナリマシテ、残りノ四ツヲ遞信省所管ニ移シテ、サウシテ主トシテ普通船員ヲ養成スルコトニ使ハレルト云フコトデアリマス、併シソレハ先ノコトデ、現在デハ其ノ中ノ三ツハ依然トシテ今マデノ方針デ、所謂高級船員ヲ養成スルト云フコトデアリマスカ、何レニシテモ普通船員ノ養成ト云フコトハ是ハ極メテ重要ナコトデア

シテ、熟練船員ト云フモノハサウ簡單ニ出テ來ルモノデナイ、今日海事協同會ニ現ハレタ所ノ統計ハドウ云フコトヲ示シテ居ルカト云フト、段々ト熟練普通海員ガナクナツテ行ク、其ノ後ヲ填メル爲ニ見習海員ガ採用サレテ非常ニ昇進ガ早イ、今マデ見習海員ト云フモノハ、最初船ニ乗ツテ六箇月ノ間ハ僅ニ十五圓ノ月給デ、サウシテ六箇月經ツテ、其ノ次ノ六箇月ガ三十圓、更ニ其ノ次ノ六箇月ガ三十五圓、サウシテ一年半經ツテ漸ク四十圓ノ本員ニナルコトニナツテ居ルノデアリマス、然ルニ今日ハ陸上ニ於テ重工業ノ會社ニ少青年ガ吸收サレル、或ハ滿洲方面ニ青少年ガ所謂移民群トシテ行ク、斯ウ云フコトデ以テ、到底船ニ乗ツテ船ヲ動カスト云フ殊勝ナ若者ハナクナツテ來タ、是ニ於テサウ云フ所ヘ取ラレルコトト競争スル爲ニハ、十五圓ノ給料デハイケナイト云フコトデ、最初カラ三十圓ヤル、或ハ三十五圓ヤル、斯ウ云フコトデ、今マデ一年半掛ツテ漸ク熟練船員トシテノ四十圓貫ツタモノガ、今日デハ半年デ以テ四十圓貫フト云フヤウナ、非常

ナル「スピーディー」ナ昇進デアリマス、ソレハ本人ニ取ツテハ洵ニ結構デアリマスカラ見ルト、不熟練船員ガ澤山優秀船員ニ乗込ムト云フコトニナル、是ハ高級海員ノ場合ト同ジデアリマス、先程小山君ハ八十歳ノ船長ノ例ヲ引イタノデアリマスガ、普通船員ノ場合ハ今度ハ年ガ若過ギル、從來ハ海上ノ經驗ノナイ者ハ全體ノ一割五分位デアツタノガ、今日デハ四割マデガ經驗ガナイ、私共ノ方デハ之ヲ「山出シ」ト言ヒマスカラ、「山出シ」ノ「ボット出」ガ出テ來テ、僅ニ半年デ四十圓ト云フ給料ヲ貰ヒ、熟練船員トシテノ自分等ノ職務ニ就ク者デス、是ハ今後此ノ海運政策ノ上ニ重大ナ點デアルト思ヒマス、委員長ハ簡單ニト云フコトデアリマスカラ、斯ウ云フコトヲ考ヘルト、中々簡單ニハ質問出來マセス、是ハ極メテ重大ナル點デアリマス、之ニ對シテ遞信省ハ何カ御對策ガアリマスカ、之ヲ伺ヒタイ

○野田委員長 一寸米達君ニ申上ゲマスカ、此ノ點ニ付テハ既ニ質問應答ガ繰返サ

養成ト云フコトハ是ハ極メテ重要ナコトデア

アル、船ハ何時デモ出來マス、半年カ一年デ船ハ出來マスルガ、之ヲ動カス所ノ普通船員、而モ「エーブル・シーマン」ト言ヒマ

ナル「スピーディー」ナ昇進デアリマス、ソレハ本人ニ取ツテハ洵ニ結構デアリマスカラ見ルト、不熟練船員ガ澤山優秀船員ニ乗込ムト云フコトニナル、是ハ高級海員ノ場合ト同ジデアリマス、先程小山君ハ八十歳ノ船長ノ例ヲ引イタノデアリマスガ、普通船員ノ場合ハ今度ハ年ガ若過ギル、從來ハ海上ノ經驗ノナイ者ハ全體ノ一割五分位デアツタノガ、今日デハ四割マデガ經驗ガナイ、私共ノ方デハ之ヲ「山出シ」ト言ヒマスカラ、「山出シ」ノ「ボット出」ガ出テ來テ、僅ニ半年デ四十圓ト云フ給料ヲ貰ヒ、熟練船員トシテノ自分等ノ職務ニ就ク者デス、是ハ今後此ノ海運政策ノ上ニ重大ナ點デアルト思ヒマス、委員長ハ簡單ニト云フコトデアリマスカラ、斯ウ云フコトヲ考ヘルト、中々簡單ニハ質問出來マセス、是ハ極メテ重大ナル點デアリマス、之ニ對シテ遞信省ハ何カ御對策ガアリマスカ、之ヲ伺ヒタイ

○伊勢谷政府委員 普通船員ノ需給狀況竝ニ將來ノ養成訓練等ニ付キマシテ、御心配ノ數々ヲ伺ヒマシテ洵ニ恐縮ニ存ジマス、御承知ノ通り是ハ高級船員モサウデアツタノデアリマスカ、普通船員ニ付キマシテモ、彼ノ不況時代ニ於キマシテ、非常ナル失業

養成ト云フコトハ是ハ極メテ重要ナコトデア

アル、船ハ何時デモ出來マス、半年カ一年デ船ハ出來マスルガ、之ヲ動カス所ノ普通船員、而モ「エーブル・シーマン」ト言ヒマ

ナル「スピーディー」ナ昇進デアリマス、ソレハ本人ニ取ツテハ洵ニ結構デアリマスカラ見ルト、不熟練船員ガ澤山優秀船員ニ乗込ムト云フコトニナル、是ハ高級海員ノ場合ト同ジデアリマス、先程小山君ハ八十歳ノ船長ノ例ヲ引イタノデアリマスガ、普通船員ノ場合ハ今度ハ年ガ若過ギル、從來ハ海上ノ經驗ノナイ者ハ全體ノ一割五分位デアツタノガ、今日デハ四割マデガ經驗ガナイ、私共ノ方デハ之ヲ「山出シ」ト言ヒマスカラ、「山出シ」ノ「ボット出」ガ出テ來テ、僅ニ半年デ四十圓ト云フ給料ヲ貰ヒ、熟練船員トシテノ自分等ノ職務ニ就ク者デス、是ハ今後此ノ海運政策ノ上ニ重大ナ點デアルト思ヒマス、委員長ハ簡單ニト云フコトデアリマスカラ、斯ウ云フコトヲ考ヘルト、中々簡單ニハ質問出來マセス、是ハ極メテ重大ナル點デアリマス、之ニ對シテ遞信省ハ何カ御對策ガアリマスカ、之ヲ伺ヒタイ

養成ト云フコトハ是ハ極メテ重要ナコトデア

アル、船ハ何時デモ出來マス、半年カ一年デ船ハ出來マスルガ、之ヲ動カス所ノ普通船員、而モ「エーブル・シーマン」ト言ヒマ

アル、船ハ何時デモ出來マス、半年カ一年デ船ハ出來マスルガ、之ヲ動カス所ノ普通船員、而モ「エーブル・シーマン」ト言ヒマ

ナル「スピーディー」ナ昇進デアリマス、ソレハ本人ニ取ツテハ洵ニ結構デアリマスカラ見ルト、不熟練船員ガ澤山優秀船員ニ乗込ムト云フコトニナル、是ハ高級海員ノ場合ト同ジデアリマス、先程小山君ハ八十歳ノ船長ノ例ヲ引イタノデアリマスガ、普通船員ノ場合ハ今度ハ年ガ若過ギル、從來ハ海上ノ經驗ノナイ者ハ全體ノ一割五分位デアツタノガ、今日デハ四割マデガ經驗ガナイ、私共ノ方デハ之ヲ「山出シ」ト言ヒマスカラ、「山出シ」ノ「ボット出」ガ出テ來テ、僅ニ半年デ四十圓ト云フ給料ヲ貰ヒ、熟練船員トシテノ自分等ノ職務ニ就ク者デス、是ハ今後此ノ海運政策ノ上ニ重大ナ點デアルト思ヒマス、委員長ハ簡單ニト云フコトデアリマスカラ、斯ウ云フコトヲ考ヘルト、中々簡單ニハ質問出來マセス、是ハ極メテ重大ナル點デアリマス、之ニ對シテ遞信省ハ何カ御對策ガアリマスカ、之ヲ伺ヒタイ

養成ト云フコトハ是ハ極メテ重要ナコトデア

アル、船ハ何時デモ出來マス、半年カ一年デ船ハ出來マスルガ、之ヲ動カス所ノ普通船員、而モ「エーブル・シーマン」ト言ヒマ

アル、船ハ何時デモ出來マス、半年カ一年デ船ハ出來マスルガ、之ヲ動カス所ノ普通船員、而モ「エーブル・シーマン」ト言ヒマ

ナル「スピーディー」ナ昇進デアリマス、ソレハ本人ニ取ツテハ洵ニ結構デアリマスカラ見ルト、不熟練船員ガ澤山優秀船員ニ乗込ムト云フコトニナル、是ハ高級海員ノ場合ト同ジデアリマス、先程小山君ハ八十歳ノ船長ノ例ヲ引イタノデアリマスガ、普通船員ノ場合ハ今度ハ年ガ若過ギル、從來ハ海上ノ經驗ノナイ者ハ全體ノ一割五分位デアツタノガ、今日デハ四割マデガ經驗ガナイ、私共ノ方デハ之ヲ「山出シ」ト言ヒマスカラ、「山出シ」ノ「ボット出」ガ出テ來テ、僅ニ半年デ四十圓ト云フ給料ヲ貰ヒ、熟練船員トシテノ自分等ノ職務ニ就ク者デス、是ハ今後此ノ海運政策ノ上ニ重大ナ點デアルト思ヒマス、委員長ハ簡單ニト云フコトデアリマスカラ、斯ウ云フコトヲ考ヘルト、中々簡單ニハ質問出來マセス、是ハ極メテ重大ナル點デアリマス、之ニ對シテ遞信省ハ何カ御對策ガアリマスカ、之ヲ伺ヒタイ

養成ト云フコトハ是ハ極メテ重要ナコトデア

アル、船ハ何時デモ出來マス、半年カ一年デ船ハ出來マスルガ、之ヲ動カス所ノ普通船員、而モ「エーブル・シーマン」ト言ヒマ

アル、船ハ何時デモ出來マス、半年カ一年デ船ハ出來マスルガ、之ヲ動カス所ノ普通船員、而モ「エーブル・シーマン」ト言ヒマ

ナル「スピーディー」ナ昇進デアリマス、ソレハ本人ニ取ツテハ洵ニ結構デアリマスカラ見ルト、不熟練船員ガ澤山優秀船員ニ乗込ムト云フコトニナル、是ハ高級海員ノ場合ト同ジデアリマス、先程小山君ハ八十歳ノ船長ノ例ヲ引イタノデアリマスガ、普通船員ノ場合ハ今度ハ年ガ若過ギル、從來ハ海上ノ經驗ノナイ者ハ全體ノ一割五分位デアツタノガ、今日デハ四割マデガ經驗ガナイ、私共ノ方デハ之ヲ「山出シ」ト言ヒマスカラ、「山出シ」ノ「ボット出」ガ出テ來テ、僅ニ半年デ四十圓ト云フ給料ヲ貰ヒ、熟練船員トシテノ自分等ノ職務ニ就ク者デス、是ハ今後此ノ海運政策ノ上ニ重大ナ點デアルト思ヒマス、委員長ハ簡單ニト云フコトデアリマスカラ、斯ウ云フコトヲ考ヘルト、中々簡單ニハ質問出來マセス、是ハ極メテ重大ナル點デアリマス、之ニ對シテ遞信省ハ何カ御對策ガアリマスカ、之ヲ伺ヒタイ

養成ト云フコトハ是ハ極メテ重要ナコトデア

アル、船ハ何時デモ出來マス、半年カ一年デ船ハ出來マスルガ、之ヲ動カス所ノ普通船員、而モ「エーブル・シーマン」ト言ヒマ

アル、船ハ何時デモ出來マス、半年カ一年デ船ハ出來マスルガ、之ヲ動カス所ノ普通船員、而モ「エーブル・シーマン」ト言ヒマ

ナル「スピーディー」ナ昇進デアリマス、ソレハ本人ニ取ツテハ洵ニ結構デアリマスカラ見ルト、不熟練船員ガ澤山優秀船員ニ乗込ムト云フコトニナル、是ハ高級海員ノ場合ト同ジデアリマス、先程小山君ハ八十歳ノ船長ノ例ヲ引イタノデアリマスガ、普通船員ノ場合ハ今度ハ年ガ若過ギル、從來ハ海上ノ經驗ノナイ者ハ全體ノ一割五分位デアツタノガ、今日デハ四割マデガ經驗ガナイ、私共ノ方デハ之ヲ「山出シ」ト言ヒマスカラ、「山出シ」ノ「ボット出」ガ出テ來テ、僅ニ半年デ四十圓ト云フ給料ヲ貰ヒ、熟練船員トシテノ自分等ノ職務ニ就ク者デス、是ハ今後此ノ海運政策ノ上ニ重大ナ點デアルト思ヒマス、委員長ハ簡單ニト云フコトデアリマスカラ、斯ウ云フコトヲ考ヘルト、中々簡單ニハ質問出來マセス、是ハ極メテ重大ナル點デアリマス、之ニ對シテ遞信省ハ何カ御對策ガアリマスカ、之ヲ伺ヒタイ

養成ト云フコトハ是ハ極メテ重要ナコトデア

アル、船ハ何時デモ出來マス、半年カ一年デ船ハ出來マスルガ、之ヲ動カス所ノ普通船員、而モ「エーブル・シーマン」ト言ヒマ

アル、船ハ何時デモ出來マス、半年カ一年デ船ハ出來マスルガ、之ヲ動カス所ノ普通船員、而モ「エーブル・シーマン」ト言ヒマ

ナル「スピーディー」ナ昇進デアリマス、ソレハ本人ニ取ツテハ洵ニ結構デアリマスカラ見ルト、不熟練船員ガ澤山優秀船員ニ乗込ムト云フコトニナル、是ハ高級海員ノ場合ト同ジデアリマス、先程小山君ハ八十歳ノ船長ノ例ヲ引イタノデアリマスガ、普通船員ノ場合ハ今度ハ年ガ若過ギル、從來ハ海上ノ經驗ノナイ者ハ全體ノ一割五分位デアツタノガ、今日デハ四割マデガ經驗ガナイ、私共ノ方デハ之ヲ「山出シ」ト言ヒマスカラ、「山出シ」ノ「ボット出」ガ出テ來テ、僅ニ半年デ四十圓ト云フ給料ヲ貰ヒ、熟練船員トシテノ自分等ノ職務ニ就ク者デス、是ハ今後此ノ海運政策ノ上ニ重大ナ點デアルト思ヒマス、委員長ハ簡單ニト云フコトデアリマスカラ、斯ウ云フコトヲ考ヘルト、中々簡單ニハ質問出來マセス、是ハ極メテ重大ナル點デアリマス、之ニ對シテ遞信省ハ何カ御對策ガアリマスカ、之ヲ伺ヒタイ

養成ト云フコトハ是ハ極メテ重要ナコトデア

アル、船ハ何時デモ出來マス、半年カ一年デ船ハ出來マスルガ、之ヲ動カス所ノ普通船員、而モ「エーブル・シーマン」ト言ヒマ

アル、船ハ何時デモ出來マス、半年カ一年デ船ハ出來マスルガ、之ヲ動カス所ノ普通船員、而モ「エーブル・シーマン」ト言ヒマ

ナル「スピーディー」ナ昇進デアリマス、ソレハ本人ニ取ツテハ洵ニ結構デアリマスカラ見ルト、不熟練船員ガ澤山優秀船員ニ乗込ムト云フコトニナル、是ハ高級海員ノ場合ト同ジデアリマス、先程小山君ハ八十歳ノ船長ノ例ヲ引イタノデアリマスガ、普通船員ノ場合ハ今度ハ年ガ若過ギル、從來ハ海上ノ經驗ノナイ者ハ全體ノ一割五分位デアツタノガ、今日デハ四割マデガ經驗ガナイ、私共ノ方デハ之ヲ「山出シ」ト言ヒマスカラ、「山出シ」ノ「ボット出」ガ出テ來テ、僅ニ半年デ四十圓ト云フ給料ヲ貰ヒ、熟練船員トシテノ自分等ノ職務ニ就ク者デス、是ハ今後此ノ海運政策ノ上ニ重大ナ點デアルト思ヒマス、委員長ハ簡單ニト云フコトデアリマスカラ、斯ウ云フコトヲ考ヘルト、中々簡單ニハ質問出來マセス、是ハ極メテ重大ナル點デアリマス、之ニ對シテ遞信省ハ何カ御對策ガアリマスカ、之ヲ伺ヒタイ

養成ト云フコトハ是ハ極メテ重要ナコトデア

アル、船ハ何時デモ出來マス、半年カ一年デ船ハ出來マスルガ、之ヲ動カス所ノ普通船員、而モ「エーブル・シーマン」ト言ヒマ

アル、船ハ何時デモ出來マス、半年カ一年デ船ハ出來マスルガ、之ヲ動カス所ノ普通船員、而モ「エーブル・シーマン」ト言ヒマ

ナル「スピーディー」ナ昇進デアリマス、ソレハ本人ニ取ツテハ洵ニ結構デアリマスカラ見ルト、不熟練船員ガ澤山優秀船員ニ乗込ムト云フコトニナル、是ハ高級海員ノ場合ト同ジデアリマス、先程小山君ハ八十歳ノ船長ノ例ヲ引イタノデアリマスガ、普通船員ノ場合ハ今度ハ年ガ若過ギル、從來ハ海上ノ經驗ノナイ者ハ全體ノ一割五分位デアツタノガ、今日デハ四割マデガ經驗ガナイ、私共ノ方デハ之ヲ「山出シ」ト言ヒマスカラ、「山出シ」ノ「ボット出」ガ出テ來テ、僅ニ半年デ四十圓ト云フ給料ヲ貰ヒ、熟練船員トシテノ自分等ノ職務ニ就ク者デス、是ハ今後此ノ海運政策ノ上ニ重大ナ點デアルト思ヒマス、委員長ハ簡單ニト云フコトデアリマスカラ、斯ウ云フコトヲ考ヘルト、中々簡單ニハ質問出來マセス、是ハ極メテ重大ナル點デアリマス、之ニ對シテ遞信省ハ何カ御對策ガアリマスカ、之ヲ伺ヒタイ

養成ト云フコトハ是ハ極メテ重要ナコトデア

アル、船ハ何時デモ出來マス、半年カ一年デ船ハ出來マスルガ、之ヲ動カス所ノ普通船員、而モ「エーブル・シーマン」ト言ヒマ

アル、船ハ何時デモ出來マス、半年カ一年デ船ハ出來マスルガ、之ヲ動カス所ノ普通船員、而モ「エーブル・シーマン」ト言ヒマ

ナル「スピーディー」ナ昇進デアリマス、ソレハ本人ニ取ツテハ洵ニ結構デアリマスカラ見ルト、不熟練船員ガ澤山優秀船員ニ乗込ムト云フコトニナル、是ハ高級海員ノ場合ト同ジデアリマス、先程小山君ハ八十歳ノ船長ノ例ヲ引イタノデアリマスガ、普通船員ノ場合ハ今度ハ年ガ若過ギル、從來ハ海上ノ經驗ノナイ者ハ全體ノ一割五分位デアツタノガ、今日デハ四割マデガ經驗ガナイ、私共ノ方デハ之ヲ「山出シ」ト言ヒマスカラ、「山出シ」ノ「ボット出」ガ出テ來テ、僅ニ半年デ四十圓ト云フ給料ヲ貰ヒ、熟練船員トシテノ自分等ノ職務ニ就ク者デス、是ハ今後此ノ海運政策ノ上ニ重大ナ點デアルト思ヒマス、委員長ハ簡單ニト云フコトデアリマスカラ、斯ウ云フコトヲ考ヘルト、中々簡單ニハ質問出來マセス、是ハ極メテ重大ナル點デアリマス、之ニ對シテ遞信省ハ何カ御對策ガアリマスカ、之ヲ伺ヒタイ

者が出テ参ツタ其ノ結果ト致シマシテ、髓カ文部省ノ方ニ於キマシテモ、商船學校ノ教育人員ヲ御減シニナツタ、是ガ今日高級船員トシテ學校ヲ出テ來ル者ノ數ガ少ナイ一ツノ原因ニモナツテ居ルカトモ思フノデアリマスガ、從來四十名デアツタガ不況時代ニ二十名ニ減シ、更ニソレヲ昭和十二年ニ三十名ニ増加致サレテ居ルヤウデゴザイマス、普通海員ノ方ニ於キマシテモ略、同様なル事情ガアリマシテ、御承知ノ通り失業救済費ト云フモノヲ政府ガ出シマシテ、ソレガ極ク最近マデ繼續シテ居ル、本年度モ此ノ豫算ガアルノデアリマス、然ルニ支那事變ガ始マリマシテカラ、遽ニ或ハ應召者ノ簇出トナリ、或ハ御用船員ノ増加トナリ、或ハ船腹擴充ノ爲ニ要スル船員ノ供給ヲ至急ニ要スルコトナリ、御話ノヤウナ船員ノ不足ヲ感ジテ來タノデアリマスガ、本年一月ノ全國海員ノ職業紹介所ニ現ハレテ來マシタ普通船員ノ需給狀態ヲ見マスト、十二月カラ繰越シテ居ル所ノ求職ノ申込數ガ千四百四十七人、新ニ一月ニ求職ヲ申込ミマシタモノガ四千二百六人、之ニ對シマシテ求人數、詰リ需要ノ方ハ三千七百九十六人デゴザイマシテ、一月中ニ就職ノ成立シタ數ガ三千五百二十一人、而シテ就

職未済ノ者ガ千六百三十八名ヲ算ヘテ居ル狀況デアリマス、是ガ目下ノ狀態デアリマシテ、普通船員ノ方ニ於キマシテモ需給狀態ガ非常ニ逼迫シマシタ狀況デアリマスルケレドモ、而モ一月中ニ於ケル職業紹介所ノ狀況ハ左様ナ次第デゴザイマス、而シテ普通船員ノ養成ニ付キマシテハ、御承知ノ通り現在海事協同會ニ補助金ヲ交付シマシテ、新海員ノ募集ヲ行ハシメ、又海員救済會ニ補助金ヲ交付致シマシテソレヲ行ツテ居リマス、併シナガラ斯ウ云フコトデハヤハリ足リナイト云フ見地カラ致シマシテ、昭和十四年度豫算ニハ船員訓練所設置ノ經費ヲ計上致シテ居リマス、是ハ只今御述ニナリマシタヤウナ不熟練ナル船員ニ再教育ノ機會ヲ與ヘル、又船員ガ陸上産業ニ奪ハレルコトヲ防止スルコトニ效果アルモノト認メマシテ、十四年度ヨリ之ヲ設置スル手筈ニナツテ居リマス、又只今モ御述ニナリマシタヤウニ、逓信省ニ海員養成所ヲ設置致シマシテ、公立商船學校ノ中ノ廢止セラレタモノ、及ビ其ノ他ノ場所ニ之ヲ設置致シマシテ、普通船員ノ中堅階級ヲ教育スルト云フ方針ヲ執ツテ居ルノデゴザイマスガ、將來ニ向ツテハ是等ノ施設ハ更ニ之ヲ擴大強化スルノ必要アリト考ヘテ居ルノ

デアリマス、併シナガラヤハリ仰セノ通りニ、我國海運ノ本當ノ強キ發達ヲ圖リマスガ爲ニハ、ドウシテモ船舶ノ優秀化ヲ圖ルト同時ニ、他方ニ於テ是ト相並ンデ船員ノ優秀化ヲ圖ル必要ハ益、大ナルコトハ疑ヲ容レマセヌ、之ニ依ツテ有爲ナル青年ガ海上ニ樂シンデ進出スルガ爲ニハ、其ノ保護等ニ付キマシテモ考慮スルノ必要アリト認メマシテ、船員保險法ノ實施ヲ既ニ考慮致シテ居ル次第デゴザイマス、將來ニ於キマシテモ此ノ方面ノ施設ニ付キマシテハ十分ナル力ヲ盡シタイト考ヘテ居ル次第デゴザイマス

○米窪委員 管船局長ノ詳シイ御説明ガアツタノデアリマスガ、ドウモ其ノ程度デハ質量兩方面ノ優秀船員ノ保持ト云フコトハ困難デアリマス、其ノ點ニ付テハ私カラ斯ウ云フ對策ガアルガドウカト云フ意見ヲ申上ゲマスカラ、ソレニ付テノ御答辯ヲ願ヒタイ、時間ノ關係上一々質疑ヲ重ネズニ一括シテ申上ゲマス

第一ハ今日即時ニ效果ハ現ハレナクテモ——是ハ要スルニ海事思想ノ普及ガ足ラナイノデアアル、海國日本デアリナガラ海事思想ニ對スル認識ガ極メテ少イト云フコトハ、是ハ議會ノ内ニ於テモ見ラレル、朝野

各方面ニ於テ見ラレルノデアリマシテ、之ニ對シテ海事思想ヲ普及スル爲ノ何カ法人組織デモ作ツテ逓信省監督ノ下ニサウ云フ運動ヲサレル御考ガアリマスカ

其ノ次ニハ海事博物館或ハ海事圖書館ノ如キモノヲ造ツテ海事思想ヲ一般國民ニ普及セシメル必要ガアルト思フガソレハドウカ、費用ノ點ニ付テハ、今日海運業ハ所謂殷賑産業ノ一部門デアリマシテ、船主ニ相當ノ社内留保金ガアルト考ヘマスカラ、船主ニ寄附サセルノガ當然ダと思ヒマス

次ニ海事協同會ノ御話ガアリマシタガ、海事協同會ニ付テハ成程政府カラハ相當ノ補助金ガ行ツテ居リマスガ尙ホ足りマセヌ、今日全國ニ十五箇所ノ船員職業紹介所ガアリマスガ、小サイイ港ニハナイノデアリマス、二万人カラノ新シイ普通船員ヲ必要スル時ニ、十五箇所ノ船員職業紹介所デハ到底間ニ合ハナイ、是ハ最近ニ大藏省ト御交渉ノ上急速ニ船員職業紹介所ノ増加ヲナサル必要ガアルト思フガ、如何デアリマスカ、更ニ海事協同會ハ今日純然タル船主船員ノ自治的經營ノ團體デアリマスガ、是ハ重要ナル各法案ガ出テ居ル今日ニ於キマシテ、政府ハ唯單ナル監督デナク、其ノ執行機關ニ加ハツテ、之ヲ強化シテ行ク必要ガ

アルト思ヒマスガ、之ニ對スル御意見ハドウデアリマスカ、ソレカラ船員ノ職業紹介所ノ問題デアリマスガ、僅ニ一万五千圓位ノ補助金ヲ戴イテ、海事協同會カラ各地ヘ勧誘員或ハ募集員ガ行ツテ所謂山出シノ海員ヲ集メテ居ルノデアリマス、僅カ一万五千圓位デ以テ大増加ヲ來シテ居ル所ノ新船ノ乗組員ヲ見付ケテ來ルコトハ到底出來ナイト思フ、此ノ點ハ十倍位經費ヲ殖ヤサナケレバナラスト思ヒマスガ、之ニ對スル所ノ御意見ハドウデアリマスカ

ソレカラ船員訓練所ノ御話ガ出マシタガ、船員訓練所ハ今年カラ初メテ試ミラレル施設デアリマシテ、既ニ豫算ハ五萬圓ト云フモノヲ貰ツテ居リマスガ、是ハ僅ニ神戶ニ一箇所デアアル、ソレハ大藏省トノ折衝ノ結果五萬圓シカ貰ヘナカツタノデアリマセウガ、僅ニ神戶一箇所ダケデ以テ船員ヲ訓練シヨウナドト云フコトハ、是ハ名前ダケハ宜イノデアリマスガ、實質的ニハ僅ニ神戶一箇所デアアル、ソシナコトデハ駄目デアル、少クトモ日本ノ重要ナル港灣五六箇所ニ御計畫ヲヤウナ船員訓練所ヲ設ケル必要ガアル、此ノ點ハ經費ヲ伴ヒマスガ、是亦船主ニ——船主ハ自分ガ使フ船員ノコトデアリマスカラ、此ノ船主ニ強制的ニ寄附ヲ申

附ケル、サウシテ之ヲ來年度ニ於テハ大藏省ト折衝ノ上公式ニ殖ヤス、斯ウ云フ點ニ付テノ御意見ハドウデアアルカ、ソレカラ船員ニ付キマシテハ先程船員保險法ノコトモ管船局長ハ言ハレタノデアリマスガ、船員保險法ハ要スルニ私此處デ詳シク申上ゲルマデモナク船員ガ病氣シタ場合、或ハ老廢シタ場合ノ保護ノ規定デアリマスガ、此ノ船員ニ對スル病院ガナイ、遞信省ハ郵務電務ノ配達夫其ノ他ニ對シテハ遞信病院ガアリ、鐵道從業員ニ對シテハ鐵道病院ガアリマスガ、船員ニ對シテハ病院ガナイ、此ノ遞信、鐵道病院ハ皆關係アル會社ノ寄附ニ依ツテ出來タモノデアリマスカラ、是亦船主ニ寄附ヲ命ジテ、サウシテ此ノ船員病院ヲ造ラレルト云フコトニ付テノ何カ御考ガアルカ、以上ノ點ヲ對策トシテ私一寸考ヘタコトヲ申シタノデアリマスガ、ソレニ對スル當局ノ御意見ヲ伺ヒマス

○伊勢谷政府委員 第一點ノ御質問ノ海事思想ノ普及ニ關シテ組織ヲ作ツテヤツタラドウカ、斯ウ云フ點ニ付キマシテハ計畫ヲ進捗致シテ居リマス、是ハ出來ルダケ實現致シタイト考ヘテ居リマス、ソレカラ第二ノ海事圖書館、海事博物館ノ設置ニ付キマシテハ未ダ是ハ考ヘテ居リマセス、將來考究

致シタイト存ジマス、海事協同會ノ行ツテ居リマス職業紹介所ハ十五箇所ト云フ御話デアリマシタガ、現在二十一箇所アルノデゴザイマス、是ハ需給ノ關係ニ相當ノ影響ヲ及ボスモノデアリマスカラ、必要ガアリマス場合ニハ是非増加致シタイト考ヘテ居リマス、ソレカラ海事協同會ノ執行機關ノ中ヘ政府ガ入ルコトガ良イカ惡イカト云フコトハ、左様ナコトニ付テ既ニ考究中デゴザイマス、併シ只今ハツキリシタコトハ申上ゲ兼マス、ソレカラ船員ノ職業紹介所ニ付キマシテノ豫算デゴザイマスガ、是ハ費用合計十三萬五千圓ヲ支出シテ居ルノデアリマシテ、一万五千圓デハゴザイマセス、政府ハ相當ナ支出ヲ致シテ居ルト考ヘテ居リマスガ、設置場所ヲ増加スル等ニ依ツテ、必要ナ場合ニ於キマシテハ是ハ十分考慮シタイト考ヘテ居リマス、ソレカラ船員訓練所ニ付キマシテハ先程御話申上ゲマシタ通り、此ノ設置ノ狀況ヲ見マシテ大イニ效果ガアル場合ニ於キマシテハ相當擴張ヲ致シタイト考ヘテ居リマス、ソレカラ病院ノ設

依ツテサウ云フモノヲ設置スルカ否カト云フコトニ付キマシテハ、將來篤ト考究致シタイト存ジマス、之ヲ要スルニ各般ノ施設ヲ講ジマシテ、優秀ニシテ健全ナル海員ヲ將來育成シ、之ヲ包容シテ行クコトニ付キマシテ、將來ニ於キマシテモ遺漏ナキ萬般ノ計畫ヲ進捗致シタイト考ヘテ居ル次第デアリマス

○米窪委員 先程海軍協同會ノ職業紹介所ノ費用一万五千圓ト申シタノハ、私ノ言ヒ方ガ足ラナカツタノデスガ、紹介職介所全部ノ補助金ハ十三萬五千圓デス、私ノ一万五千圓ト云ツタノハ、田舎ヘ行ツテ新會員ヲ募集シテ來ル費用デアリマス、是ハ後程之ヲ増額スル御意見ガアルカト云フコトヲ御尋致シマス、ソレカラ時間ガ經チマシタカラ、委員長ノ御注意モアリマシタノデ、質問ヲスル點ヲ一括シテ申上ゲマス

先ヅ遞信大臣ニ御尋シタイ點ハ、本法ガ公布サレ、而シテ一方ニ於テハ支那ニ新汽船會社ガ出來ル、斯ウ云フコトニナツテ來マス、船主ト船主トノ間ニ於テ、從來行ハレテ居ツタ運賃ノ競争、或ハ航路ノ競争、斯ウ云フモノガ或ル程度マデ統制サレテ行クノデアアル、隨テ配船、運航ノ上ニ於テ經費ガ節約サレテ、採算ガ取り易

クナル、隨テ船主ノ上ゲル利潤ハ從來ヨリモ多クナルト思ヒマス、故ニ事實トシテハ補助金ヲ減ラシテモ少シモ差支ナイ、今日如何ニ補助金ヲ減ラシテモ、其ノ株主ニ配當シテ居ル程度ノ配當ハ出來ルト思ヒマス、之ニ付テ遞信大臣ハドウ云フ御考デアルカ、サウシテ減ラシタモノヲ、今問題ニナツテ居ル海員ノ募集、紹介、養成ノ方面ヘ振向ケル必要ガアルト思ヒマスガ、之ニ對シテノ御意見ヲ伺ヒタイ

其ノ次ニ、今日各船主ハ相當ノ利潤ヲ擧ゲテ居リ、或ル船主ノ如キハ社内留保金ヲ持ツテ居ルト税金ガ課ルシ、使ヒ途ニモ困ルト云フノデ、寄附ヲ盛ニヤツテ居ルト云フ状態デアアル、隨テ其ノ船主ハ今カラ寄り寄り協議シテ、事變ガ濟ンデ、海運界ノ言葉デ言ヒマス、**「スランプ」**——反動期ノ襲來ニ備ヘル爲ニ、共同繫船ヲシナケレバナラス、其ノ繫船ヲシタ時ニ、船主ヲ救済スル爲ノ噸當リ幾ラト云フ積立金ヲ考ヘテ居ルト云フコトデアアル、ソレハ洵ニ結構ナコトデアアルガ、同時ニ事變ガ濟ンデ、澤山ノ御用船ガ歸ツテ來ルト、臨時船員トシテ乗ツテ居ル相當數ノ船員ハソレガ爲ニ當然失業者ニナルコトハ豫想シナケレバナラス、ソレニ對シテ今日相當利潤ヲ擧ゲテ、社内留

保金ノ扱ヒニ因ツテ居ル現状カラ見テ、噸當リ幾ラト云フ金ヲ集メテ、失業船員救済ノ基金ヲ船主協會ノ中ニ設ケル必要ガアルト思フノデアリマス、之ニ對シテ遞信省ハ何等カノ示唆ヲ與ヘル御意嚮ガアルカドウカ

次ニ御尋シタイ點ハ、船體保險ノ問題デアリマス、是ハ先日板谷委員カラモ御話ガアリマシタガ、私ノ所ヘ來テ居ル陳情ニ依リマス、保險會社ノ拵ヘテ居ル協同會ハ甚ダ怪シカラヌモノデアリマス、今日船體及ビ機關其ノ他ニ對スル保險ノ危險分散ヲスル必要ガアツテ、主トシテ英國ニ再保險ヲシテ居リマスガ、英國ニ再保險ヲスル仕事ノ取扱ハ、一切保險會社ノ協同會デヤツテ居ルノデアリマス、隨テ自分ノ所デハ背負ヒ切レナイカラ、外國ニ再保險シテ、保險料ハ相當額海外ヘ正貨トシテ流出スル状態ニナツテ居リマス、是ハ日本ノ財政、經濟上カラ言ツテモ、國際收支ノ「バランス」ヲ取ル上カラ言ツテモ、甚ダ遺憾ナ點デアリマス、政府ハ造船業者ニ融資スル法律案ヲ作ツタリ、船主ニ補助金ヲ與ヘタリナサイマス、是モ洵ニ結構ナコトデアアルガ、同時ニ商工省ト御協議ノ上、ドウシテモ再保險ヲシナケレバ日本ノ保險業者ガ成立タナイト云フコトデアアルナラバ、商工省及ビ遞信

省ノ共同ノ御取扱トシテ、之ニ若干ノ填補ヲスル意味ニ於テ、保險料ノ補給或ハ補償ヲサレル御意嚮ガアルカ、此ノ事變ガ始マル前ニ於テハ、千噸以上ノ小型船デ、舊率ハ噸當リ四圓乃至四圓五十錢デアッタノガ、今日ハ保險協同會ガ勝手ニ引上ゲマシテ、七圓五十錢乃至九圓七十五錢ト云フ、非常ニ暴騰シタ保險料率ニナツテ居リマス、而シテ保險分損ノ場合ハ、四分ノ三シカ認メナイ、其ノ残りノ四分ノ一ハ船舶所有者ガ自家保險ヲシテ居ルト云フ状態デアリマス、保險業者ノ横暴實ニ見ルニ堪ヘザルモノガアリマス、此ノ點ニ付テハ勿論商工省ノ直接管轄ニ屬スルノデアリマスガ、一方船舶所有者ノ立場カラ見ルト、遞信省ノ關係デアリマス、此ノ點ハ先程ノヤウナ御對策ヲ御研究中デアアルカドウカ

トヲ懲懲スル必要ガアルデセウ、同時ニ一方船主ニ對シテハ、各船主ガ區々ニ石炭ヲ買ヒ、區々ニ船内消耗品ヲ買フカラ、勢ヒ茲ニ是等ノ業者ニ危險ガ生ズルノデアアル、之ヲ今度出來ル海員組合、或ハ船主ノ團體ニ於テ共同購入ヲスルコトヲ考ヘルナラバ、相當石炭其ノ他ノ船内ノ消耗品ハ安ク買入レルト思フノデスガ、之ヲ遞信省ハ指導サレル御考ガアルカ

ソレカラ昨日モ同僚委員カラ質問ガ出マシタガ、管船局ハ相當重要ナル仕事ヲシテ居ル、造船ニ對スル指導、運航ニ對スル指導、有ユル船舶行政ヲ指導サレテ居ルノデアリマシテ、今日ノ如ク遞信省ノ一局ニ於テ止マツテ居ルト云フコトハ、仕事ノ範圍ガ非常ニ龐大シテ居ル今日、私ハソレデハ到底運用ガ出來ナイト思フ、殊ニ管船局内ニ於ケル海員課ノ如キハ、船員ノ指導及ビ取締、高級船員ノ試験、或ハ船員ニ配給スル消耗品ノ福利事業、斯ウ云ツタ有ユル事業ヲヤルノデアリマシテ、今日ノ海員課ハ昔ノ管船局ニ匹敵スル仕事ヲシテ居ルノデアリマス、斯ウ云フ所カラ見レバ、私ハ管船局ヲ省ニシテ、海員課ヲ局ニスル位ノ必要ガアルト思ヒマス、現ニ英國デハ之ニ關シテハ、「ボード・オブ・トレード」通商院ト

云フ一ツノ省ニナツテ居ルノデアリマス、取敢ズ管船局ヲ外局ニシテ、モツト海員課ヲ擴大スル必要ガアルト思ヒマス、此ノ點ヲ遞信大臣ニ御伺致シマス

更ニ遞信大臣御自身ノ問題デアリマスガ遞信大臣ハ御承知ノ通り司法大臣ヲ兼ネテ居ルノデアリマス、能ク本會議デモ委員會デモ、司法大臣ト遞信大臣ト間違ヘテ發言シテ居ルコトガアルノデアリマス、是ハ永年司法大臣ヲシテ居ルカラサウ云フコトニナルノデアリマス、司法省ト遞信省トドチラガ重要デアルカ、私ニハ分リマセヌ、併シ仕事ノ上カラハ遞信省ノ方が遙ニ五倍モ六倍モ大キナ仕事ヲシテ居ルト思フノデアリマス、又伺フ所ニ依ルト、大臣ハ遞信省ノ仕事ハ非常ニ面白イト言ツテ居ラレルサウデアリマス、是ハ當然爾カアルベキコトデアアル、是程重大ナ仕事ヲシテ居ツテ、而モ遞信省ガ今日ノ内閣ノ構成ノ上ニ於テ餘リ認メラレテ居ラナイノハ、何時モ兼攝大臣ガ兼ネテ居ルカラデアリマス、遞信大臣ヲ伴食大臣トシテ今マデ世人ガ思フノハ、今日マデ遞信省ガ認メラレナイカラデアリマス、此ノ司法大臣ヲ御辭メニナル御意思ガアルカ、サウシテ事任ノ遞信大臣トシテ御活動ニナル御意思ガアルカ、勿論是ハ大權

ノ命デアリ、閣議ノ問題ニ屬シマスガ、遞信大臣御自身ハドウ御考ニナツテ居ルカ、其ノ點ヲ御伺シテ私ノ質問ヲ終ルコトニ致シマス

○鹽野國務大臣 第一ハ、本法案ガ施行セラレルナラバ、色々統制モ出來、隨テ船會社ノ利潤ガ増スカラ、補助金ヲ減ジテハドウカト云フ質問デアリマス、海運、政策ニ付キマシテハ、各國共ニ是ガ仲張ヲ圖ル爲ニ、補助金ヲ與ヘテ居ルヤウナ次第デアリマス、我國ニ於キマスル補助金ハ、御承知ノヤウニ列強ニ比シマスルト甚ダ少イノデアリマス、隨テ單ニ利潤ガ増スカラ補助金ヲ減少スルト云フ譯ニハ參ラスノデアリマシテ、各航路ノ實情ニ於キマシテ、適當ニ之ヲ増減スル必要ガアラウカト考ヘマス、唯一概ニ補助金ヲ減少スルカト云フ御質問ニ對シテハ寧ロ反對ニ考ヘルノデアリマス、色々アリマスカラ分リ易イ方カラ御答フシマス

管船局ヲ外局トスルヤ否ヤ、是ハ極メテ事務ガ増加シテ參リマスカラ、自然機構ヲ擴大シテ參ル必要アリト考ヘテ居リマス、只今ノ所近ク實施スルト云フ考モゴザイマセヌ

第二ノ船舶ノ再保險ニ關スル問題ニ付キマシテハ、商工省ノ所管ノ事項デアリマス

ルガ、再保險ニ依ツテ正貨ノ流出ヲ極力防止スルコトニ關係各省間ニ協議シ、計畫ヲ進捗中デアリマス

尙ホ次ニ石炭ノ共同購入ノ件ニ關シマシテハ、海運組合法第四條ノ目的事業ノ中ニ、組合員ノ事業ノ爲ニスル共同施設ト云フコトガ書イテアリマシテ、其ノ中ニ含ムコトニナツテ居リマス

ソレカラ失業ニ關シマシテハ、船主ノ團體ヲシテ共同繫船計畫ヲ樹立セシメルト共ニ、不況時ニ於キマシテ運航船ヲ多カラシメ、失業ヲ少クスルト云フコトヲ考ヘテ居リマス

最後ニ司法ト遞信トニ關スル御質問デアリマシタガ、司法ハ勿論地盤ノヤウナモノデアリマス、遞信ノ方ハ其ノ地盤ノ上ニ建テル工物ノヤウナ積極的ナモノデアリマスカラ、各、其ノ仕事ノ上ニ味ヒガ違ツテ居ルノデアリマス、何レモ國家ノ重要ナル事務デアリマシテ、之ニ對シテ大臣ハ勅令ニ依リマシテ兩方兼ネテ居ル、甚ダ微力至ラザルコトヲ恐レテ居ルヤウナ次第デアリマス、今後ノコトニ付キマシテハ唯才上ニ御任セラシテ居ル譯デアリマス

カラ、再質問ヲ致シマス、ソレハ失業對策デスガ、私ハ具體的ニ今日社内留保金其ノ他船主ノ利潤ノ中カラ、順當リ幾ラカヅツノ基金ヲ、船主協會或ハ新ニ出來ル海運組合デ積立テルヤウニ御指導ナサル積リデア

ルカドウカト云フコトト、ソレカラ先程管船局長ノ御答辯ナイ船員募集ノ費用ヲモウ少シ増額スル必要ヲ認メルカト云フコトヲ伺ヒマス

○伊勢谷政府委員 職業紹介所ノ募集費用ヲ増額致シマスコトハ極ク必要ナコトデア

ルト考ヘマス、現在一万五千圓ト仰シヤイマシタガ、二万五千圓ニ致シテ居ルノデアリマス、是ハ足ラナイ分ハドウシテ増シテ行カケレバナラスト考ヘテ居リマス

ソレカラ船員ノ失業對策トシテ、順當リ幾ラト云フモノヲ釀出セシムル意圖アリヤ否ヤト云フコトニ付キマシテハ、現在ノ所其ノ意圖ヲ持チマセヌ、左様ナコトニ付キマシテ考ヘマスヨリモ、先ヅ先ニ前日來御心配ノヤウナ、如何ニシテ船員ヲ充實セシムルカト云フ重大問題ガアリマスノデ、先ヅ之ヲ何トカシテ十分ニ解決シタイト考ヘテ居ル際デゴザイマスカラ、失業ニ付キマシテ基金ヲ積立テシムルト云フヤウナコトハマダ考ヘテ居リマセヌ、唯御承知ノ通り海運界ハ

非常ナ大幅ナ景氣、不景氣デ以テ動搖スル事業デアリマシテ、是ガ爲ニ好況時ニ於テハ非常ニ澤山ノ船員ヲ必要トシ、不況時ニ於キマシテハ澤山ノ船員ノ失業者ヲ生ズルト云フ此ノ狀況ハ、出來ル限り之ヲ是正スルニアラザレバ、健全ナル海運界ノ發達ヲ圖リ得ナイト云フ見地カラ致シマシテ、先ヅ以テサウ云フ動搖ノ幅ヲ極力少クスル施設ヲスル必要ガアル、是ガ即チ事業ノ健全ナル發達ヲ期シ得、他方ニ於キマシテ不況時ニ於ケル船員ノ失業ヲ少ナカラシムルト云フ結果ニナルノデアリマスカラ、此ノ事柄ニ關シマシテハ世界的ニ考究セラレテ居リマス所ノ所謂共同繫船計畫、他ノ言葉デ申シマス海運ノ振興ニ關スル事柄ニ關シマシテハ、是ハ是非共遂行スルノ必要アリト認メテ居ル次第デアリマス、尤モ失業者ガ澤山出テ來ルト云フヤウナ情勢ガ見エテ參リマス場合ニ於キマシテハ、之ニ對シテ相當ノ考慮ヲ拂ツテ行カナケレバナラヌト考ヘテ居リマス

○小山委員 私ハ極メテ簡單ニ質問シマスカラ、前以テ私ノ質問ノ目的ヲ言ツテ置キマスガ、船員ヲドウスルカト云フ問題ノ根本解決ヲ付ケタイ、隨テ政府委員ノ答辯ハ抽象的ナ議論ハ止メテ戴イテ、ヤルカヤラ

ナイカ、ドウスルカト云フコトダケノ御返事ヲ戴ケバ宜イノデス、サウシマセヌト徒ニ長クナリマス、モウ既ニ豫算委員會、此ノ委員會ヲ通ジテ、船員ノ足ラナイト云フコトハ明瞭ニナツタノデアリマス、今年度カラドウシテ宜イカ方法ガ付カナイ、所望シテ來ル船員ト學校ヲ出テ來ル船員トハ、學校ヲ出テ來ル船員ハ寧ロ少クテ、所望シテ來ル船員ノ方ガ多イト云フ爲ニ、今日ニ於テ殖エテ行ク船ニ乗セル人間ガナイト云フコトハ明瞭デス、今日既ニ不足デス、是ガ明年ニナリ、明後年ニナレバナル程不足ニナリマス、隨テ六年後ニハ不足デアルト云フコトハ誰ガ見テモ分ル、其ノ船員ヲドウナサルカ、文部省ハ之ニ對シテ、今年ハ船員ノ補充計畫トシテ公立商船學校ニ生徒ノ募集ヲ御命ジニナツタヤウデアリマスガ、今アル公立商船學校ハ八校アリマシタガ、一校ハ今度廢校ニナリマシテ七校デアリマス、其ノ七校ニハ現在何人ノ生徒ガアツテ、サウシテ之ニ對シテドレダケノ生徒ノ募集ヲ御命ジニナツタカ、實業學務局長カラ伺ヒタイト思ヒマス

○小笠原政府委員 昭和二十年ニ卒業致スベキ中等商船學校ト申シマスカ、ソレハ七校ヲ通ジマシテ三百六十九人居ル計算ニナツテ居リマス、ソレハ昭和二十年ニ卒業致スベキ生徒デゴザイマス

○小山委員 先達テ文部省ノ御計畫トシテ私共ノ拜承シマシタ所ニ依レバ、昭和二十年ニ四百八十人ノ公立商船學校卒業生ヲ出スト云フコトヲ豫算分科會デ言ハレタヤウニ思ヒマスガ、ソレハ間違ッテ居リマスカ

○小笠原政府委員 昭和二十年ニ卒業致スベキ生徒ヲ今年募集致シマス、詰リ今年募集致シマス生徒ハ六年後ノ昭和二十年ニ卒業致スコトニナリマス、今年一校ニ付テ百二十人採レバ、官立ノ四校デ四百八十人ニナル譯デアリマス、ソレガ昭和二十年ニ歩減リヲ見マシテ大體四百人餘リト云フ計算ニナツテ居リマス、所ガ今年ハ公立ノ方ハ學科課程ノ變更ガゴザイマスカラ、從來ノ公立商船學校ハ高等小學校一年修了者ヲ入レテ在學四年デゴザイマス、新ニ官立ニナルベキ商船學校ハ高等小學校卒業生ヲ入レテ在學三年ノ計畫デゴザイマス、ソコデ昭和二十年ニ卒業スベキ者ハ、公立デ申シマスト此ノ四月ニ二年生ニナルモノデアリマス、ソコデ昭和二十年ニ出マス者ガ官公立ヲ通ジテ三百六十九人現在居ル筈デアリマス、ソレニ百人新規募集致シマシテ約四百七十人ト云フ計畫ニナツテ居リマス

○小山委員 サウシマスト此ノ間豫算分科會デ步減リヲ見テ出テ來ル生徒ガ四百八十人ト言ハレタヤウニ記憶シテ居リマスガ、是デハ步減リハ見テ居ナイノデスカ

○小笠原政府委員 步減リヲ見マシテ大體四百八十八人位ノ計畫ニナリマス、一校百二十人募集致シマシテ四百八十人、ソレノ大體十五「パーセント」ノ步減リヲ見マシテ四百八十八人ト云フ計畫ヲ立テテ居ルノデアリマス、今年ハ公立ノ二年ヲ見マスカラ、先程申上ゲマシタヤウニ大體三百七十人、ソレニ百人新規募集シテ四百七十人、ソレガ昭和二十年ニ出ル頃ニハ步減リガアリマセウカラ大體四百八十八人ト云フ計算ニナルノデアリマス

○小山委員 今年募集サレル生徒ハ六年後ニ役ニ立ツト云フコトハ能ク分ツテ居ル、ソレデ私共ノ考ヘテ居ルコトハ、一年デモ早ク船員ヲ養成スルコトヲ目標ニシテ居ル、本年既ニ三百六十九人、ソレニ加フルニ百人、四百六十九人、ソレガ出ル時ニハ步減リヲシマスカラ四百人位ト云フコトニナル、サウスルト最小限度四百八十人ナケレバイカスト云フヤウナ御見込デアアルノガ、モウ既ニ其ノ計畫ガ破レテ來ルト云フコトニナルノデハナイデスカ、此ノ間ノ遞信省ノ御計

算ハ四月ノ登録ヲ見テモウ一遍相談スルト
言ハレタ、文部當局或ハ逓信當局ノ人達ガ
數字ノ基礎ガハツキリシテ居ラヌト云フコ
トヲ豫算分科會デ色々言ハレルコトガ困ル
ト云フヤウナコトヲ仰セラレタ爲ニ、實際
私ハ遠慮シタノデス、此ノ際既ニ船員ガ足
ラヌト云フコトヲアナタ方御認メニナリマ
セヌカ、管船局長ハドウ御考ニナリマスカ、
船員ガ足ラヌト云フコトヲ御認メニナリマ
セヌカ、今年既ニ足ラヌノデス、六年後デ
モ今養成スルダケデハ足ラヌト云フコトガ
明瞭デハナイノデスカ、何處マデモアナタ
方ハ此ノ議會デハ自分達ガ作ツタ案ニコダ
ハツテ、面目ニコダハツテ、國家ノ將來ガ
ドウナラウガ、船員ガ少クナツテ船ノ運航
ガ停マラウガ、自分達ノ面目ヲ保チタイト
云フ客ナ考ヲ御持チニナツテ居ルノデス
カ、率直ニ人ガ足ラヌナラ足ラヌト云フコ
トヲハツキリ決メテ文部當局ト御相談ニナ
ツテ、人間ヲ殖ヤシタラドウデス、今年デ
モ官立ニナリマセヌツタ商船學校ハ依然
トシテ四十人シカ生徒ヲ募集シテ居ラヌ
デスヨ、ドウシテ全體的ニ殖ヤサスノデス
カ、殖ヤス機關ガアルデハアリマセヌカ、
殖ヤスベキ機關ガチヤントアルニ拘ラズ、
一方ノ官立ダケヲ殖ヤシテ、殘ツタ方ヲナ

ゼ御殖ヤシニナラヌカ、ドウシテサウ云フ
客ナコトヲオヤリニナルノデスカ、文部省ハ
ドウシテサウ云フヤウナ片手落ナコトヲオ
ヤリニナルノカ、私ハ不思議ニ思フ、アナ
タ方自分ノ面目ト云ツタヤウナ客ナコトニ
囚ハレナイデ、學校ノ生徒ガ足りナイ、船乗
リガ足ラナクナルト云フコトガ分ツテ居レ
バ、官立ニナツタ學校ニモ、公立デ殘ツテ
居ル學校ニモ一樣ニ人ヲ殖ヤシタラドウ
デスカ、ドウシテソレヲオヤリニナラヌカ、
又四年生四年生ト仰シヤルガ、公立ノ商船
學校ニ入學シタ時ニハ中等學校ト同ジヤウナ
學課ヲ受ケルノデス、最初ハヤハリ中等學校ニ
入學シタト同ジヤウナ學課ヲヤルノデスカ
ラ、中學校ノ二年、三年ノ者ヲ二年生位ニ中
途編入ヲサシテモ間ニ合フノデス、ドウシテ
モ一年生カラ出テ來ナケレバナラヌト云フ
ヤウナモノデハナイ、中途デ募集スルト云フ
方法モアラウト思フ、ナゼオヤリニナラナ
イノデスカ、アナタ方ガ本當ニ國家ノ爲ニ
一年デモ二年デモ早く船員ヲ出スト云フ御
考ナラバドンナ方法デモ立ツデハナイカ、
ナゼオヤリニナラナイノカ、御意向ヲ伺ヒ
タイ

ノ資料ニ依リマス、大體先般來委員會等
デ申上ゲマシタヤウナコトデ先ヅ大體足り
ルト云フコトニナツテ居リマスノデ、其ノ
計畫ヲヤツテ居ルノデアリマス、先程金畫
院總裁トノ問答モアツタヤウデアリマスガ、
更ニ此ノ要員計畫ナルモノガ立チマシテ、
一層ノ海員ヲ要スルヤウニナリマスレバ、
ソレニ基イテ又海員ノ養成方法ガ講ゼラレ
ルト斯ウ考ヘテ居ル次第デアリマス

○小山委員 既ニ此ノ問題ハ今日ニナラヌ
前ニ論ジ盡サレテ居ルノデス、サウシテ數
ガ既ニ足ラヌト云フコトハハツキリ分ツテ
居ルデハアリマセヌカ、今年ガ足ラヌノデ
スヨ、六年間ニ四千八百人不足シテシマフ、
之ヲ代用免狀カ何カヤツテ、船員法規、船
舶法ヲ改正シテ、今マデハ八人乗ツテ居ラ
ナケレバナラヌノヲ職員ハ五人デモ宜イヤ
ウナコトニシテ、サウシテ無理ヲシテヤツ
テ行カナケレバ此ノ六年ハ船ガ動ナカクナ
ルノデス、隨テ六年経テバ、ヤハリ元ノヤ
ウニ五人ノモノヲ八人ニ戻サナケレバナラ
ナイコトハ分リ切ツテ居ルデハアリマセヌ
カ、六年目ニ澤山出テモ、ソレヲ不足シタ
所ノ人員ニ當嵌メルダケデモ四千八百人要
ルノデスヨ、是位ハツキリ分ツテ居ルニ拘
ラズ、分ラナイヤウナ額ヲシテ居ルノハド
ウ云フ譯ダ、若シアナタ方ガ御分リニナラ
ナケレバ、ドウシテ海事教育ヲアナタ方ガ
オヤリニナルノデスカ、僭越千萬ナ話ダト
思フ、國家産業ノ尖端ニ立ツテ、サウシテ
日本海運ノ發展ノ爲ニ貢獻シヨウトスル船
員、國力ノ進展ニ最モ重大ナ關係ノアル所
ノ船員養成ヲ何モ知ラナカッタアナタハ
御辭メニナツタラドウデスカ、文部省ガ出
來ナカツタナラバ船ノ事ヲ知ツテ居ル逓信
省ノ方ニ返シタラドウデス、無理ヤリニ分
リモシナイ學校ヲ持ツテ來テ、始末ニ困ル
ヤウナコトヲスルヨリモ、國家將來ノ方ガ
心配デハナイカ、アナタ方ハソレガ分ツテ
居ルノニヤラナイ、要員計畫ガ云々ト仰シ
ヤルガ、其ノ後管船局長ト御相談ニナリマ
シタカ、此ノ間豫算分科會デ文部大臣ガア
ア云フ答辯ヲサレタガ、其ノ後アナタハ御
相談ニナリマシタカ、生徒募集ヲ此ノ間行
ハレテ、試験ガ濟ンダ、セメテ今度ハ人ヲ
殖ヤシテオイデニナルカト思ツタナラバ、
元ノ儘デス、相談スルト言ハレルガ今年
ノコトハモウ濟ンデ居ルデハアリマセヌ
カ、アナタ方ガ對策ヲ御立テニナルナラバ
直グ出來ルコトデアル、今年ハ四十人ノ募
集ニ對シテ百七八十人ト云フ大量ノ應募者
ガアル、ソレヲ飾ヒ落シテ僅ニ四十人採ツ

テ我慢シテ居ル、ドウシテモツト殖サナイ
ノデスカ

〔委員長退席、中川委員長代理著席〕

要員計畫云々ト言ハレルガ、商船學校ノ教
育ハ何ト云ツテモ文部省ノ責任ダト思ヒマ
ス、アナタノ方デ案ヲ御立デニナルノガ本
當デアアル、サウデナケレバアナタ方ハ責任
ノ地位ニ在リナガラ、眠ツテ居ツテ、遞信
省ガ何カ言ツテ來タラヤル、海軍省ガ何カ
言ツテ來ナケレバヤライ、一體文部省ハ

遞信省ヤ海軍省ノ御用聞ノ廳デハナイト思
フ、ソレ等ガ何ト言ハウガ、アナタ方ニ確
タル案ガアツタナラバ、確タル信念ガアツ
タナラバ、計畫ヲ立テデドン、ヤツタラ
宜イ、遞信省ハ附イテ來イト云フコトデ、
オヤリニナツタラ宜イデハナイカ、良イ計
畫ナラバ、遞信省ノ方ハドンナ計畫ヲシヤ
ウトモ、周圍ノ情勢ガモウサウデナケレバ
ナラスト云フコトガ常識的ニ分レバオヤリ
ニナツタラドウデス、ドウシテモアナタ

方ハ遞信省カラ要員計畫ガ廻ツテ來ナケレ
バ一人デモ人間ヲ殖ヤスコトハ厭ダト云フ
ノデアリマスカ、簡單ニ結論ヲ伺ヒタイ
○小笠原政府委員 要員計畫ニ付テハ、ヤ
ハリ關係省ト協議ヲ致サナケレバナリマセ
ヌ、決シテ遞信省ノ言ヒナリト云フ譯デハ

ゴザイマセヌガ、遞信省ト協議致サナケレ
バナリマセヌカラ、協議ノ整フヤウニ致シ
マスガ、兎ニ角海員ノ養成計畫ニ付テハ基
礎ガ要員計畫ニ置イテゴザイマスノデ、ソ
レノ協議ガ出來ナケレバ、文部省ダケデ進
ム譯ニ參ラナイト考ヘテ居リマス

○小山委員 管船局長ニ伺ヒマス、管船局
長ハ今ノ要員計畫ノ内容ヲ私ハ知りマセヌ
ガ、今ヨリ六年後ノ昭和二十年ニ四百八十
八人ノ高級船員ガ學校カラ出テ來レバ十分
デアアル、斯ウ今デモ御考デアリマセウカ、
ソレヲ伺ヒタイ

○伊勢谷政府委員 昭和二十年ニ付テデア
リマスガ、イツゾヤ文部省關係ノ委員會デ
申述ベマシタ通り、此ノ四月ヲ以チマシテ
登録制ヲ實施シタ狀況ヲ見テ、今後ノ對策
ヲ確ト決メタイ斯様ニ考ヘテ居リマス、而
シテ二十年ニ於テドウカト云フコトハ、今
日ノ船腹擴充計畫ノ上カラ考ヘナケレバナ
ラスモノデアリマスカ、ソレニ付テハ大
體今日ノ高等商船學校、中等商船學校、其
ノ他ノ養成デ一應間ニ合フト云フ數字ハ出
テ居リマスガ、併シ之ニ付キマシテハ、段々
御話モアリ、私ニ於テモ啓發スル所ガ頗
ル多カツタト考ヘテ居リマスカ、再檢討
ヲ加ヘ遺漏ナキ處置ヲ講ジタイと思ヒマス

○小山委員 サウ云フ長々シイ答辯ヲ止メ
テ戴キタイ、アナタ方ノ計畫ガ既ニ時勢ニ
伴ハナイ、再檢討シナケレバナラスト云フ
コトナラバ早クヤオリニナツタラドウデス
カ、四月ニ登録制ヲ實施シテ免狀ヲ持ツテ
居ル者ヲ調べテ見テ、ソレカラヤルト云フ
ノハ、アレヲ政治的解決ヲシヨウト思ツタ
其ノ時ノ申合セデアツタダケデス、アナタ
方ノ調査ガ杜撰デアルト云フコトハ明瞭デ
ヤアリマセヌカ、餘リハッキリシ過ギテ居
ル、又文部省ナドノヤラレル所ノ事柄ガ、
時勢ニ副ハナイト云フコトハハツキリシタ
事實ガアル、昭和七年ニ文部省ハ十一ノ公
立商船學校ヲ廢止シヨウトシタ、其ノ時ニ
若シ廢止シテ御覽ナサイ、今船ナド動キハ
シナイ、公立商船學校ノ生徒ガ奮起シテ全
國のナ運動ヲシテ、漸クアノ學校ガ存置サ
レタ、ソレガ段々今ナクナリマシテ、十一
ノ學校ガ七ツニナリマシテ、募集人員ハ半
減サレタ儘ノ現狀ニアル、ソレガ爲ニ今船
員ガ足ラナイデ居ル、先ノコトノ分ラスト
言ハレルカ知レナイガ、餘リ分ラナ過ギル、
サウ云フヤリ方ダカラ文部省ト云フモノニ
私ハ餘リ頼ラス、唯遞信省管船局ハ何ト云
フテモ船ノコトヲ知ツテ居ル、又知ツテ居
ラナケレバナラス所デアルカラ、アナタナ

ラ少シ位御分リニナルデハナイカと思フ、
ダカラ私ハ其ノ事ヲ言ツテ居ル、船員ガ足
ラナクナルト云フコトハ明瞭デヤアリマセ
ヌカ

〔中川委員長代理退席、委員長著席〕

サウシテ今後六年間ニ不足スル船員ニ對シ
テハ今ノヤウナ船舶法デハイケナイ、船舶
職員ノ數ヲ少クシテモヤツテ行ケルヤウニ
職員法ノ一時的改正位ハ行フデアリマセ
ウ、サウシナケレバヤツテ行ケナイト思フ、
サウスレバソレダケノ不足分ハ、將來澤山
海員ノ出來タ時ニ之ヲ充シテ行カナケレバ
ナラス等デアリマセウ、復員シナケレバナ
ラス等デアアル、ソレヲ考ヘテモ船員ガ必要
ナコトハ分ツテ居ルデアリマセヌカ、サ
ウシテ海員ノ計算ニ付テ表ヲ作ツテ居ル
ガ、表ハ現ニ船ニ乗ツテ居ル者ダケシカ考
ヘテ居ラナイ、九千何百人云フノハ、船ニ
乗ツテ居ル人デアアル、併シ船員ハ機械ナド
トハ違フ、船ニ乗ツタラ其ノ儘機械ノヤウ
ニ取付ケラレルモノデハナイ、六箇月ナリ
一年航海シテ居レバ、陸上デ休養シナケレ
バナラス、ダカラ本當ニ今ハ無理ヲシテ居
リマス、全體ノ「パーセンテージ」カラ云ヘ
バ今ハ僅ニ五六分シカ豫備員ヲ持ツテ居ラ
ヌケレドモ、何處ノ會社ニデモ聞イテ御覽

ナサイ、二割五分カラ三割乃至三割五分ノ豫備員ガナケレバ、船ニ乗ツテ居ル人間ヲ休養サシテ、圓滑ナル配船ハ出來ナイ、三割ノ豫備員ハ要ル、一万人ノ船員ヲ完全ニ働カセルニハ三千人ノ豫備員ガナケレバナラス、ソレ等ノ人が交替々々デ船ニ乗ツテ居ル、アナタ方ナラバ、晝間ハ役所ニオ出デニナツテ、夜家ニ歸レバ遊ンデ居ラレルガ、船員ハサウデハナイ、船ニ乗レバ家ニ歸レナイ寢テモ起キテモ自分ノ職場ニ居ルノデスカラ、長イ航海ヲ終ヘテ家ニ歸レバ、久シ振リニ陸上デ休養ラスル、ソレ故ニドウシテモ三割ノ豫備員ハ必要トスル、ソレダケデモ一万人ノ海員ニ對シテハ、三千人ノ豫備員、合計一万三千人ノ海員ハ要ルデアリマセウ、更ニ陸上ノ郵船會社、商船會社ヲ御覽ニナツテモ分リマスガ、船舶課トカ、造船課トカ、アア云フ技術關係ノ所ニ居リマス者ハ、全部商船學校出身ノ者バカリデス、サウデナケレバ仕事ガ分リマセス、船ガ著キマス所ノ埠頭ニ働イテ居ル者モ皆商船學校出身者デアル、滿鐵埠頭ナドヲ御覽ナサイ、大連ノ埠頭、或ハ羅津ニ行ツテ見レバ分リマス、彼處ニ居ル者ハ船員出身ノ者バカリ、ソレ等ノ人が陸上ニ於テ皆采配ヲシテ、船ノコトニ付テ指圖ヲ

シテ居ル、ソコデ初メテ船ガ圓滑ニ動クノデス、ソレヲチツトモ勘定ニ入レテ居ラレナイデ、船ニ乗ツテ居ル人間ガ九千八百人デアルカラ、其ノ者ダケヲ標準ニシテ置イテ、色々ナ案ヲ御立テニナル、其ノ案ガ間違ツテ居ルコトハ私ハ明瞭ダト思フ、既ニ今モウ足リナイト云フコトガ分ツタナラ何モ四月ノ調査ヲ待ツテ御決定ニナラスデモ宜イデヤナイデスカ、四月ノ調査ト云フモノハ七月、八月デナケレバ明確ナ數字ガ出テ來マセス、ソレカラ考ヘタラ今年ノコトハ間ニ合ハナイ、來年ノコトデハナイ、今年一年デモ早く海員ヲ出サナケレバ間ニ合ハナイト云フノニ、今年一年眠ル必要ハナイ、今カラ直グ出來ル、今カラデモ遅クハナイ、モラ一遍募集スレバ三十五人ヤ三十人ノ生徒ハ募集出來ル、元八十人ノ生徒ヲ養成シテ居ツタ學校ダガ、ソレガ今昭和七年カラ半減サレテ四十人シカ居ナイ、一級八十人ノ收容能力ガアル所ヘ收容シナノデ四十人デ置ク必要ハナイ、是位馬鹿氣ヲ考ヘ方ハマイト思フ、既ニ學校ガアルノデス、設備機關ガアツテ手ヲ舉ゲテ待ツテ居ル、サウシテ人間ガ要ル、大阪商船會社ノ社長ノ村田省藏氏ガ荒木サニ言ハレタサウデス、荒木サニハ沁々私ニ述懐サレタ、アナ

タノ言ツテ居ルコトガ本當カドウカト思ツテ大阪商船會社ノ村田サニ聽イテ見タ所ガソレハ議會デ言ツテ居ル通りデ、文部省ヤ逓信省ガ間違ツテ居ル、ドンナニ人間ガ殖エテモ心配ハアリマセス、日本ハモウ土臺ガ違ツテ來タノダカラ、前ノヤウニ人ガ澤山剩ツテ失職スルヤウナコトハアリマセヌ、マダソシナコトヲ逓信省ヤ文部省ノ役人ハ考ヘテ居ルノカ、困ツタモノダ、斯ウ云フコトヲ言ツタサウデス、人ガドン／＼殖エテ來レバ直グ幾ラデモ使フ途ガアル、私ノ方ダケデモ引受ケマス云フコトヲ村田サンガ言ハレタサウデス、荒木サニ能ク聽イテ下サイ、嘘ダト思ツタラ……、荒木サニハ斯ウ言ハレタ、此ノ良イ材料ヲ君ニヤルト又議會デ使フカラ困ル、是位ハツキリ分ツテ居ルノデスヨ、ドウデス今年ノ中ニ人ヲ殖ヤスト云フコトヲ考ヘテ居リマセヌカ、簡單ニ答辯シテ下サイ

○伊勢谷政府委員 本年度ニ公立商船學校ノ要員ヲ殖ヤス必要アリヤ否ヤト云フコトハ、文部大臣ノ責任ニ於テオヤリニナルコトト思ヒマス、逓信省トシマシテハ、サウ云フ殖ヤス殖ヤサスト云フコトヲ決定スルコトニ付テ、正式ニ此ノ席ニ於テ御返事申上ダラレマセヌ

○小山委員 私ハ今要員ガ間ニ合フカ間ニ合ハナイカト云フコトヲ聽クノデアリマス

○伊勢谷政府委員 其ノ點ニ付キマシテハ、一應ノ數字ト致シマシテハ、要員ガ間ニ合フト云フ數ガ出テ居ルノデアリマス、併シ段々ノ御話デ私共ニ於キマシテモ啓發サレル所ガ多カツタノデアリマス、此ノ點ニ付キマシテハ十分再檢討ヲ致シタイト存ジマス

○小山委員 學生ノ訓練ノコトニ付テ文部當局ニ御質問シマス、先程米窪君ガ朗明會ノコトニ關係シテ、色々學生ノ教育上國體明徴ト云フヤウナ精神教育ヲシテ呉レト御註文ニナリマシタ、此ノ點ニ付テ私ハ興味アル一ツノ事實ヲアナタ方ニ提供シタイ、ソレハ何カト云フト、官立商船學校ノ出身者、主トシテ越中島ノ官立商船學校出身者ガ、ドウ云フ會社ニ入ツテ居ルカト云フト、一番多イノハ日本郵船會社、大阪商船會社、東洋汽船會社ト云フヤウナ會社デアリマス、社外船ニハ或ハ板谷君ノ支配シテ居ラレル板谷商船會社、石原産業會社、或ハ濱根商店、中村汽船、辰馬汽船、南洋郵船會社、北日本汽船會社、共立汽船會社、斯ウ云フ會社ニハ、官立ノ商船學校ノ生徒ハ一人モ居リマセヌ、皆公立デス、サウシテ官立ノ

商船學校出身者ハ、主トシテ日本郵船ガ一番多イ、サウシテ明期會ト云フヤウナ事件ガ起リマシタノハ、是ハ全部官立商船學校出身ノ生徒ナデス、米窪君ガ言ハレタコトハ事實デアルカドウカ知リマセスガ、反産的ナ言辭ヲ弄シタ云々ト云フ重大ナコトヲ言ハレマシタガ、ソレハ日本郵船會社デアツテ、悉ク官立商船學校ノ生徒デアルト云フ不思議ナ事實ヲ御覽ニナル時ニ、私達ハ今マデノ唯學歷ヲ偏重スルヤウナ考ヘ方ハ、根本的ニ御改メニナツタラドウカト思ヒマス、今マデノ人物ハ學校教育ニ依存スルト云フ觀念ニ餘リ四ハレ過ギタ、學課ノ時間ヲ殖ヤスト云フコトダケデ優良ナ者ガ得ラレノデハナイ、船員ハ優秀ナ技術ヲ持ツタ者デナケレバナラス、デアリマスカラ海難率ト云フモノニ對シテハ、何處ノ學校ノ出身者モ非常ニ敏感デス、所ガ海難率ヲ見ルト、官立商船學校ノ出身者ガ一番海難率ガ多イ、不思議ナ統計デアリマスガ、官立商船學校ガ九十二ニ對シテ、公立商船學校ガ七十五デアリ、實地ガ七十五デアリマス、然ルニ此ノ生徒ハドウカト言ヒマスト、現在日本ニアリマス船舶ノ七割マデハ公立學校ヲ出タ者ガ船長ヲシテ居ル、出身者ノ數ハ多イガ、海難ノ數ガ少イ、而シテ

思想的ニハドウカト言ヘバ、今言フヤウナ明期會ノ事實ヲ御考ヘニナル時ニ、其ノ教育ガ果シテ良イカ悪イカト云フコトハ再檢討願ハナケレバナラスト思フ、公立商船學校ヲ出タ者ニハ不思議ニ海難ガ少イデヤナイカ、其ノ公立ノ商船學校ヲ廢シテ官立ニシタリ、官立ノ商船學校ニドシ人ヲ殖ヤサウトナサツテ居ル文部當局ノ御心持ガ、私ニハ分ラナイ、デアリマスカラ若シ是カラ商船教育ヲ完全ニヤラウトスルナラバ實業學務局長ハ、是非公立商船學校ニ一通行ツテ、ズツト一廻リシテ見テ下サイ、サウシテ視察ヲシタ上デ色々ナ案ヲ御立テ願ヒタイト思フ、サウデナク、唯縣廳ナドノ報告書ヲ見タダケデ、色々ナ案ヲ御立デニナルカラ色々間違ヒガ起ルノデハナイカト思ヒマス、何處ノ學校ガ良イトカ悪イトカ、學校ニ點數ヲ付ケルト云フヤウナコトハ愚ノ骨頂ダト思フ、此ノ點私ハ文部當局ノ御返事ヲ求メナクテモ宜イガ、特ニ學校教育ト云フモノニ對シテハ、ドウ云フ結果ニナツテ居ルカト云フコトヲ慎重ニ御考慮ヲ願ヒタイ

ソレカラ船舶融資ノ件ニ付テ御尋ヲ致シタイノデアリマスガ、船舶ノ融資ハ千噸以下ノ船ニハ融資ヲシナイヤウナ御答辯デアリマスガ、是ハ融資ヲナサルノデアリマスカ、ナサラスノデアリマスカ、伺ヒタイ

○伊勢谷政府委員 船舶建造融資ノ範圍デゴザイマスガ、是ハ千噸以下ノ船ニ對シマシテモ、ヤルコトニ考ヘテ居リマス

○小山委員 小型船ノ建造費ガ大型船ニ比ベテ高イト云フコトハ、是ハ分ツタコトデアリマス、從來ハ大型船ニバカリ保護ノ手が非常ニ厚カタヤウニ思ツテ居リマス、小型船ノ方ハ棄テテ顧ミラレザル憾ミガアツタヤウニ考ヘマス、此ノ點ハ特ニ御考慮ヲ願ツテ置キタイト思フデアリマスガ、主トシテ問題ハ之ヲ建造シマス所ノ資金ガ、例ヘバ貸シマシテモ中小ノ造船所ニ對シテハ鋼材ノ配給ト云フモノガ極メテ不足ナノデス、大キイ方ノ造船所デアルト、色々ナ關係カラ力ヲ持ツテ居リマスカラ、相當鋼材ノ配給ヲ受ケルデアリマセウガ、中小ノ造船所、殊ニ帆船船トカ小サナ二十噸以下ノ船ヲ造ルヤウナ造船所ト云フモノハ、力ガ無イカラ恐ラク慘憺タル狀態ニ在ルノデアラウト思ツテ居リマスガ、斯ウ云フモノニ對シテモ、特ニ鋼材ノ配給ト云フヤウナコトニ付テ御配慮ヲ願ヒタイト思ヒマスガ、當局ノ御意見ハ如何デアリマスカ

○伊勢谷政府委員 洵ニ御尤ナ御意見ト存

ジマス、從前ニ於キマシテハ、船舶建造金融ハ主トシテ外貨獲得ト云フ意味合カラ考ヘマシタ結果、四千噸ト云フコトニシテ居ツタノデアリマスガ、東亞ニ於ケル事情モ變化致シマシテ、支那方面ニ對スル船舶ノ建造ヲ必要ト致シマスカラ、特ニ其ノ建造スル噸數ヲ考慮シタ次第デアリマス、而シテ之ガ建造ニ要スル資材ニ付キマシテハ、仰セノ通り斯ノ如キ船ハ是ハ急速ニ建造ヲ遂行スル必要ガアルト認メマスカラ、特ニ意ヲ用ヒマシテ、其ノ建造ガ速ニ遂行サレルヤウニ特別ナル配意ヲ致ス積リデゴザイマス

○小山委員、大變結構ナ御趣旨ノヤウニ拜承致シマス、ソレカラモウ一ツハ、私ハ此ノ間戴イタ資材カラ計算シテ見マス、非常ニ興味アル數字ガ得ラレノデアリマス、此ノ間戴イタ資料ノ中カラ五噸以上二十噸未滿ノ機帆船及ビ帆船ノ補助機關付ノ船、斯ウ云フモノヲ調べテ見マス、其ノ隻數ガ機帆船ノ方デ四千四十八、補助機關付帆船ノ方デ三萬八千九百隻、其ノ總數ガ合計ヲシテ四萬二千三百三十八隻デアリマシテ、其ノ噸數ガ位アルカト云フト、五十六萬噸アリマス、此ノ五十六萬噸ガ一體ドノ位ノ荷物ヲ積メルカト云フト、總噸數ノ三

倍ノ品物ガ積メマスカラ、約千六百八十萬噸、此ノ千六百八十萬噸ガ、一年ニドノ位ノ荷物ヲ運航スルカ、一箇月内海五航海アタリトシテ勘定シテ見マシテモ、ドノ位ノ荷物ヲ運航スルカト言フト、一億八十万噸ノ荷物ヲ運シテ居ル、五噸カラ二十噸位ノ小ナ船、遞信省カラ全ク見捨テラレテ居ル船ガ、斯ナニ澤山ノ荷物ヲ運シテ居リマス時ニ、斯ウ云フ小サイ船ノ建造ノ爲ニ、特別ナ融資ヲオヤリニナル御方針ハナイカ、承リタイ

○伊勢谷政府委員 只今ノ所左様ナ御示シノヤウナ船ニ對シテ融資ヲ致スマデニハマダナツテ居リマセヌ

○小山委員 サウシマスト管船局長ハ千噸以下ノ船ニモ融資ヲスルト仰シヤイマシタガ、ソレハ一體何噸位ノ船ニ融資ナサル御考デアリマスカ

○伊勢谷政府委員 私ノ申上ゲ方ガ惡カッタカト思ヒマスカ、千噸以下ト申シマスノハ、主トシテ「シー・トラック」ヲ指シテ居リマス

○小山委員 更ニモウ一點伺ヒタイノハ、此ノ一元ノ海運業者ノ組合ヲオ作りニナルト云フ風ナ、政府ノ御方針デアリマスカ、此ノ一元ノ船舶業者ノ組合ヲオ作りニナル

ルト云フコトハ、小サナ船モ大キナ船モ全部悉ク寄セテシマツテ日本デ一ツノ單一組合ニスル、斯ウ云フ風ナ御方針デアリマスカ、ソレヲ伺ヒタイ

○伊勢谷政府委員 船ノ種類ニ依ツテ組合ヲ結成セシメントスルモノデアリマシテ、例ヘバ機帆船ト大型船トノ間ニ組合ヲ結成セシムルヤウナ意圖ハ今持チマセヌ

○小山委員 サウシマスト、遞信省ノ御考デハ汽船ト機帆船ト或ハ曳船舢舨ト斯ウ云フ風ニ御分ケニナツテ組合ヲオ作りニナル御積リデアリマスカ

○伊勢谷政府委員 大型船、小型汽船、機帆船、帆船、舢舨、舢舨、斯様ナ區別ニ依リマシテ結成セシメタイト考ヘテ居リマス

○小山委員 其ノ大型船、中型船、小型船ト言フアナタ方ノ定義ハ、一體何噸位ヲリニナルノカ、私ニハ其ノ大型小型ト云フノガ分ラナイ

○伊勢谷政府委員 大體ニ於キマシテ、汽船ニ付キマシテハ業者ノ實情カラ見マシテ、一千噸以上ノ船ヲ持ツ者ヲ以テ組合ヲ作ル方ガ宜イト云フ議論ト、五百噸若クハ二百五十噸以上ノ「シー・トラック」マデモ加ヘタルモノヲ以テ、所謂汽船ノ方ノ組合ヲ作ル方ガ宜イト云フ考ヘ方トニツアリマス、隨

ヒマシテ其ノ點ニ付キマシテハ、篤ト業者ト熟議ヲ重ネマシテ、實際ノ實情ニ合フヤウニ致シタイト考ヘテ居リマスカラ、今カラ大型船、中型船、小型船ノ區別ヲハツキリ立テテ組合ヲ結成スルト云フコトハ、明ニ申上ゲ兼ネルノデアリマシテ、篤ト業者ト相談致シマシテ、實情ニ適シタ本當ニ満足ナ解決ヲ圖リタイト考ヘテ居リマス、而シテ何レニモセヨ二百五十噸以下ノ汽船ニ付キマシテハ、是ハ小型汽船ト致シマシテ組合ヲ結成スル方ガ宜シカラウト、斯様ニ考ヘテ居リマス

○小山委員 ドウモ御話ノ要領ガ分ラナイノデスカ、大型船ハ千噸ヲ以テ分ケルカ、五百噸ヲ以テ分ケルカ、ソレハ分ラナイガ、併シナガラ二百五十噸以下ノ小サナ船ハ別ニ組合ヲ作ラセルト、斯ウ云フヤウナ御意向デスカ

○伊勢谷政府委員 サウデス

○小山委員 サウスルト、例ヘバ出來ルトスレバ、組合ハ三ツニナル譯デアリマスカ、大型船ト中型船ト二百五十噸以下ノ船ト三ツノ組合ガ出來ル譯デアリマスカ、伺ヒタイ

○伊勢谷政府委員 私ノ申上ゲマシタノハ二百五十噸以上ノ船ノ船主ヲ全部集メル方

ガ宜イカ、或ハ五百噸デ作ツタ方ガ宜イノカ、千噸デ作ツタ方ガ宜イカト云フノハ、現在業界ニ色々議論ガアルノデアリマス、ソレハ能ク私共ノ方デモ業者ト熟議ヲ遂ゲマシテ實情ニ適スルモノヲ拵ヘタイト云フ意味デアリマシテ、隨テ出來マスカ場合ニ、三ツノモノガ出來ルト云フニアラズシテ、例ヘバ千噸以上ノ汽船、千噸以下、或ハ五百噸以上、五百噸以下、或ハ二百五十噸以上トカ、二百五十噸以下トカ、斯様ニ分ケタイト思ヒマス

○小山委員 此ノ點ヲ私ガ詳シク伺ツテ居ルノハ、中々是ハ重要ナ問題ニナツテ來ルト思フノデアリマス、ナゼカト云フト小型船ト大型船トハ使命ガ全ク違フノデス、ソレカラソレヲ保有シテ居リマスル船主モ非常ニ違フ、從來ノ近海ノ港々ヲ歩いて居リマスル船ト云フモノハ、力ガ弱イカラ今マデハ殆ド荷主ニ左右サレテ居ツタ、船主トシテ權力ヲ發揮スルト云フヤウナコトハ逆モ出來ナイ、荷主ノ殆ド當テガイ扶持同様に運賃ヲ貰ツテ、漸ク働イテ居ツタ状態ナノデアリマス、ソレガ大型船ニナルトサウデヤナイノデス、大型船ニハ大キナ一ツノ組合ヲ作ツテ居リマスカラ、運賃ヲチャント決メマシテ、ソレデナケレバ荷物ヲ積マ

スト云フコトニナルカラ、勢ヒ力ノアル所ニハ今度ハ荷主ノ方ガ泣カサレルト云フ結果ニナル、デスカラ此ノ二ツノモノハ同ジヤウナ船デアリマスケレドモ、全ク立場ヲ異ニシテ居ル、利害關係ヲ全ク異ニシテ居ル、ソレデ此ノ小サイ船ハ大キナ船ニ荷物ヲ出セナイ所ノ、即チ大キナ船ニ荷物ヲ積マウトシマシテモ、大キナ船、例ヘバ五千噸ノ船ハ一杯ニスルニハ澤山ノ場所カラ荷物ヲ集メテカラ送ルカラ、向フヘ届クノニ相當目ガ掛ツテ遅レルノデアリマス、小サイ船ニナリマス、僅カ五十噸ニ百噸位ノ荷物ヲ積ムノダカラ、荷主ハ直グニ積メルカラ極メテ便宜ク、「タクシー」ヲ使フヤウニ使ハレルノデアリマス、ソレデアリマスカラ、使命ガ全ク違ツテ居ルノデス、殊ニ今度ノ戰爭ガ始ツテカラドウ云フ船ガ一番働イテ居ルカト言ヒマス二百噸以下二十噸以上ノ船ガ積ンデ居リマス所ノ荷物ノ噸數、之ヲ一寸計算シテ見レバ直グ出テ來マスガ、約四億噸ノ品物ヲ一箇年間ニ積ンデ、サウシテ日本ノ港々ヲ廻ツテ居ルノデス、デスカラ是ガ一番大事ナモノデス、大型船ガ續々ト御用船トシテ徵募サレテ、小型船モ徵募サレマシタガ、ソレニ依ツテ日本ハ船腹ガ不足シタケレドモ、尙ホ荷物ガ廻ッ

テヤツテ居ルノハ、斯ウ云フ小サナ小型船ガ五万何千隻、五噸以上二十噸マデノ船ガ四万二千隻、ソレカラ二十噸以上百噸マデノ船ガ三万三千隻、斯ウ云フ状態ニナツテ、ソレガ日本ノ近海ヲ廻ツテ居ルガ爲ニ運賃ガサウ驚クヤウナ暴騰ヲシナイデ居ル、其ノ原因ハ此處ニアルト云フコトヲ私ハ考ヘルノデアリマス、是ハ戰爭ガ長引ケバ長引ク程斯ウ云フ船ヲ保護シテ、之ニドン補助金ヲ與ヘテ、斯ウ云フ船ヲ殖ヤシテ行クト云フコトガ運賃ヲ低下サセル一番大切ナコトダラウト思ヒマス、物資ヲ圓滑ニ配分スルト云フコトノ上カラモ是ハ最モ大切ナ問題ダト思フ、寧ろ今日デハ大キナ船ヨリモ小サイ船ニアナタ方ノ方デ全力ヲ集中サレテ保護助成ニ當ラレルコトガ一番宜イデヤナイカ、サウ云フ意味ニ於テ若シ此ノ法案ガ出來タモノデアルトスレバ、遞信省トシテハ極メテ達見デアルトスラ私ハ思ツテ居ル、併シナガラ今言フ通り總噸數千噸ヲ基準トスルカ、總噸數千五百噸ヲ基準トスルカト云フコトハ、極メテ重大ナコトデアリマス、ソレガ爲ニ一萬噸、五千噸ト云フ大キナ船ノ船主協會ニ小サナ船ガ併合サレテ單一組合ニナリマス、噸數デ表決權ガ決メラレルカラ大キナ船主ニ好キナヤ

ウニヤラレテシマフ、今度ハ噸數ヨリモ船主ノ頭數デ表決權ガ決メラレマス、小サナ船主ガ大キナ船主ヲ勝手ニイデクルト云フコトニナル、隨ツテ大キク日本全國ヲ打ツテ一丸トスルト云フヤウナコトハ、紙ノ上カラ考ヘレバ極メテ組合ヲ強化シタヤウニ考ヘマスガ、事實ハ組合ヲ非常ニ脆弱ニスル、ドウシテモ利害關係ガ相反シテ居ル、サウシテ一方ノ大キナ方ハ補助ヲ受ケル、小サイ方ハ保護ヲ受ケナイ、又融資ニシテモ小サイ船ニハ融資ガ來ナイ、小サイ船ニハ乗船獎勵金モ、航路補助金モ來ナイト云フコトニナルカラ、利害關係ガ全ク離レテ居ル、大キナ船ヲ持ツテ居ル船主ト、小船ヲ持ツテ居ル船主ト、利害關係ガ相反シテ居ルモノヲ一ツニスレバ、圓滿ニ組合トシテ發達シナイ、ソコデ之ヲドウスルカト云フト、利害關係ガ相反シテ居ル所、使命ガ違フ所デ之ヲ分ケナケレバナラス、サウスルトソコデ千噸トカ、千五百噸トカ云フ基準ガハツキリ出テ來ル、五百噸ガ宜シイトカ、七百噸ガ宜シイトカ云フヤウナ概念カラ、唯數字ヤ何カニ囚ハレタダケデ一緒ニシマスト、後デハ取返シノ付カナイヤウナ紛議ノ種ニナル、此ノ點ハ一ツオヤリニナル時ニ本當ノ業者ノ狀況ヲ御覽ニナツテ——ア

ナタ方モ國家ノ爲ニオヤリニナルノデスカラ、業者ノ狀況ヲ能ク御覽ニナツテ、圓滿ニ發達出來ルヤウナ工合ニシテ戴キタイ、從來動モスルト船主協會ノ力ガ遞信省ニ強ク加ハツテ居リハシナイカ、ドツチカト云フト郵船會社、商船會社ノ船舶課デ拵ヘタ案ガ、二月カ三月經ツト遞信省ノ案トナツテ現レテ來ルノデハナイカト云フ疑スラ私ハ持ツタ時ガアル、デアリマスカラ何トナシニ大會社ト云フモノハ遞信省ニ對シテハ強イ力ヲ持ツテ居ルト云フ風ニ考ヘマスノデ、船主協會ノミニ、極メテ有利ナ、コツチニ偏重シタヤウナ案ニナルト隨テ不平ガ起リマス、一方ニ偏重スルコトハ平沼内閣ノ所謂總親和デハナイノデアリマスカラ、ドウカサウ云フ時ニハ圓滿ニ行カウニ、特ニ此ノ點ハ政治的ニモ、事務的ニモ、管船局長ノ御考慮ヲ願ヒタイト思フノデアリマスガ御所見ハ如何デアリマスカ

○伊勢谷政府委員 組合ノ作り方ニ付テノ御所見ハ全ク同感デアリマス、左様ナ認識ノ下ニ組合ノ結成ヲ圖ラント思フモノデアリマス、此ノ點ニ付キマシテハ御話ノヤウナ點ニ特ニ十分留意致シマシテ、十分ナ機能ヲ發揮シ得ルヤウニ心懸ケタイト存ジマス

○小山委員 ソレカラ二十噸以下位ノ小サ

ナ機帆船デアリマスガ、是等機帆船ノ保險料金ガ非常ニ高イノデアリマス、ナゼカト云フト危險ニ多ク曝サレルノデアリマスカラ、ソレガ爲ニ保險料金ガ非常ニ高イノデアリマス、之ヲ何トカシテモツト安イ保險料金ニスルヤウナ方法ハナイデセウカ、或ハ政府デ何等カノ補助ヲ加ヘテ、サウシテ斯ウ云フヤウナ船ヲ持ツテ居リマスモノハ、非常ニ財政的ニモ不自由ナ連中ガ割合ニ多イノデアリマスガ、サウ云フモノニ船ガ造レルヤウニ、保險金ガ樂ニ掛ケラレルヤウニ之ヲ導イテ戴クヤウナ方法ハアリマセスデセウカ、伺ヒタイ

○伊勢谷政府委員 二十噸未満ノ帆船ニ對スル保險ノ問題デアリマスガ、是ハ商工省所管ニナツテ居リマスル保險ノ問題ニナルノデゴザイマスルガ、之ヲ海上保險ノ制度トシテヤツテ參リマスルコトガ出來マスレバ非常ニ好都合ダト考ヘマス、此ノ點ニ付キマシテハ商工省當局トモ十分相談ヲシテ見タイト存ジテ居リマスルガ、併シ海上保險ノ制度トシテ之ヲヤツテ行キマスルコトニ付キマシテハ、相當ノ難點ガアラウトモ推察致サレテ居リマス、隨テ特殊ナルヤリ方ヲ考案スル必要ガアルデヤナイカト云フ風ナ氣持ヲ私ハ持ツテ居リマスガ、此ノ點ニ

付キマシテハ私モマダ研究ガ足ラナイノデアリマスカラ、今後大イニ研究シテ見タイト思ヒマス

○小山委員 機帆船ノヤウナモノハ全國的ニ一元的ニ之ヲ綜合統一シク場合ニハ、組合ノ相互保險ノヤウナモノヲ考ヘテ見タラバ私ハ大變宜イデヤナイカト思ヒマス、モウ一ツハ機帆船ノ、狀況ヲ調べテ見マス、遞信省アタリガ燃料ノ統制ナドヲヤルヤリ方ヲ見マスルト實ニ噴飯ニ堪ヘナイ、寧ロ滑稽デ吹キ出サザルヲ得ナイヤウナコトヲ商工省ノ役人ガ眞面目ニヤツテ居ルヤウナコトガ多イノデアリマス、例ヘバ陸ニ走ツテ居リマスル所ノ自動車ト同様ニ、此ノ海上ニ動イテ居ル所ノ發動機船ニ焚キマスル所ノ重油ノ消費統制ヲヤツテ居ル其ノヤリ方ヲ見ススト、例ヘバ東京カラ若松マデ一箇月ニ一往復乃至二往復スル所ノ船、ソレニ要求スル所ノ重油ハドノ位カト云フコトヲ書イテ出サセル、出サセテ置イテ其ノ二割位シカ呉レナイ、船ハ御承知ノ通り燃料ヲ呉レナケレバ動ケナイ、又キチ／＼一杯デモ動ケナイ、例ヘバ消費量ガキチ／＼一杯デアツテハ、一日ヤ二日ノ豫備ヲ持タナケレバ危險デ海上ヲ動ケヌニモ拘ラズ豫備ヲ持タセナイ、サウ云フヤウナコトカラ

到頭終ヒニハ航海ヲ休ミマシテ、四回走ツテ居ラレタ所ヲ二回ニスルト云フヤウナコトニナリマシテ、其ノ結果ハドウナツタカト云フト、九州邊カラ石炭ヲ運搬シテ來テ

貫ツテ居ル所ノ軍需工業會社ニ石炭ガ少シモ行カナクナツテ、材料、資材ノ運搬モ出來ナクナツタト云フヤウナコトカラ、生産擴充ガ出來ナイト云フノデ騒イデ參リマシテ、陸軍ノ方カラ色々話モアツタコトデアリマセウ、商工省ガ今度慌テテ石炭ヲ積ンデ居ル船ダケハ宜シイト云フ風ナコトヲ言出シテ居ル、斯ウ云フ點ニ對シテハ商工省ガ分ラナイノハ私ハ當然デアラウト思ヒマスガ、此ノ重油ノ統制ト云フヤウナコトハ管船局ノ方カラ之ヲオヤリニナル譯ニハイカナイモノデセウカ、將來斯ウ云フ問題ガ幾多出テ來ルデアウト思フ、私達ニモツト理想的ニ言ハセレバ、一定量ノ重油ハ積マセデモ、豫備ノ「バーレル」ヲチャント船ニ載セテ置イテ、サウシテ非常時ノ時ニハ其ノ「バーレル」ヲ封印ヲ切ツテ使ツテモ宜イケレドモ常時ハソレハ封印ヲ付ケテ置ク、ト云フヤウナコトニデモスレバ、餘程私ハ其ノ點ハ緩和スルト思フノデス、ケレドモ、斯ウ云フコトハ商工省デハ逆モ考ヘラレナイコトナノデスガ、サウ云フ統制ノ點ニ對

シテハ商工省ヨリモ寧ロ管船局ノ方ガ主トシテオヤリニナルト云フ風ニ御考ヲ願ヒタイト思フノデアリマスガ、御所見ハ如何デアリマスカ

○伊勢谷政府委員 船舶ニ對スル石油規正ニ付キマシテハ、御説ノ通り船舶ト陸上輸送機關トハ大ニ其ノ性質ヲ異ニシ、海上ノ荷動キハ船ナクシテハ行ハレナイト云フコトハ陸上ト非常ニ趣ヲ異ニシテ居ル點デアリマス、隨テ從來原則トシテ其ノ點ヲ高調致シテ、船舶ニ對シテハ是デモ今ヤツテ居ルノハ隨分特別ナヤリ方ヲシテ貫ツテ居ルノデアリマスガ、是ガ實施ニ當リマシテ從來組合組織ガ十分ニ存在シナイ爲ニ、非常ナル不便ガアツテ、管理局ガ幾ラ手ヲ出シテ其ノ適切ナル規正ヲヤラウトシテモ、中爲シ得ナクツタノデアリマス、此ノ度此ノ組合法ガ出來マスレバ左様ナル手段ハ初メテ茲ニ組織的ニヤリ得ルト云フコトニナルノデアリマス、其ノ方法ニ付キマシテハ、御話ノ通りニ十分ナル努力ヲ試ミタイト考ヘテ居リマス

○小山委員 先程米窪君カラ普通船員ノ養成ト云フコトニ付テ話ガアリマシタガ、國營デナイ所ノ普通海員ノ養成所ト云フモノハ全國ニドノ位アリマスカ伺ヒタイ、例ヘ

バ愛媛縣ノ三津ヶ濱ノ普通船員養成所ト云ツタ、縣ノ經營ノ普通船員養成機關ハドノ位アリマスカ、三等機關トカ普通船員ノ養成機關ハサウ云フ縣ニアリマスル養成機關ヲ動員シテヤルコトガ宜イノデナйка、新シクモノヲ色々作ルヨリハ從來アルモノヲ助成シ、保護シ、盛ナラシメタ方ガ宜イヤウニ考ヘマスカ、如何デスカ

○伊勢谷政府委員 府縣ノヤツテ居リマスモノデ一番大キイノハ御承知ノ大阪ノ高等海員養成所、其ノ他ニ付キマシテハ農林省ノヤツテ居リマス水産關係ノ技術員養成所デアラウト思フノデアリマス、是ガ急ニ澤山ノ船員ヲ必要ト致シマス場合ニハ、御話ノヤウニ新ニ組織ヲ作ルト云フヨリモ、既設ノ設備ヲ利用シ、經驗ヲ利用スルコトガ遙ニ能率ヲ擧ゲ得ルト思ツテ居リマス、左様ナ點ニ付テ特ニ考慮ヲ致シタイト思ツテ居リマス

驗カラ徴シテ見マスルト、最モ高級船員ヲ惱マセタモノハ海員組合デス、海員組合ガ團結ヲシテ高級船員ニ向ツテ絶エザル闘争ヲ仕掛ケテ參リマシタ、ソレガ爲ニドノ位大勢ノ高級船員ガ犠牲ニナツテ居ルカ分ラナイ、ソレハ海員組合ガ決議ヲ以テ船主ニ迫ツテ船長、機關長ノ下船ヲ命ゼシメル、其ノ要求ニ應ジナイ場合ハ直チニ船ヲ停メルト云フヤウナ強硬ナ態度デ、ドノ位今日マデ横暴ヲ極メタカ知レナイノデアリマス、然ルニ今日其ノ組織ヲ打破ラウトシテ立ツテ居ル所ノ反對ノ勢力ニ對シテ、政府ニ其ノ取締ヲ求メルト云フコトハ、私ハ少々筋ガ違ツテ居ルノデハナイカト思ツテ居リマス、明朗會ノ様子ハ分リマセス、ヤツテ居ル實際ノコトハ知リマセス、併シナガラ其ノ頒布シテ參リマスル書物等ヲ通ジテ見マスルト、現在ノ日本ノ海員組合或ハ海員協會ハ事變ヲ通ジテ考ヘテモ、是ハ實ニ國家ノ爲ニ一旦緩急ノ場合ニハ第二ノ豫備海軍ト同様ナル働ヲシナケレバナラス所ノ特殊ノ使命ヲ持ツテ居ル船員デアリマス、ソレガ今日マデノ海員組合或ハ海員協會ノ發達ノ經過ヲズツト見テミマスルト、事變ガ始マリ、或ハ議會ノクビニ思想的ニ轉向シ、或ハ其ノ聲明ヲノベツ慕ナシニヤツテ居ナ

ケレバ、世間ニ認メラレナイヤウナ、サウ云フ思想ノ保持者ニ、又サウ云フヤウナ政黨員ニ其ノ幹部ガ悉ク牛耳ラレテ居ル、其ノ組合ノ幹部ハ皆純然タル黨員ナンデス、ソレガ事變ガ起リ、或ハ議會ノクビニ何時デモ思想ノ塗替ヲヤリ、塗替ヲヤラナケレバ人ニ信用サレナイ、體ガ危險デアル、不安ヲ感ズルト云フヤウナ指導者ノ指導シテ居ルヤウナ組合ハ、斷ジテ改メナケレバナラスト云ツテ居ル所ノ勢力ガアルノデアリマシテ、ソレニ依ツテ色々ノ意味合ノセリ合ガアルモノトスルナラバ、政府當局ハ果シテ何レヲ探ルカ、是ハ唯海員組合ノ方カラ、斯ウ事實ガアツタカラト云ツテ捻ヂ込マレタ時ニハ、遞信省ノ管船局長ハ御尤ダカラソチラノ方ノ御考ノ通り致シマス、又反對ノ勢力カラサウ云フ陳情ガアレバ尤ダカラサウ云フヤウニ致シマセウト云フヤウナコトデナシニ、十分ニ調査シテ國家ノ爲ニ正シカラザルヤウナ團體ガアルナラバ、管船局ガ乗出シテ叩キ潰シテモ宜イノデヤナイカト私ハ思ツテ居ルノデアリマシテ、海員組合ノ如キハ今ノ時代ニハ極メテ重要ナ仕事ヲシテ居ル、御用船ノ乗組員ナンカハ一切ノ機密ヲ保持シナケレバナラスノデス、ソレデアリマスカラ斯ウ云フヤウナ重要仕事ニ携

ハツテ居ル所ノ海員、其ノ大キナ團體ノ海員組合ナント云フモノハ、政府自ラ之ヲ指導スルヤウナコトニサレタラドウカ、今マデノヤウナ自主的ナモノニシテ、サウシテ右翼ニ轉向スルノカ、左翼ニ又轉向スルカ分ラナイヤウナ不安ヲ覺エサセルヤウナ組合ニシテ置カナイデ、政府ガ積極的ニ乗出シテ自分ノ力デ之ヲ指導シテ行ク、惡イモノハドソノ内容ヲ改メテ行クト云フ位ニ、積極的ニ指導ヲナサツテモ宜イデヤナイカト思ツテ居リマス、是ガ果シテ管船局ノ領分デアルカ領分デナイカ知リマセス、知リマセスガ、少クトモ國家ノ爲ニソレダケノ親切ヲ以テ、關係當局トモ御相談下サル位ノコトハアツテモ宜イデヤナイカ、神戸附近ノ一般ノ噂ハ、遞信省ハ何ト云ツテモ海員組合ノ肩ヲ持ツテ、サシテドソナ改革運動ガ起ラウトシテモ、海員組合ノ肩ヲ持ツテ居ルノダトスラ言ハレテ居ル、海員組合ト思想系統ヲ同ジクシテ居ルノダトスラ言ハレテ居ル、デアリマスカラ此ノ點ハ特ニ私ハ特別ナ御考慮ヲ願ツタ方ガ宜イノデヤナイカト考ヘテ居リマスガ、御所見ハ如何デアリマスカ

○伊勢谷政府委員 海員間ニ存在シテ居ル所ノ團體、特ニ會社ノ内部ニ存在シマスル所ノ團體ノ行動ニ付キマシテ、當局ト致シマ

第六類第二十六號 船舶建造融資補給及損失補償法案外二件委員會議錄 第五回 昭和十四年三月十七日

シテ批評ヲ致シマスコトハ避ケタイト存ジマス、唯當局ト致シマシテハ、海員間ニ於テハ是ハ普通海員デアリマシテモ、是ガ高級海員デアリマシテモ、各、親睦ヲ厚ウシテ御互ニ相扶ケ協力シテ我國ノ最モ重要ナル船舶ノ運航ニ些ノ支障ナカラシメンコトヲ希望シテ居ルノデアリマス、隨ヒマシテ海員間ニ摩擦相剋ノアリマスルコトハ、是ハ洵ニ憂フベキ現象デアリマスカラ、左様ナル摩擦相剋ヲ防止スルガ如キ事柄ニ付キマシテハ、十分ナル注意ヲ拂ヒタイト考ヘテ居リマス、サウシテ又船主ト船員トノ關係ニ於キマシテモ、船主ハ船員ヲ見ルコト恰モ子供ヲ見ルガ如ク、船員ハ船主ヲ見ルコト恰モ慈父ヲ見ルガ如ク、其ノ間最モ宜キ狀態ノ現ハレマスルヤウニ指導致ス積リデ居リマス、而シテ此ノ組合ト云フモノヲ如何ニ指導スルカト云フコトニ付キマシテハ、是ハ海上ニ於ケル船員ガ最モ能率ヲ上ダテ、最モ協力的ニ船主ト協力シテ海運ヲ發達セシムルヤウニ、組合ヲ德憑シタイト考ヘテ居リマス

○小山委員 是デ質問ヲ終リマス

○中川委員 此ノ間ノ山本君ノ質問サレタコト、日本海航路ノコトニ付テ簡單ニ補足シテ置キタイノデスガ、一寸御願シタイ

○野田委員長 中川君

○中川委員 先般委員會ニ於キマシテ、山本委員ノ質問ニ對シ、當局カラ目下計畫中ノ日本海統制國策海運會社ニ、東北及ビ北海道ト北朝鮮間ノ航路ニ付キマシテハ、「ローカル」線ノ爲ニ考慮ヲ拂フト云フ御答辯ヲ承ツタノデアリマスガ、國策トシテ日鮮滿ノ經濟ノ發展消長ハ、單ニ伏木、新潟、敦賀ダケデハナク、日本海ノ各港、即チ秋田竝ニ小樽港等ニ發展ヲ均霑セシムルコトガ、極メテ公平ナ行キ方デアリ、又當然ナ措置デアルト存ズルノデアリマス、殊ニ此ノ頃ハ七尾ヲ中心ト致シマシテ、新潟、船川、函館、小樽ノ浦鹽斯德線ノアツタ地點デモアリマス、東北ト北海道ト朝鮮、滿洲ノ間ニ於キマシテハ、貨物ヲ本位ト致シマシテ、東北振興策ト相扶翼シ合ツテ定期航路ヲ設ケルコトハ、支那ノ物資移動ヲ獎勵スルコトトモナリ、國家トシテ最モ必要ナ事柄ダト存ズルノデアリマス、此ノ點ニ關シテ政府ノ御所見ヲ承ツテ置キタイノデアリマス

○伊勢谷政府委員 本件ニ關シマスル所見ハ前申述ベマシタル通りデゴザイマス、只今ノ御意見ハ最モ有益ナ御意見トシテ篤ト拜承致シマス

○中川委員 ソレカラ此ノ組合ヲ結成スル

ニ付キマシテ只今小山君ノ質問ニ付テ管船局長ノ答辯ハ能ク業者等ノ事情ヲ調べ、實際ニ適合シタヤウニヤラウト云フコトデアリマスカラ、ソレハ極メテ適當ナ通信省ノ措置ダト存ズルノデアリマス、唯此ノ「タシカ」船ノ如キハ、小型船ハ申スマデモナク大型船ノ如キモノハ殆ド只今ノ所デハ軍ノ方ニ徵發サレテ居リマス、自ラ一般ノ貨物船トハ使用ノ狀態ガ違ツテ居ルノデアリマス、是ハドウ云フ風ニサレルノデアリマスカ

○伊勢谷政府委員 只今ノ御意見ハ全ク同感デアリマス、隨ヒマシテ組合結成ニ付キマシテモ全然別箇ノモノトスルカ或ハソレヲ大型汽船ノ中ヘ入レマスカ、特ニ別ニ部ヲ設ケマシテサウシテ支障ナキヤウニ致シマスカ、此ノ點ニ付キマシテハ十分研究ノ上デ結論ヲ付ケタイト存ジマスルガ、只今ノ所一般汽船ト「タンカー」トノ間ニハ御説ノヤウニ異ル點モアリ、亦似通フ點モアルノデアリマスルカラ、大型汽船ノ範疇ニ入レマシテ、別箇ノ部ヲ作リマシテ、其ノ特質ヲ損セザルヤウニシマスルコトガ一番適切カト考ヘテ居リマス、此ノ點ニ付キマシテハ尙ホ篤ト熟慮致シタイト存ジマス

○中川委員 ソレカラ他ノ方カラ質問シタ

カモ知レマセヌケレドモ、組合ノ主體ヲ何處ニ置カレル方針デアリマスルカ、一寸承リタイノデアリマス

○伊勢谷政府委員 組合ノ主體ト申シマス、組合ノ事務所ヲ何處ニ置クカト云フ御質問ト存ジマスガ、組合ノ事務所ニ付キマシテハ組合自體ノ決スベキ事柄デアリマシテ、政府ニ於キマシテハ特殊ノ理由ト事情ノ存セザル限り、特別ナル註文ヲ爲サザル方針デゴザイマス

○野田委員長 是ニテ通告者ノ質疑ハ全部終了致シマシタ、此ノ程度ニ於テ質疑ヲ打ちリタイト思ヒマスガ、御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○野田委員長 御異議ガナケレバ左様ニ決シマス、明日午後一時カラ討論ニ移リマス、御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○野田委員長 デハ左様ニ決シマス、本日は是ニテ散會致シマス

午後五時二十二分散會